M-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
(環境マーク)	**環境** 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
ⓘ	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/hを超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i メルセデス·ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを操作するときの注意

セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは（▷123、131 ページ）をご覧ください。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込むおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけラゲッジルームに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物は左右のウインドウより下の位置に積んでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用して、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷47 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席に装着してください。

  やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。

- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートを最後部にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- リアドアのチャイルドプルーフロック（▷53 ページ）やリアドアウインドウのセーフティスイッチ（▷53 ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ * の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「走行と停車」もあわせてお読みください（▷123 ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、シフトポジションが P 、N 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

シフトポジションが P になっていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションを D、R にするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- 急な上り坂で発進するときは、パーキングブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確認してからパーキングブレーキを解除して発進してください。

走行中

- シフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂での停車時、後退しようとする車を、アクセルペダルを踏むことにより停止状態を保たないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 完全に停車する前に、シフトポジションを P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを P か N に戻すように心がけてください。R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込むと、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用し、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- 燃料やオイルなどの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。純正でない、または承認されていない製品を使用すると、エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。

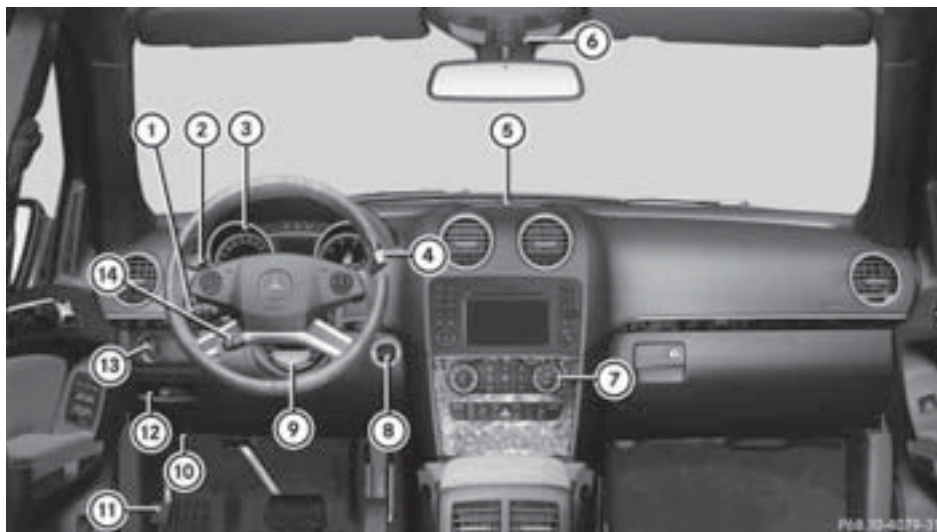
データを使用して、車両の過去の動きをさかのぼって調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

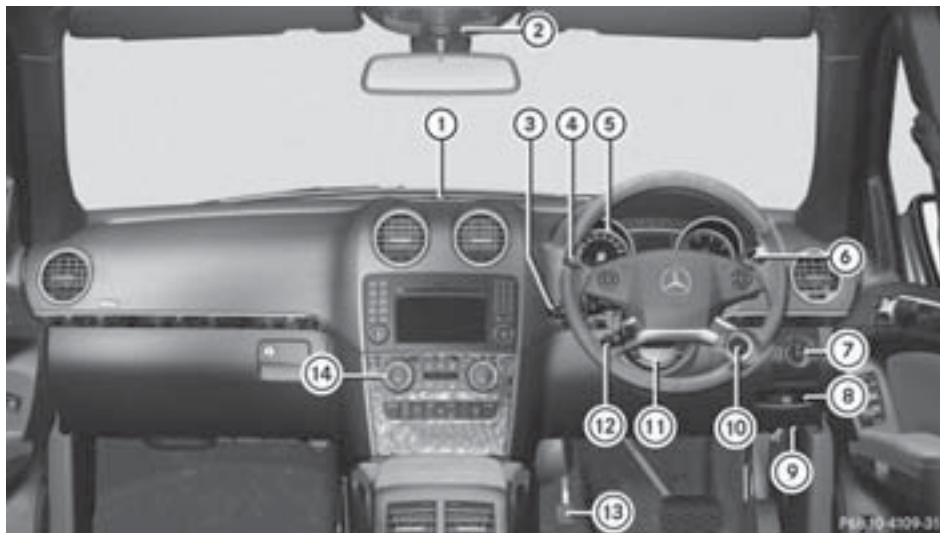
COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

インストルメントパネル

左ハンドル車

	名称	ページ
①	コンビネーションレバー（ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー / リアワイパー）	108 115 117
②	DSR / クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	177 187 191
③	メーターパネル	139
④	セレクターレバー	123 131
⑤	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	206
⑥	前席上方の操作部	32
⑦	エアコンディショナーコントロールパネル	226 235

	名称	ページ
⑧	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ *	82 83
⑨	ステアリングロック解除ハンドル *	93
⑩	ボンネットロック解除レバー	276
⑪	パーキングブレーキペダル	128
⑫	パーキングブレーキ解除ハンドル	128
⑬	ランプスイッチ	105
⑭	ステアリング調整レバー *	94

* オプションや仕様により、異なる装備です。

右ハンドル車

	名称	ページ
①	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯	206
②	前席上方の操作部	32
③	コンビネーションレバー （ヘッドランプ / 方向指示 / ワイパー / リアワイパー）	108 115 117
④	DSR / クルーズコントロールレバー / 可変スピードリミッターレバー	177 187 191
⑤	メーターパネル	139
⑥	セレクターレバー	123 131
⑦	ランプスイッチ	105
⑧	パーキングブレーキ解除ハンドル	128

	名称	ページ
⑨	ボンネットロック解除レバー	276
⑩	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ *	82 83
⑪	ステアリングロック解除ハンドル *	93
⑫	ステアリング調整レバー *	94
⑬	パーキングブレーキペダル	128
⑭	エアコンディショナーコントロールパネル	226 235

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

メーターパネル

	名称	ページ
①	スピードメーター	140
②	スピードメーター単位表示	158
③	照度調整ボタン	140
④	リセットボタン	140
⑤	照度調整ボタン	140
⑥	タコメーター	140
⑦	燃料計	141
⑧	マルチファンクションディスプレイ	142
⑨	時計	141

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	ABS 警告灯	55
②	可変スピードリミッターインジケーター	192
③	ESP® / ETS 表示灯	58
④	車間距離警告灯 [1]	
⑤	ブレーキ警告灯	300
⑥	方向指示表示灯（左）	108
⑦	方向指示表示灯（右）	108

	名称	ページ
⑧	シートベルト警告灯	102
⑨	予熱表示灯（ディーゼルエンジン車）	125
⑩	SRS 警告灯	37
⑪	ヘッドランプ表示灯	106
⑫	エンジン警告灯	348
⑬	ハイビーム表示灯	108
⑭	燃料残量警告灯	141

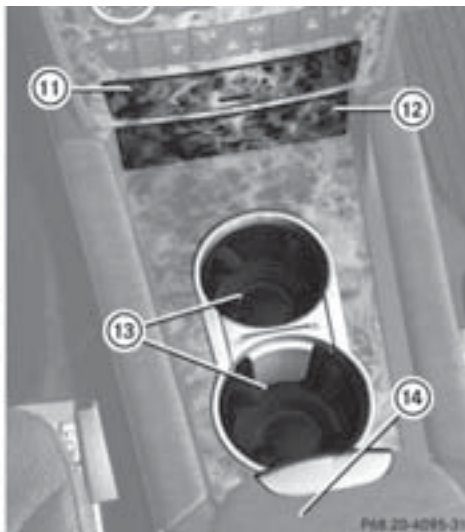
1）日本仕様車では、警告灯としては機能しません。

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	142
②	COMAND システム	別冊
③	[+] [−] 設定スイッチ / 音量スイッチ [通話開始] [通話終了] 通話開始 / 終了スイッチ（電話） [音声認識] 音声認識スイッチ	142 142 142

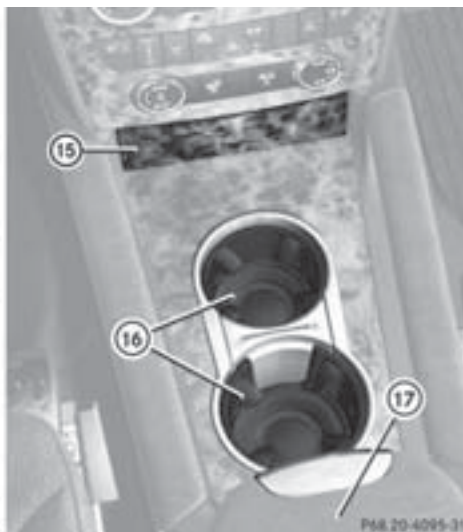
	名称	ページ
④	[▲] [▼] スクロールスイッチ [表示切替] [表示切替] 表示切り替えスイッチ [OFF] 音声認識解除スイッチ	

センターコンソール

ML 350 BlueTEC 4MATIC / ML 350 4MATIC

	名称	ページ
①	COMAND システム	209
	サイドビューカメラ / パーキングアシストリアビューカメラ表示	216
②	シートヒータースイッチ	91
③	ESP® オフスイッチ	59
④	DSR スイッチ	175
⑤	非常点滅灯スイッチ	109
⑥	オフロード・ドライブ・プログラムスイッチ	178
⑦	シートヒータースイッチ	91
⑧	パークトロニックオフスイッチ	209

	名称	ページ
⑨	助手席エアバッグオフ表示灯	49
⑩	盗難防止警報システム表示灯 *	62
⑪	センターコンソール下部の小物入れ *	252
⑫	灰皿	264
	ライター	265
⑬	カップホルダー	253
⑭	フロントアームレスト	252

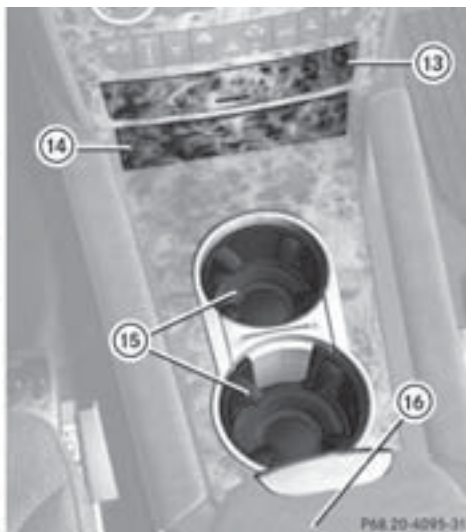
* オプションや仕様により、異なる装備です。

オフロードパッケージ装備車

	名称	ページ
①	COMAND システム	209
	サイドビューカメラ / パーキングアシストリアビューカメラ表示	216
②	サスペンションモード選択スイッチ	194
③	シートヒータースイッチ（助手席側）	91
④	ESP® オフスイッチ	59
⑤	パークトロニックオフスイッチ	209
⑥	非常点滅灯スイッチ	109
⑦	走行モード選択スイッチ	134
⑧	シートヒータースイッチ（運転席側）	91

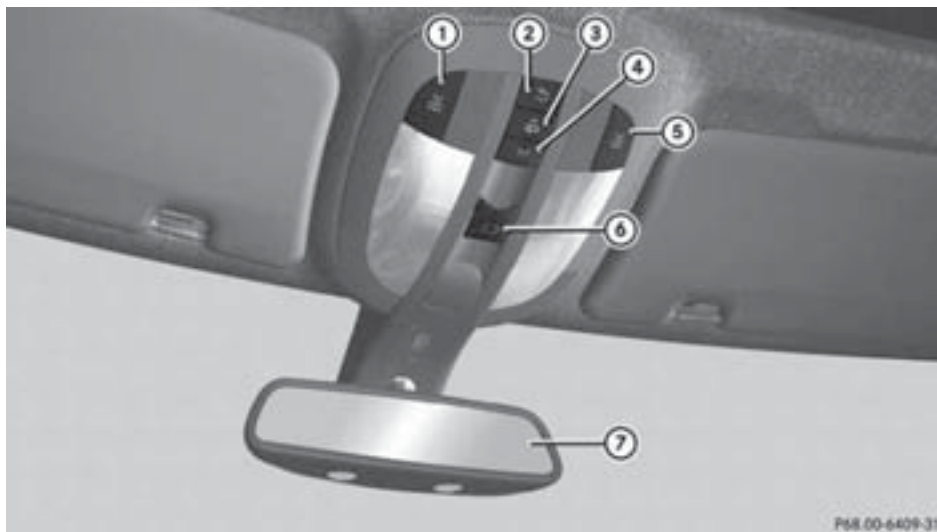
	名称	ページ
⑨	助手席エアバッグオフ表示灯	49
⑩	ディファレンシャルロックダイヤル	183
⑪	ローレンジスイッチ	180
⑫	DSR スイッチ	175
⑬	車高調整ダイヤル	195
⑭	盗難防止警報システム表示灯 *	62
⑮	灰皿	264
	ライター	265
⑯	カップホルダー	253
⑰	フロントアームレスト	252

※ オフロードパッケージは、日本仕様には装備されません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

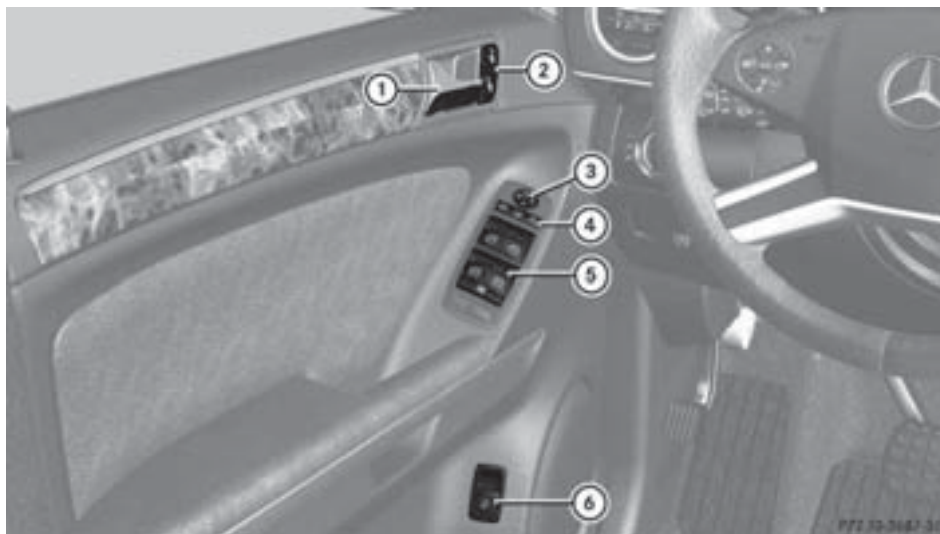
ML 63 AMG

	名称	ページ
①	COMAND システム	209
	サイドビューカメラ / パーキングアシストリアビューカメラ表示	206
②	シートヒータースイッチ（助手席側）	91
③	DSR スイッチ	175
④	非常点滅灯スイッチ	109
⑤	走行モード選択スイッチ	134
⑥	シートヒータースイッチ（運転席側）	91
⑦	パークトロニックオフスイッチ	209
⑧	車高調整スイッチ	204

	名称	ページ
⑨	助手席エアバッグオフ表示灯	48
⑩	盗難防止警報システム表示灯	62
⑪	ESP® オフスイッチ	59
⑫	サスペンションモード選択スイッチ	202
⑬	センターコンソール下部の小物入れ	252
⑭	灰皿	264
	ライター	265
⑮	カップホルダー	253
⑯	フロントアームレスト	252

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	フロント読書灯スイッチ（左側）	111
②	ラゲッジルームランプスイッチ	111
③	点灯モード選択スイッチ	111
④	フロントルームランプスイッチ	111

	名称	ページ
⑤	フロント読書灯スイッチ（右側）	111
⑥	スライディングルーフスイッチ *	246
⑦	ルームミラー	95

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアの操作部

運転席ドア（左ハンドル車）

	名称	ページ
①	ドアレバー	76
②	ドアロックスイッチ	77
③	ドアミラー調整スイッチ	96
④	ドアミラー選択スイッチ ドアミラー格納 / 展開スイッチ	96 96

	名称	ページ
⑤	ドアウインドウスイッチ セーフティスイッチ	119 53
⑥	テールゲートスイッチ *	81

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトやシートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグは、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷85～90、103、104 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷100 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷39 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。

⚠ **警告**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ **警告**

乗員保護装置を取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。また、車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

誤作動でけがをしたり、事故などのとき、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS（乗員保護補助装置）

SRS は以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ 警告

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジンを始動してから数秒後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに前方から一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

ℹ 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された、以下の要素に基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 横転による衝突
- 車両への衝撃度

ℹ センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

シートベルトテンショナーは、車の前後方向から大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

フロントシートベルトと左右のリアシートベルトに装備されています。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき

リアシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用に関わらず作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 衝撃を受けた最初の段階で、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両が横転するような特定の状況で、シートベルトテンショナーの作動が乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき

ベルトフォースリミッター

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートベルトと左右のリアシートベルトに装備されています。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

⚠ **警 告**

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き、換気を行なってください。

- 作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

⚠ 警告

フロントシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトのバックルが下方に引き込まれたときにのみ、正しく機能します。シートベルトのバックルの動きを妨げるようなものがないことを確認してください。また、バックルをつかまないでください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

! シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

i シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

i シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

i シートベルトテンショナーが作動すると、フロントシートベルトのバックルがシートクッションの高さまで引き込まれます。また、SRS警告灯が点灯します。

エアバッグ

⚠ 警告

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。

- エアバッグ作動範囲と乗員の間に、ペットや荷物を置かないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- ウインドウやピラーの周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

⚠ 警告

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- ステアリングコラム下部のパネル部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロントシートのバックレスト部
- リアシートの左右側面

エアバッグの作動

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。

これにより、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

⚠ 警告

- 関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
- エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

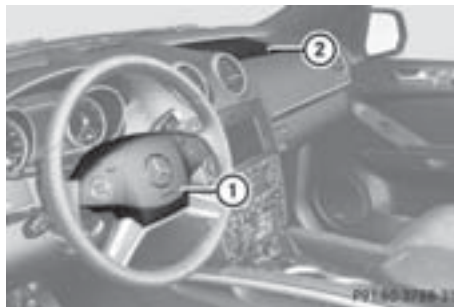
! エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。

! エアバッグの作動時に聞こえる爆発音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

ℹ エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席 エアバッグ	ステアリング パッド部
運転席 ニーバッグ	運転席足元
助手席 エアバッグ	助手席ダッシュ ボードパネル部
フロントサイド バッグ	フロントシート のバックレスト 側面
リアサイド バッグ	リアシートの左 右側面
ウインドウ バッグ	フロントピラー とリアピラー間 のルーフライニ ング部

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車

前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席エアバッグ①と助手席エアバッグ②は、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

車両が横転したときは、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知しない限り、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

ℹ 車の前方からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

❗ 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。

運転席ニーバッグ

左ハンドル車

運転席ニーバッグ①は、運転席エアバッグに連動してステアリングの下方で作動し、運転席乗員の膝から下への衝撃を分散・軽減します。

サイドバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のフロントサイドバッグ① / リアサイドバッグ②が作動し、胸部への衝撃を分散・軽減します。

サイドバッグは、運転席 / 助手席エアバッグやシートベルトテンショナーの作動、シートベルトの着用に関わらず、衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

車両が横転したときは、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知し、サイドバッグの作動がシートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断しない限り、基本的に作動しません。

 警 告

シートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

⚠ 警告

エアバッグのセンサーがドアの内部にあります。ドアやドアトリムにオーディオや電装品を追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグの作動に悪影響を与えるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

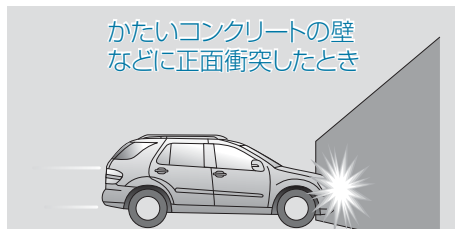
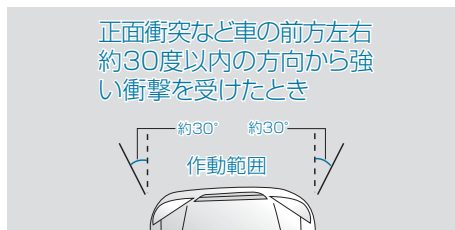
ウインドウバッグ

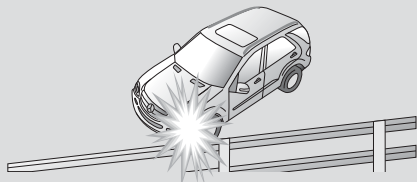
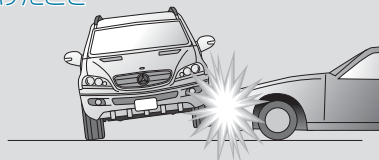
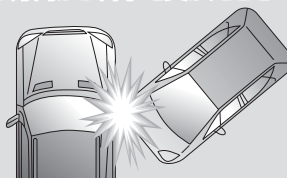
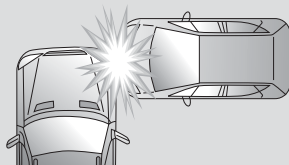
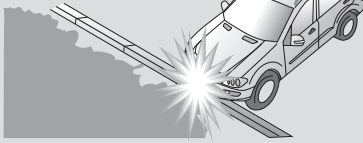
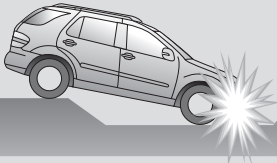
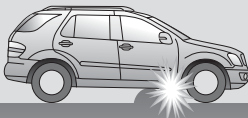
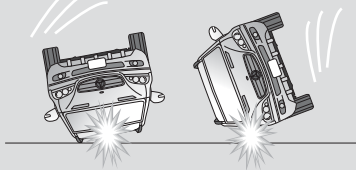
横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグ①が作動し、頭部への衝撃を分散・軽減します。

ウインドウバッグは、運転席 / 助手席エアバッグの作動や助手席の乗員の有無に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、横方向から一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両が横転するような特定の状況で、ウインドウバッグの作動がシートベルトによる乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき

エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグ / 運転席ニーバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグ / 運転席ニーバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグ / 運転席ニーバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE®

PRE-SAFE®（プレセーフ）は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- 車が物理的な限界を超えて強いアンダーステア状態やオーバーステア状態になったときなど、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE® は、約 30km/h 以上で走行しているとき、以下のように作動します。

- 前席シートベルトが引き込まれます。
- メモリー付パワーシート装備車は、助手席シートが、エアバッグの作動に対し不適切な位置にある場合は、助手席シートを適正な位置に自動的に調整します。
- 車の横滑りを感知すると、万一の横転時に乗員が車外に放出されることを防ぐため、ドアウインドウとスライディングルーフ * が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が危険な状態から脱すると、電動式シートベルトテンショナーの張力が緩みます。また、助手席シートの位置 *、ドアウインドウやスライディングルーフ * の開き具合を再度調整することができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席シートベルトの引き込みが解除されないとき

▶ シートベルトの張力が下がるまで、バックレスト角度やシートの前後位置を後方に動かします。

ロック機構が解除されます。

警 告

助手席シートの位置を調整するときは、身体が挟まれないように注意してください。

! 助手席シートの位置を調整するときは、シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

警 告

フロントシートには、必ず純正のシートカバーだけを使用してください。市販のシートカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前方に動いたままの状態になります。このときは、NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業を行なってください（▷363 ページ）。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方および上方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部をより効果的に支持し、頭部や頸部の保護度合いを高めます。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

子供を乗せるとき

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったチャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。
チャイルドセーフティシートは後席に装着し、走行している間は、チャイルドセーフティシートにより子供の身体を固定してください。
Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています（▷48 ページ）。

警 告

チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

- 運転装置に触れてけがをするおそれがあります。
- 誤ってドアを開き、事故の原因になります。
- 炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。
- 寒冷時には車内が低温になり、命にかかわるおそれがあります。

警 告

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供がけがをする危険性が増加します。

- 事故
- 急ブレーキ
- 急な進路変更

荷物を積むとき / 固定するときについて、詳しくは(▷250、257 ページ)をご覧ください。

チャイルドセーフティシート

警 告

- シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、チャイルドセーフティシートを使用してください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがをするおそれがあります。
- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 6 歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できない子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 身長 150cm 未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 子供の体格に適合したチャイルドセーフティシートを使用し、子供を正しい姿勢で座らせ、身体をシートベルトで確実に固定してください。
- 子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、事故のときなどに身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートは、リアシートに装着してください。

  やむを得ず助手席に装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは助手席に装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

  チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、助手席側サンバイザーおよび、助手席サンバイザーを下ろしたルーフ内張り側に貼付されています。

- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。
- チャイルドセーフティシートは確実に装着してください。急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが投げ出されて乗員がけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートが確実に装着されないおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をご覧ください。

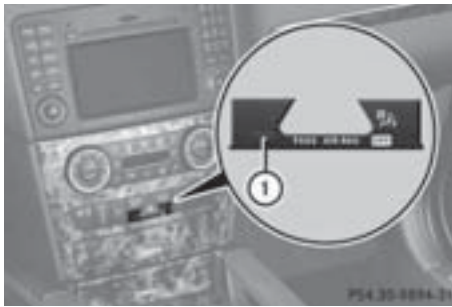
純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 13kg 以下	新生児～18 カ月位
デュオプラス	9 ～ 18kg	8 カ月～4 歳位
キッド または キッドフィックス	15 ～ 36kg	3 歳半～12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席エアバッグオフ表示灯

助手席エアバッグオフ表示灯①は、チャイルドセーフティシート検知システム装備車のための表示灯です。日本仕様には設定のない装備のため、表示灯としては機能しません。

イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがありますが、助手席エアバッグの機能は解除されません。

チャイルドセーフティシート固定機構 *

チャイルドセーフティシートをシートベルトで固定するとき、シートベルトが引き出されないようにロックしてチャイルドセーフティシートを確実に固定するシステムです。

リアシートのシートベルトに装備されています。

警告

子供をチャイルドセーフティシート固定機構で遊ばせないでください。固定機構が作動するとシートベルトが引き出し方向に動かなくなるため、誤ってシートベルトが首に巻き付くと、窒息など致命的なけがをするおそれがあります。

固定機構を使用する

▶ チャイルドセーフティシートを、製品に付属の取扱説明書に従って正しく装着します。

▶ シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ状態でシートベルトをいっぱいまで引き出した後、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までシートベルトを巻き取らせます。

チャイルドセーフティシートを固定後、シートベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

固定機構を解除する

▶ シートベルトのプレートをバックルから外し、シートベルトを巻き取らせます。

ⓘ シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがいっぱいに引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除してから、シートベルトを再度着用してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右のリアシートに、ISO-FIX対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

警 告

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗車させるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートをリアシートのシートベルトで固定してください。

警 告

チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定装置に装着してください。装着方法を誤ると、事故のとき、十分な効果が得られなかったり、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。

警 告

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、新品に交換してください。

チャイルドセーフティシートを装着する

▶ カバー①を取り外します。

▶ 固定装置②にチャイルドセーフティシートを装着します。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央の席のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

テザーアンカー

リアシートの背面にテザーアンカーを装備しています。

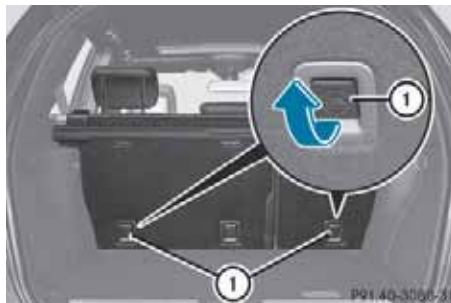
それぞれのテザーアンカーには、テザーベルトを使用して、テザーアンカーに対応した専用チャイルドセーフティシートを装着することができます。

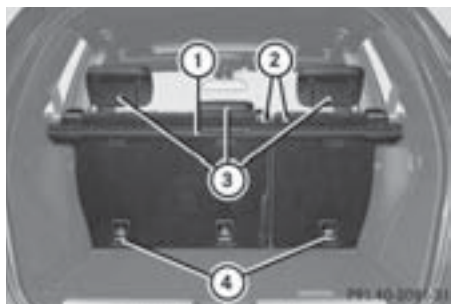
ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故のときなどにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

警告

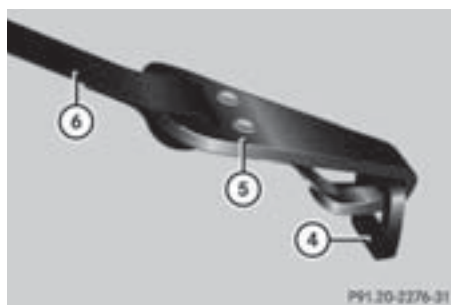
- テザーベルトは、チャイルドセーフティシートの位置に対応したテザーアンカーに取り付けてください。
- テザーベルトがねじれたり、複数のテザーベルトが交差しないことを確認してください。
- テザーアンカーに、テザーベルトが確実に固定されていることを確認してください。

純正チャイルドセーフティシートには、テザーベルトを装備していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

テザーアンカーを使用する

▶ テザーアンカーのカバー①を取り外します。

テザーフックを取り付ける

▶ ヘッドレスト③を上げます。

▶ ヘッドレストの 2 本の支柱の間にテザーベルトを通します。

シート背後にラゲッジルームカバー収納リール①（▷259 ページ）を取り付けてあるときは、テザーベルトがバックレスト②とラゲッジルームカバー収納リール①の間を通るようにします。

▶ テザーフック⑤をテザーアンカー④にかけます。

▶ テザーベルト⑥を締めます。

▶ 必要であれば、ヘッドレストを少し下げます。

テザーベルトの動きが妨げられていないことを確認してください。

チャイルドプルーフロック

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

⚠ **警告**

- チャイルドセーフティシート固定装置を使用して、チャイルドセーフティシートに子供を乗車させているときも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。事故の原因になったり、運転装置に触れてけがをするおそれがあります。

  また、車内が高温または低温になった状態では、命に関わるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が後席に乗車するときは、チャイルドプルーフロックを設定してください。子供がリアドアやリアドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ レバーを設定側②に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、ドアが開かないことを確認します。

▶ 解除するときは、レバーを解除側①に操作します。

ⓘ リアドアのチャイルドプルーフロックが設定されていても、車が解錠されているときは、車外のドアハンドルでリアドアを開くことができます。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

左ハンドル車

リアドアのスイッチによるリアドアウインドウ操作ができなくなります。

▶ スイッチ①を押して、押された状態にします。

リアドアのスイッチからはリアドアウインドウが操作できなくなります。

▶ 解除するときは、スイッチ①を押して、押されていない状態にします。

ⓘ セーフティスイッチの設定 / 解除にかかわらず、運転席ドアのスイッチではリアドアウインドウを操作できます。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック･ブレーキング･システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- 4ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）

ⓘ 雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。

このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

⚠ **警告**

走行安全装備が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保、制動距離の短縮には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

また、タイヤのグリップが失われた状況では、走行安全装備は効果を発揮しません。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

⚠ **警告**

ポンピングブレーキは行なわないでください。制動力が減少して制動距離が長くなり、停車しきれずに事故を起こすおそれがあります。ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをスムーズにしっかりと踏み込んでください。

- ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。

  ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。

  また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

- ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
- 故障により ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。常に進路や天候の状況に注意して運転してください。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷330、331 ページ）をご覧ください。

! ABS に異常があると、急ブレーキ時にタイヤがロックしてステアリング操作が効かなくなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

i ABS に異常があると、ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されることがあります。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS が作動したとき

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。そのままペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

(ABS) ABS 警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。

ブレーキは通常通り作動しますが、ABS、ESP®、BAS、ETS、PRE-SAFE® などは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オフロード ABS*

オフロード ABS は、未舗装路やぬかるみなどの悪路でブレーキペダルを踏んだときにフロントタイヤを周期的にロックさせ、制動力を向上させるオフロード専用のシステムです。

オフロード ABS は、オフロード・ドライブ·プログラム *（▷178 ページ）を作動させたとき、またはローレンジ（▷180 ページ）にしたときに、約 30km/h 以下の速度でブレーキペダルを強く踏むと自動的に作動します。

⚠ 警告

- オフロード ABS は未舗装路、ぬかるみなどの悪路でのブレーキ時の制動力を高める装備で、無謀な運転から事故を防ぐものではありません。オフロード ABS が適切に作動しても、制動力には限界があります。
- オフロード ABS の作動時は、フロントタイヤがロックするため車両操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。慎重に運転することを心がけてください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ 警告

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは BAS は作動しません。詳しくは（▷330、331 ページ）をご覧ください。

ⓘ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ BAS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ABS に関する故障 / 警告メッセージが表示されますが、ブレーキは通常通り作動します。

ℹ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、個別のタイヤにブレーキをかけたり、エンジンの出力を制御して、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

この車には、4 輪駆動システムのために専用に開発された 4-ESP® が装備されています。

 警告

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは （▷331、332 ページ）をご覧ください。

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ABS に異常が発生したときは、ESP® の機能も解除されます。

i 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります（走行中に ESP® / ETS 表示灯が点滅したままになります）。

i ABS 警告灯 [ABS] が点灯しているときは、ESP® も作動しません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示され、ESP® / ETS 表示灯や ABS 警告灯が点灯することがあります。

このようなときは、安全な場所に停車して、イグニッション位置を **0** に戻し、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、故障 / 警告メッセージや表示灯、警告灯は消灯します。

⚠ ESP® / ETS 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ESP® が作動しています。

ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除（▷59 ページ）しているときは、点灯したままになります。

⚠ **警告**

ESP® / ETS 表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESP® の機能の解除

警告

走行中に ESP® / ETS 表示灯が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

ESP® の機能の解除

次のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジンの出力制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- 駆動輪が空転した場合、ブレーキ制御による駆動輪の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

 警告

ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ

 警告

ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができません。

ESP® の機能を解除する

▶ エンジンがかかっているときに、ESP® オフスイッチ①を押します。

メーターパネルの ESP®/ETS 表示灯が点灯します。

ESP® を待機状態にする

▶ エンジンがかかっているときに、再度 ESP® オフスイッチ①を押します。

ESP® が待機状態になり、メーターパネルの ESP®/ETS 表示灯が消灯します。

警告
エンジンがかかっているときにESP®/ETS 表示灯が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されているか、ESP® が故障しています。路面や天候の状況に合わせて慎重に運転してください。

ⓘ エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

ⓘ ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP®/ETS 表示灯が点滅しますが、ESP® は作動しません。

オフロード ESP®

オフロード ESP® は、オフロード・ドライブ・プログラム（▷178 ページ）を作動させたとき、またはローレンジ（▷180 ページ）にしたときに、ESP® の作動が自動的に悪路走行に適した制御になる、オフロード専用のシステムです。

悪路でアンダーステアやオーバーステアが起きたときは、ESP® が遅れて作動することにより、駆動力が向上します。

EBD

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を調整し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

警告
EBD に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

4ETS

ETS は、ESP® の機能の一部です。

ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときにブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

この車には、4 輪駆動システムのために専用に開発された 4ETS が装備されています。

ESP® の機能が解除されている場合でも、ETS の機能は解除されません。

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

- ETS は駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。
- ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP®/ETS 表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

発進時または走行中に点滅したときは、ETS が作動しています。

ℹ ETS に異常があるときは、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されます。（▷331、332 ページ）をご覧ください。

ℹ ABS 警告灯 [ABS] が点灯しているときは、ETS も作動しません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警告

ESP® / ETS 表示灯が点滅したときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。

- 急ハンドル
- 急ブレーキ
- 急発進、急加速
- 急激なエンジンブレーキ
- ESP® の機能の解除

! 指定されたサイズ以外のタイヤを装着すると、ETS が正しく機能しないことがあります。

! ブレーキダイナモ上で車輪を動かすときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキダイナモ上でパーキングブレーキの点検を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。4ETS によりブレーキが作動し、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

i ブレーキに大きな負荷がかかりブレーキが過熱すると、ブレーキの保護のため、ETS が一時的に解除されます。また、このとき ESP® / ETS 表示灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。

! ブレーキダイナモを使用してパーキングブレーキを点検するときは、エンジンを停止してください。ETS が作動してブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

オフロード 4ETS

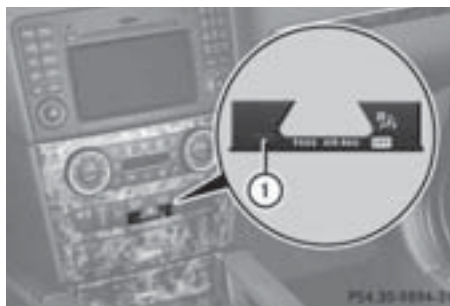
オフロード 4ETS は、オフロード・ドライブ・プログラム（▷178 ページ）を作動させたとき、またはローレンジ（▷180 ページ）にしたときに、ETS の作動が自動的に悪路走行に適した制御になる、オフロード専用のシステムです。

盗難防止システム

盗難防止警報システム *

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプや読書灯が約 5 分間点灯します。

- ドアまたはテールゲートが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * により施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開いたときも作動します。

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

表示灯①が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯①が点滅を続けます。

ℹ システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にすると、ボンネットが開けられても警報は作動しません。

ℹ システムが待機状態のときに車内からドアやテールゲートを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

ℹ システムを待機状態にしても、表示灯①が点滅しない場合は、システムが故障しています。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠します。

表示灯①が消灯します。

警報が作動したときの停止方法

▶ 以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーのいずれかのボタンを押す
- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れるか、テールゲートハンドルを引く（キーレスゴー装備車）
- キーがキーレスゴーのテールゲート側アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときは、テールゲートハンドルを引く（キーレスゴー装備車）
- キーがキーレスゴーの車室内アンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す（キーレスゴー装備車）

ℹ ドアやテールゲートが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

けん引防止警報機能 *

盗難防止警報システムが待機状態のとき、車が傾いたことを検知すると、けん引防止警報機能が作動し、サイレンと非常点滅灯の点滅による警報が作動します。

けん引防止警報機能を待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

約 30 秒後にけん引防止警報機能が待機状態になります。

待機状態を解除する

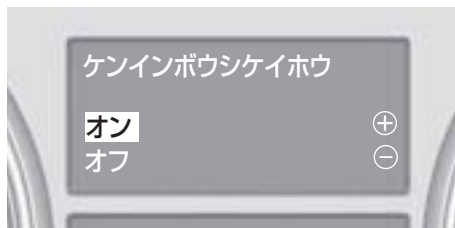
▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠します。

けん引防止警報機能の解除

誤作動を防ぐため、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて運搬するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

けん引防止警報機能を解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

けん引防止警報機能設定画面

▶ マルチファンクションディスプレイに、けん引防止警報機能設定画面を表示させます（▷168 ページ）。

▶ ステアリングの [−] を押し、" オフ " を選択します。

けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

または

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイに、エンジン停止時の表示設定画面を表示させます（▷163 ページ）。

▶ ステアリングの [+] または [−] を押し、" ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ " を選択します。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

マルチファンクションディスプレイに " ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾝ " と表示されます。

" ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ " と表示されたときは、けん引防止警報機能が解除されています。そのまま、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ステアリングの [+] または [−] を押します。

マルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ" と表示され、けん引防止警報機能が解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

! けん引防止警報機能を解除したときは、必ずマルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼ ｹｲﾎｳ ｵﾌ" と表示されたことを確認してください。

i けん引防止警報機能を解除しても、盗難防止警報システムは作動します。

i 次にリモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠するまで、けん引防止警報機能は解除されたままになります。

室内センサー

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に腕を伸ばしたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウが完全に閉じていること
- スライディングルーフ * が完全に閉じていること
- ルームミラーやアシストグリップにマスコットなどをかけていないこと

▶ すべてのドアとテールゲートが閉じていることを確認します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

約 40 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき
- スライディングルーフ * を少し開いた状態で車から離れるとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

室内センサーを解除する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

室内センサー設定画面

▶ マルチファンクションディスプレイに、室内センサー設定画面を表示させます（▷168 ページ）。

▶ ステアリングの [－] を押し、" オフ " を選択します。

室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

または

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイに、エンジン停止時の表示設定画面を表示させます（▷163 ページ）。

▶ ステアリングの [＋] を押し、" ｼﾂﾅｲｾﾝｻ " を選択します。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

マルチファンクションディスプレイに " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾝ " と表示されます。

" ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾌ " と表示されたときは、室内センサーが解除されています。そのまま、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠してください。

▶ ステアリングの [＋] または [－] を押します。

マルチファンクションディスプレイに " ｼﾂﾅｲｾﾝｻｳ ｵﾌ " と表示され、室内センサーが解除されます。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠します。

! 室内センサーを解除したときは、必ずマルチファンクションディスプレイに " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾌ " と表示されたことを確認してください。

ℹ 室内センサーを解除しても、盗難防止警報システムは作動します。

ℹ 次にリモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠するまで、室内センサーは解除されたままになります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキーを収納しています。

⚠ 警告

- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり、運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチ * を押すことによりエンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコンに障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作 * を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

ⓘ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ キーの電池が消耗すると操作時にキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作 * ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

リモコン機能

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車
① 施錠ボタン
② テールゲート開閉ボタン *
③ 解錠ボタン

エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、テールゲート、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- テールゲートの開閉 *
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷121 ページ）

操作時にキーの表示灯が 1 回点滅します。

ℹ キーレスゴー装備車は、エンジンスイッチにキーを差し込んでいない状態で、イグニッション位置が **0** のときに、上記の操作が行なえます。

解錠する

▶ 解錠ボタン③を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷62 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

施錠する

▶ 施錠ボタン①を押します。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム *（▷62 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

テールゲートを開く *

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲート開閉ボタン②を押し続けます。

テールゲートが自動で開きます。

! リモコン操作でテールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

テールゲートを閉じる *

▶ テールゲートが閉じ始めるまで、テールゲート開閉ボタン②を押し続けます。

テールゲートが自動で閉じます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! リモコン操作でテールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

i 車が施錠されているときにテールゲート開閉ボタン②を押すと、テールゲートだけが解錠されて開きます。その状態でテールゲート開閉ボタン②を押すと、テールゲートが閉じ、施錠されます。

i リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押す（キーレスゴー装備車）

i 車のバッテリーがあがったときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

リモコン機能の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップだけを解錠するように設定できます。

▶ 施錠ボタン①と解錠ボタン③を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では、以下のように作動します。

- 運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、盗難防止警報システム *（▷62 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。
- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン③を押すと、助手席ドア、リアドア、テールゲートが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

リモコン機能の設定を元に戻す

▶ 施錠ボタン ① と解錠ボタン ③ を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、元の設定に戻ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ロケイターライティング

周囲が暗いとき、リモコン操作で解錠すると、以下のランプが点灯します。

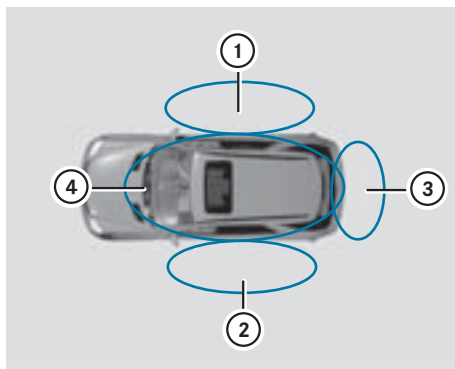
- 車幅灯
- ヘッドランプ（LED ドライビングランプ装備車）
- LED ドライビングランプ * またはフロントフォグランプ *
- テールランプ
- ライセンスランプ

点灯したランプは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押したとき（キーレスゴー装備車）
- 点灯してから約 40 秒経過したとき

この機能の設定と解除については（▷161 ページ）をご覧ください。

キーレスゴー *

キーレスゴーは、キーを携帯することにより、キーとキーレスゴーアンテナが電波の送受信を行ない、リモコン操作をしなくても、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことができます。

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ テールゲート側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、キーレスゴー操作はできません。

ℹ エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーが左右側アンテナの検知範囲①②にあるとき

- キーがある側のドアハンドルに触れると車の解錠ができます。
- キーがある側のドアハンドルのキーレスゴースイッチを押すと車の施錠ができます。

ℹ キーの位置によっては、キーが検知範囲にない側のドアハンドルに触れたり、キーレスゴースイッチを押すことで、車が解錠 / 施錠されることがあります。

キーがテールゲート側アンテナの検知範囲③にあるとき

- テールゲートハンドルを引くと、テールゲートのみを解錠して開くことができます。
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押して、車を施錠することができます。

ℹ キーの位置によっては、キーが検知範囲にないときも、テールゲートハンドルを引くことでテールゲートのみが解錠して開くことがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲④にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷82 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷84、125 ページ）。

ℹ キーの位置によっては、キーがルーフ上やボンネット上などの車外にあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

⚠ 警 告

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、それ以外の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときやテールゲートを開閉するとき、エンジンを始動するときなどは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内にあるときや、キーの位置によっては、車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動するなど、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

❗ 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、解錠しないことがあります。

❗ キーが左右側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり物などが触れると、車が解錠されることがありますので注意してください。

ℹ キーを車から遠ざけたときは、キーレスゴー操作で車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動することはできません。

ℹ 車を長期間使用しなかったときは、キーレスゴーの機能が自動的に解除されます。このときは、ドアハンドルを引き、エンジンスイッチにキーを差し込んで **2** の位置にしてください。

ℹ キーレスゴーアンテナの検知範囲内にキーがあるときは、キーを携帯していない人でも、車を施錠 / 解錠したり、エンジンを始動できます。

ℹ 車のバッテリーがあがったときは、キーの電池が正常でもキーレスゴー操作はできません。

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷62 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

解錠時の設定の切り替え

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車
① 施錠ボタン
② 解錠ボタン

運転席ドアハンドルに触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

設定を切り替える

▶ 施錠ボタン ① と解錠ボタン ② を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

このときは、以下のように作動します。

▶ 運転席ドアハンドルに触れます。

運転席ドア、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム *（▷62 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

初期設定に戻す

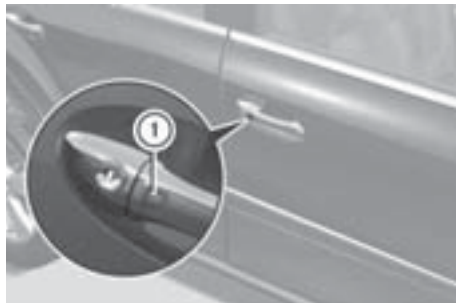
▶ キーの表示灯が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン①と解錠ボタン②を同時に押し続けます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- テールゲートを開く
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押す
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す

ℹ 設定を切り替えたときも、運転席以外のドアのドアハンドルの裏側に触れることで、すべてのドアとテールゲート、燃料給油フラップを解錠することができます。

施錠する

右フロントドア

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ①を押します。

または

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ * ②を押します。

テールゲートが閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム *（▷62 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

ℹ キーが車室内にあるときは、ドアハンドルやテールゲートのキーレスゴースイッチ * で施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰ ｶﾞ ｼｬﾅｲﾆ ｱﾘﾏｽ！" または "ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と表示されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ただし、以下の場合は、施錠することができます。

- もう 1 本のキーが左右側アンテナの検知範囲にあるときにキーがある側のドアハンドルのキーレスゴースイッチを押したとき
- もう 1 本のキーがテールゲート側アンテナの検知範囲にあるときにテールゲートのキーレスゴースイッチを押したとき

ⓘ いずれかのドアが開いているときに、閉じているドアのドアハンドルのキーレスゴースイッチまたはテールゲートのキーレスゴースイッチ * を押すと、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ﾛｯｸﾉﾀﾒ ﾄﾞｱｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。

テールゲートを解錠して開く（EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車）

▶ テールゲートハンドルを引きます。

テールゲートのみが解錠されます。

▶ テールゲートを引き上げます。

テールゲートを解錠して開く（EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車）

▶ テールゲートハンドルを引きます。

テールゲートのみが解錠されて自動で開きます。

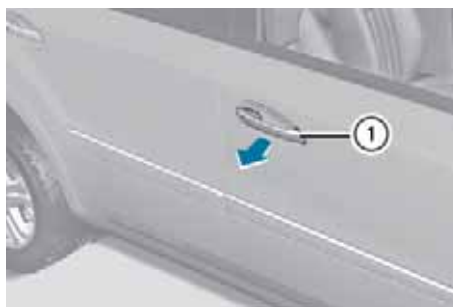
! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドア

⚠ 警 告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じ方が不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

車外からのドアの開閉

開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

車内からのドアの開閉

開く

▶ ドアレバー②を引きます。

ドアが施錠されているときはロックノブ①が上がり、解錠されます。

閉じる

▶ インナーグリップを持って確実に閉じます。

! 車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。

! ドアを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

ⓘ 助手席のドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ⓘ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます（▷335 ページ）。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ **警 告**

ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ドアごとの解錠 / 施錠

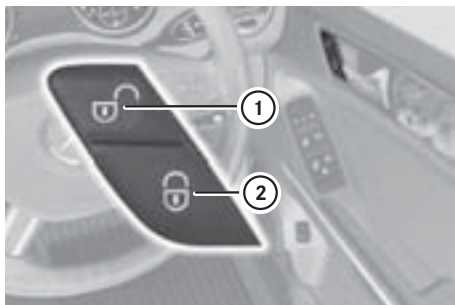
解錠する

▶ ドアレバー②を引きます。

このとき、ドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ①を押し込みます。

ドアロックスイッチでの解錠 / 施錠

車内から、すべてのドアとテールゲートをスイッチ操作で解錠 / 施錠できます。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ ドアロックスイッチ（解錠）①を押します。

施錠する

▶ ドアロックスイッチ（施錠）②を押します。

次のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠することはできません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ⓘ ドアロックスイッチにより施錠されていても、エアバッグやシートベルトテンショナーが作動するとドアは自動的に解錠されます。

ⓘ ドアロックスイッチで燃料給油フラップの解錠 / 施錠はできません。

ⓘ 運転席ドアが開いているときは、ドアロックスイッチで運転席以外のドアとテールゲートの解錠 / 施錠ができます。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとテールゲートを自動的に施錠します。

この機能の設定と解除については （▷165 ページ）をご覧ください。

! 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押すときやタイヤ交換などで車を持ち上げるとき、ダイナモメーターでパーキングブレーキをテストするときなどは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

ⓘ 車速感応ドアロックで施錠されているときも、車内のドアレバーを引いてドアを解錠して開くことができます。

ⓘ 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

テールゲート

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **警 告**

- テールゲートを開くときは、テールゲートの動きに注意してください。テールゲートのすぐ後方にいると、テールゲートに接触して、けがをするおそれがあります。
- テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

⚠ **警 告**

- EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートが開閉しているときに、身体や物が挟まれそうになったり、接触しそうになったときは、ただちに以下のいずれかの操作を行なってください。テールゲートの作動が停止します。
  ◇テールゲートハンドルを引く
  ◇キーのテールゲート開閉ボタンを押す
  ◇運転席ドアのテールゲートスイッチを押す
  ◇テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
  ◇テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す
- ラゲッジルームに乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

  子供などがラゲッジルームに閉じ込められないように注意してください。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、身体や物に接触するおそれのないことを確認してください。

! 強風のときにテールゲートを開くと、風にあおられ、テールゲートが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、テールゲートに雪が積もっているときも同様に注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! テールゲートが開いているときにリモコン操作で施錠し、テールゲートを閉じるとテールゲートは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

! テールゲートを閉じたときは、テールゲートが確実に閉じていることを確認してください。

i テールゲートが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

i EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートが自動で開いているときに障害物との接触を感知すると、テールゲートはその位置で停止します。

i EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車は、テールゲートが自動で閉じているときに挟み込みを感知すると、警告音が鳴り、テールゲートが停止して、全開位置または設定された開口角度（▷81 ページ）まで開きます。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車

テールゲートの開閉

テールゲートを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ テールゲートハンドル①を手前に引きます。

テールゲートを閉じる

▶ 凹部①に手をかけてテールゲートを引き下げます。

▶ 外側からテールゲートを軽く押さえます。

クロージングサポーターが作動して、テールゲートが閉じます。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車

車外からのテールゲートの開閉

テールゲートを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ テールゲートハンドル①を手前に引きます。

テールゲートが自動で開きます。

または

▶ キーのテールゲート開閉ボタン（▷69 ページ）を約 2 秒間押し続けます。

テールゲートが自動で開きます。

テールゲートを閉じる

▶ テールゲートクローザースイッチ①を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

または

▶ テールゲートがいっぱいまで開いているときに、テールゲートが閉じ始めるまでキーのテールゲート開閉ボタンを押し続けます。

テールゲートが自動で閉じます。

ⓘ 完全に停車していないときは、テールゲートクローザースイッチ①でテールゲートを閉じることはできません。

テールゲートを閉じて車を施錠する（キーレスゴー装備車）

▶ テールゲートのキーレスゴースイッチ②を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

ドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム *（▷62 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! キーがテールゲート側アンテナの検知範囲にないときに、テールゲートのキーレスゴースイッチ②を押すと、テールゲートが少し閉じた後に停止します。また、完全に閉じても施錠されません。

! テールゲートのキーレスゴースイッチで車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

ⓘ いずれかのドアが開いているときにテールゲートのキーレスゴースイッチ②を押すと、テールゲートは少し閉じた後停止します。このときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾛｯｸﾉﾀﾒ ﾄﾞｱｦ ﾄｼﾞﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されます。

車内からのテールゲートの開閉

右ハンドル車

テールゲートを開く

▶ テールゲートが開き始めるまで、テールゲートスイッチ①を引きます。

テールゲートが自動で開きます。

テールゲートを閉じる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、テールゲートスイッチ①を押します。

テールゲートが自動で閉じます。

ⓘ 完全に停車していないときは、テールゲートスイッチ①でテールゲートを開閉することはできません。

テールゲートの開口角度設定

上方に十分な空間がないところなどでテールゲートを開くときのために、テールゲートの開口角度を設定できます。

開口角度を設定する

▶ テールゲートが開閉しているときに、以下のいずれかの操作を行なって、設定したい角度でテールゲートを停止させます。

- テールゲートハンドルを引く
- キーのテールゲート開閉ボタンを押す
- 運転席ドアのテールゲートスイッチを操作する
- テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押す
- テールゲートのキーレスゴースイッチ * を押す

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ 確認音が 1 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度が設定されます。

次にテールゲートを開いたときは、設定された開口角度で停止します。

開口角度の設定を解除する

▶ テールゲートを開きます。

▶ 確認音が 2 回鳴るまで、テールゲートのテールゲートクローザースイッチを押して保持します。

開口角度の設定が解除されます。

ⓘ テールゲートの角度によっては、その開口角度に設定できないことがあります。

イグニッション位置

⚠ 警告

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止させないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! バッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

左ハンドル車

イグニッション位置を選択する

エンジンスイッチに差し込んだキーをまわすと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーの位置	イグニッション位置
0	0：キーを差し込む / 抜く位置
1	1：イグニッション位置が 1 になります。
2	2：イグニッション位置が 2 になります。
3	3：エンジンが始動します。

i エンジンスイッチからキーを抜かずに 0 の位置で長時間放置していると、キーがまわせなくなることがあります。このときは、キーをいったん抜き、再度差し込んでからまわしてください。

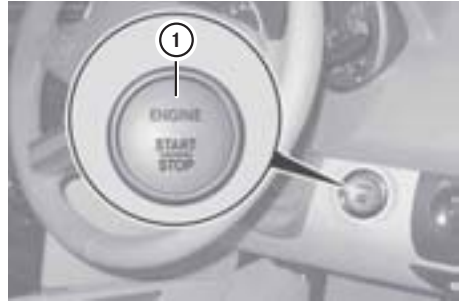
i キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

i 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがありますが、エンジンスイッチの位置の選択や、エンジンの始動はできません。

タッチスタート

エンジンスイッチを 3 の位置までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

キーレスゴー装備車

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択

右ハンドル車

車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ①を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ①を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ①を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	0 から 1 になります。
さらに 1 回押す	1 から 2 になります。
さらに 1 回押す	2 から 0 になります。

ⓘ エンジンを停止してイグニッション位置が **1** になったときに運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

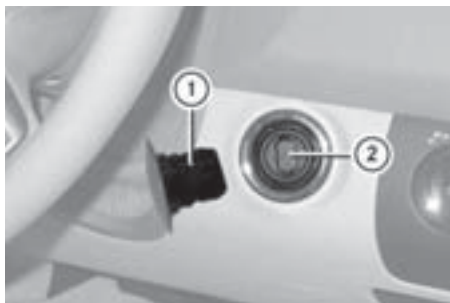
エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ①を押します。

❗ ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

ⓘ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けてから約 2 秒間は、キーレスゴースイッチでのイグニッション位置の選択やエンジン始動ができません。

ⓘ 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と表示されます。

キーによるイグニッション位置の選択

右ハンドル車

キーレスゴースイッチ①を取り外し、エンジンスイッチ②にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置の選択や、エンジンの始動を行なうこともできます(▷82、125 ページ)。

シート

フロントシートには以下の 3 種類があります。

名称	ページ
4 ウェイパワーシート	86
パワーシート	87
メモリー付パワーシート	88

⚠ **警 告**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、けがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転席シートは、必ず停車しているときに調整してください。走行中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

シートの高さを不用意に調整すると、けがをするおそれがあります。特に子供は、シート調整スイッチを不用意に操作してけがをするおそれがあるため、以下のことに注意してください。

- シートを調整している間は、シートの下やシートの可動部分に手を入れないでください。
- 子供が乗車するときは、シートの下やシートの可動部分に手を入れないように注意してください。

⚠ **警 告**

シートの調整をするときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。また、エアバッグに関する注意もご覧ください。

子供を乗せるときは、（▷46 ページ）をご覧ください。

⚠ **警 告**

ヘッドレストは、ヘッドレストの中央が目の高さになるように調整してください。事故などのときに、重大なけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い状態で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

! シートを前方に移動するときは、ダッシュボードとシートの間に身体を挟まれないように注意してください。

! シートやシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- 長時間、シートに液体が付着したままにしないでください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。

  シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、カバーやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! リアシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときは、リアシートに接触しないように注意してください。フロントシート背面の収納ネットの収納物やシートを損傷するおそれがあります。

! バックレストの角度やヘッドレストの高さを調整するときは、サンバイザーを収納してください。ヘッドレストが最も高い位置にあるときは、サンバイザーとヘッドレストが接触するおそれがあります。

4 ウェイパワーシート * の調整

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①～③の方向に操作します。

シートの前後位置は、レバーを④の方向に引いたままシートを前後に動かして調整します。

矢印の方向	調整内容
①	バックレストの角度
②	シートの高さ
③	シートクッションの角度
④	シートの前後位置

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドレストの高さを調整する

▶ 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。

低くするときはロック解除ボタン⑤を押しながらヘッドレストを下げます。

パワーシート * の調整

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印①～④の方向に操作します。

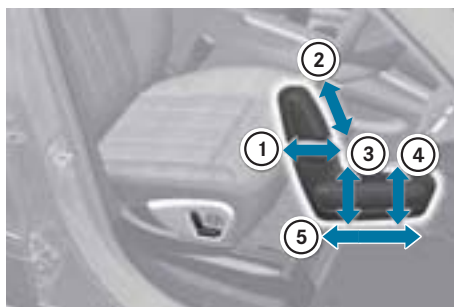
矢印の方向	調整内容
①	バックレストの角度
②	シートの高さ
③	シートクッションの角度
④	シートの前後位置

ヘッドレストの高さを調整する

▶ 高くするときは、ヘッドレストを引き上げます。

低くするときはロック解除ボタン⑤を押しながらヘッドレストを下げます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メモリー付パワーシート * の調整

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを①～⑤の方向に操作します。

矢印の方向	調整内容
①	バックレストの角度
②	ヘッドレストの高さ
③	シートの高さ
④	シートクッションの角度
⑤	シートの前後位置

ℹ 車種や仕様により、シートの前後位置を調整すると、ヘッドレストの高さも連動して上下します。

ℹ PRE-SAFE®（▷45 ページ）が作動すると、助手席シートはエアバッグの作動に対して適正な位置に自動的に調整されます。

フロントヘッドレストの角度調整

角度を調整する

▶ ヘッドレストの下部を持って、矢印の方向に動かします。

ラグジュアリーヘッドレスト * の調整

ヘッドレストの前後位置を調整する

▶ ヘッドレストのクッション部を矢印②の方向に動かします。

サイドクッションの位置を調整する

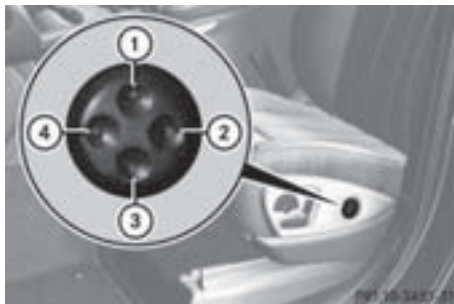
▶ サイドクッションを矢印①の方向に動かします。

左右のサイドクッションを独立して調整できます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警 告

サイドクッションを広げるときは、サイドクッションの可動部位に指をかけないでください。指を挟むおそれがあります。

電動ランバーサポート *

左側フロントシートのスイッチ
①③ ランバーサポートの位置の調整
② ランバーサポートの強さの調整（弱）
④ ランバーサポートの強さの調整（強）

フロントシートのランバー（腰部）のサポートを調整できます。

サポートの位置を調整する

▶ スイッチ①または③を押して、サポートの位置を調整します。

サポートの強さを調整する

▶ スイッチ②（弱）または④（強）を押して、サポートの強さを調整します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチコントロールシートバック *

フロントシートのサポートを調整します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

スイッチは運転席 / 助手席のシート下部にあります。

シートクッション前部のサポートを調整する

▶ スイッチ④を前方または後方に操作します。

ランバーサポートを調整する

腰部のサポートを調整できます。

▶ スイッチ③を押して、サポートの位置を調整します。

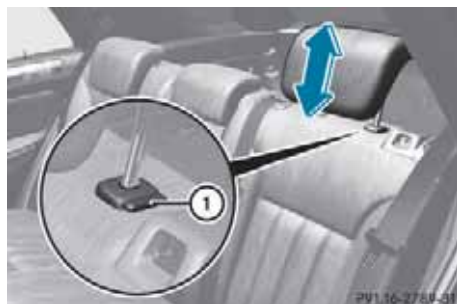
▶ スイッチ②を押して、サポートの強さを調整します。

バックレスト横方向のサポートを調整する

▶ スイッチ①を左右に操作します。

ℹ スイッチを操作しても調整できないときは、バックレストのエアタンクの圧力が低下しています。エンジンを始動してから再度調整してください。

リアヘッドレストの調整

ヘッドレストの高さを調整する

① ロック解除ボタン

ヘッドレストを高くする

▶ ヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストを低くする

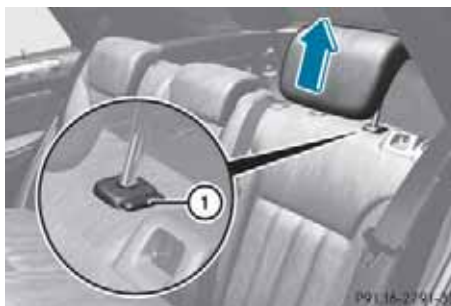
▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの角度を調整する

左右のヘッドレストは角度を調整することができます。

角度を調整する

▶ ヘッドレストの下部を矢印の方向に動かします。

ヘッドレストの脱着

ヘッドレストを取り外す

▶ バックレストを前方に傾けます（▷255 ページ）。

▶ ロック解除ボタン①を押しながら、ヘッドレストを取り外します。

ヘッドレストを取り付ける

▶ バックレストを前方に傾けます（▷255 ページ）。

▶ ロック解除ボタンがある取り付け穴に切り欠きのある支柱が入るようにして、ヘッドレストの支柱を取り付け穴に差し込んでロックさせます。

⚠ 警告

乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付けてください。衝突時に重大なけがをするおそれがあります。

シートベンチレーター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートベンチレーターを使用する

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押します。

シートベンチレータースイッチを押すごとに点灯するスイッチの表示灯の数が変わり、シートベンチレーターの作動が切り替わります。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

ⓘ リモコン操作でドアウインドウやスライディングルーフ * を開くと、運転席のシートベンチレーターが強で作動します。

ⓘ 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートベンチレーターが停止することがあります。電圧が回復すると、再び自動的に作動します。

シートヒーター

イグニッション位置が **1** か **2** のときに使用できます。

シートヒーターを使用する

▶ シートヒータースイッチ①を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯するスイッチの表示灯の数が変わり、シートヒーターの作動が切り替わります。

※ シートベンチレーターは、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 5 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。
0	停止しています。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ①を押して、スイッチの表示灯を消灯させます。

⚠ **警 告**

シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。

異常過熱による低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがあります。

! 以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気をさそう薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

ⓘ 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。このときは表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動し、表示灯が点灯します。

ステアリング

⚠ **警告**

ステアリングの調整は、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、エアバッグの上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼付しないでください。エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバー * を操作することでステアリングが動き出し、ステアリングに挟まれるおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいにまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステアリングの調整（手動式）

① ロック解除ハンドル
② 上下位置の調整
③ 前後位置の調整

ステアリング位置を調整する

▶ ステアリングコラム下部のロック解除ハンドル①を手前に引きます。

ステアリングコラムのロックが解除されます。

▶ 前後位置を調整するときは、ステアリングを③の方向に動かします。

上下位置を調整するときは、ステアリングを②の方向に動かします。

▶ ロック解除ハンドル①を前方にいっぱいに押します。

ステアリングがロックされます。

調整後は、ステアリングが確実にロックしていることを確認してください。

⚠ **警告**

ステアリングがロックされていない状態で走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ステアリングの調整（電動式）

① 前後位置の調整
② 上下位置の調整

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを①の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを②の方向に操作します。

ℹ 車種や仕様により、ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度と併せて記憶（▷99 ページ）させることができます。

イージーエントリー *

運転席への乗り降りを容易にするため、次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く
- 運転席ドアが開いているときに、キーレスゴースイッチ * でイグニッション位置を **0** にする

ステアリングは、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じている状態で、エンジンスイッチにキーを差す
- イグニッション位置が **0** のときは、運転席ドアを閉じてから **1** の位置にする
- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じて、**2** の位置にする

この機能の設定と解除については（▷166 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。

  挟まれそうになったときは、運転席のメモリースイッチかポジションスイッチ、ステアリング調整レバーのいずれかを操作してください。イージーエントリーの作動が停止します。
- 子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開いたときにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

ℹ ステアリングの位置によっては、ステアリングが上方に移動しないことがあります。

クラッシュセンサー連動機能

イージーエントリー機能を設定しているときは、事故などのときに、クラッシュセンサーに連動してイージーエントリー機能が作動します。事故などのときに運転席ドアを開くと、イグニッション位置に関わらずステアリングが上方に移動して、車外への脱出と乗員の救出を容易にします。

ミラー

⚠ 警告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ルームミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

⚠ **警告**

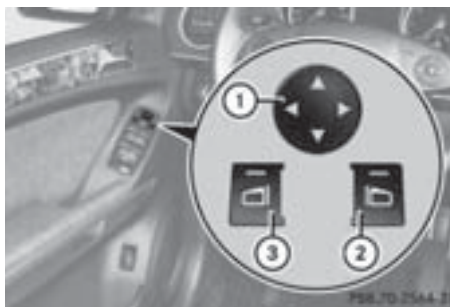
ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

ⓘ ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が低く、リアデフォッガー（▷232、241 ページ）を作動させたときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ⓘ 車種や仕様により、ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置と併せて記憶させることができます（▷99 ページ）。

ⓘ 運転席側ドアミラーは、ルームミラーに連動して防眩になります（▷97 ページ）。

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

ドアミラーの角度を調整する

▶ 調整したい側のドアミラー選択スイッチ②または③を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ①を操作してドアミラーの角度を調整します。

ⓘ ドアミラーの角度を調整しないまま約 15 秒経過すると、ドアミラー選択スイッチの表示灯が消灯し、角度調整はできなくなります。

ドアミラーの格納 / 展開

左ハンドル車

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

ドアミラーを格納する

▶ 格納 / 展開スイッチ④を押します。

ドアミラーを展開する

▶ 再度、格納 / 展開スイッチ④を押します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

ℹ 車を施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が一時的に断たれたり、バッテリーがあがったときは、施錠時のドアミラー格納が作動しないことがあります。このようなときは、ドアミラーをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 格納 / 展開スイッチ④を押します。

施錠時のドアミラーの格納

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと展開します。

この機能の設定と解除については (▷167 ページ) をご覧ください。

ℹ ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納してから施錠したときは、フロントドアを開いても、ドアミラーは展開しません。

自動防眩機能

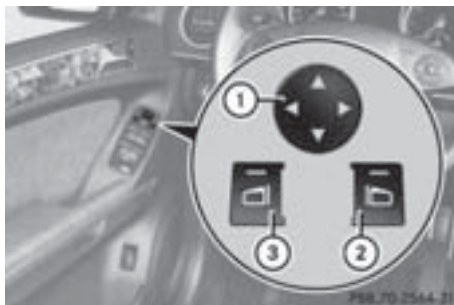
周囲が暗く、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーと運転席側ドアミラーの色の濃度が変わり眩しさを防止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

車内に高さのある荷物を積んでいるときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが照射されないときは自動防眩機能が作動しないことがあるため、眩惑により事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でルームミラーの角度を調整してください。

ⓘ シフトポジションが R のときやフロントルームランプが点灯しているときは自動防眩機能は解除されます。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

左ハンドル車

シフトポジションを R にしたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ②を押します。

▶ シフトポジションを R にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

助手席側ドアミラーは次のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- シフトポジションを R から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 走行速度が約 10km/h 以上になったとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ③を押したとき

ⓘ 運転席側ドアミラー選択スイッチが押されているときは、助手席側ドアミラーの角度は変わりません。

ⓘ パーキングヘルプ機能が作動しているときは、助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯したままになります。

助手席側ドアミラーの角度の記憶

▶ パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止します。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ②を押します。

▶ シフトポジションを R にします。

助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。

▶ ドアミラー調整スイッチ①で、助手席側ドアミラーを後退時に後方が確認しやすい角度に調整します。

調整した角度が新たに記憶されます。

メモリー機能 *

シート位置の記憶

左側シートのスイッチ

運転席シートと助手席シートには、3つのシート位置を記憶させることができます。運転席シートでは、ステアリングの位置とドアミラーの角度も記憶させることができます。

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置、ドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの角度を調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。

▶ メモリースイッチ "M" を押します。

▶ 約 3 秒以内にポジションスイッチ "1"、"2"、"3" のいずれかを押します。

" ピッ " という確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

⚠ 警告

子供だけを車内に残して車から離れないでください。スイッチを操作することでシートなどが動き出し、身体が挟まれるおそれがあります。

シート位置の呼び出し

⚠ 警告

運転席シートのシート位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 呼び出したいポジションスイッチ "1"、"2"、"3" のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

! バックレストを大きく後方に傾けているときは、記憶位置を呼び出す前に、バックレストを起こしてください。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチから手を放すとシートなどは停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ 警告

シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。

- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバックなどを挟み込まないでください。
- シートベルトをドアに挟んだり、鋭利な部分に当てないでください。
- シートベルトにたばこの火など、熱いものを近付けないでください。
- バックル部分に異物を入れないでください。
- シートベルトを分解したり、改造しないでください。
- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急な進路変更時やブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷46 ページ）をご覧ください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。
- 乗員が装着しているシートベルトで荷物などを固定しないでください。

⚠ **警告**

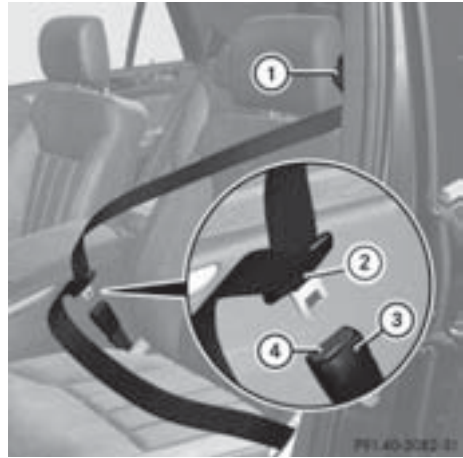
シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

- 汚れていたり損傷しているシートベルトや、事故で衝撃を受けたシートベルト、改造を受けたシートベルトは、適切な保護性能を発揮することができません。事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

  シートベルトに汚れや損傷がないことを定期的に確認してください。

  損傷しているシートベルトや事故などで衝撃を受けたシートベルトは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検し、必要であれば交換してください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。
- シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
  - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
  - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
  - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルトを着用する

▶ フロントシートは、シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー①からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート②の先端をバックル③に差し込みます。

フロントシートは、テンション自動調整機能が作動します（▷102ページ）。

▶ 必要であれば、シートベルトの高さを調整します（▷103 ページ）。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート②を持ち、バックル③の解除ボタン④を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれて、ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換する必要があります。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能

フロントシートベルトにはテンション自動調整機能が装備されています。

イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込むと、シートベルトが身体に密着するように、自動的にシートベルトのテンション（締め付け具合）を調整します。

この機能の設定と解除については（▷166 ページ）をご覧ください。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用せずにイグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

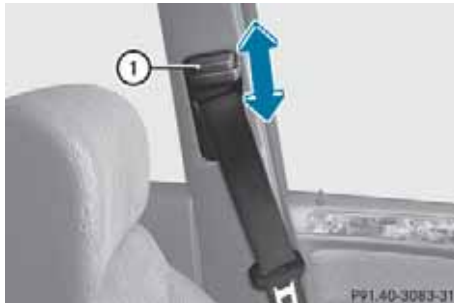
走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。

ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

ℹ 助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

シートベルトの高さ調整

フロントシートベルトは、高さを調整することができます。

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。

高さは 4 段階に調整できます。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、ベルトアンカーをそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン①を押しながらベルトアンカーを下げます。

調整後はベルトアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

正しい運転姿勢

⚠ **警 告**

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。また、ステアリングが確実にロックされていないときは走行しないでください。ステアリングがロックされていない状態で走行すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

左ハンドル車

正しい運転姿勢になるようにシート③を調整してください。

▶ 以下のことに注意して、シートとヘッドレストを調整します。
- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- バックレストはできるだけ垂直にして、正しい姿勢で着座している
- シートベルトが正しく着用できる
- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める
- ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認する

▶ 以下のことに注意して、ステアリング①を調整します。
- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

▶ 以下のことに注意して、シートベルト②を着用します。
- シートベルトが身体に密着している
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

▶ メモリー付パワーシート装備車は、メモリー機能でシートとステアリングの位置、ドアミラーの角度を記憶させます。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れてシートが動くと、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ランプ

ランプスイッチ

左ハンドル車

	マーク	作動内容
1	←P≦	左側パーキングランプが点灯
2	P≦→	右側パーキングランプが点灯
3	0	すべてのランプが消灯
4	AUTO	周囲の明るさに応じて自動的に点灯 / 消灯
5	車幅灯マーク	車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやスイッチなどの照明が点灯
6	ヘッドランプマーク	ヘッドランプ、LED ドライビングランプ * が点灯
7	フロントフォグランプマーク	フロントフォグランプ * が点灯
8	リアフォグランプマーク	フロントフォグランプ */ リアフォグランプが点灯

コンビネーションスイッチ

	表示灯	作動内容
⑨	ハイビーム表示灯	ヘッドランプが上向きで点灯
⑩	右方向指示表示灯	右側の方向指示灯が点滅
⑪	ハイビーム表示灯	パッシング
⑫	左方向指示表示灯	左側の方向指示灯が点滅

! 車から離れるときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! エンジンを停止した状態で、ランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ランプスイッチを [車幅灯] の位置にしたまま、エンジンスイッチにキーが差し込まれていない状態やキーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にしている状態で運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾗｲﾄ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ !" と表示されます。

このときはランプを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

ⓘ ヘッドランプが点灯しているときに、イグニッション位置を **2** 以外にすると、ヘッドランプが消灯します。さらにこの状態でイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ランプスイッチを [車幅灯] の位置にします。

ランプスイッチ横の車幅灯表示灯 [車幅灯] が点灯します。

ヘッドランプ / LED ドライビングランプ *

ヘッドランプ / LED ドライビングランプは手動または自動で点灯 / 消灯できます。

ヘッドランプ / LED ドライビングランプを手動で点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ランプスイッチを [ヘッドランプ] の位置にします。

メーターパネルのヘッドランプ表示灯 [ヘッドランプ] が点灯します。

ⓘ イグニッション位置が **1** のときは、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ランプスイッチ横の車幅灯表示灯 [車幅灯] が点灯します。

ヘッドランプ / LED ドライビングランプを自動で点灯 / 消灯する

▶ ランプスイッチを AUTO の位置にします。

- 周囲が暗いとき、イグニッション位置を **1** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯し、ランプスイッチ横の車幅灯表示灯 [車幅灯] が点灯します。
- エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドランプ / LED ドライビングランプも自動的に点灯し、メーターパネルのヘッドランプ表示灯 [ヘッドランプ] が点灯します。

ⓘ フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。このセンサーは、レインセンサーと同じ位置にあります （▷117 ページ）。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が作動しなくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

- ランプの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。ランプの自動点灯機能は運転者を支援する機能です。
- 以下の状況などではランプは自動的に点灯しなかったり、点灯していたランプが消灯して事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でランプを点灯してください。
  - ◇霧の中を走行するとき
  - ◇対向車のランプなどにより、センサーが正常に作動しないとき
- ランプスイッチを AUTO から ≣D の位置にするときは、必ず停車してください。ランプが一瞬消灯して事故を起こすおそれがあります。

フォグランプ

フロントフォグランプ * を点灯する

▶ イグニッション位置が **2** でランプスイッチの位置が ≑00≑ または ≣D のときに、ランプスイッチを 1 段引きます。

フロントフォグランプが点灯し、ランプスイッチ横のフロントフォグランプ表示灯 ‡D が点灯します。

フロントフォグランプとリアフォグランプを点灯する（フロントフォグランプ装備車）

▶ イグニッション位置が **2** でランプスイッチの位置が ≑00≑ または ≣D のときに、ランプスイッチを 2 段引きます。

フロントフォグランプとリアフォグランプが点灯し、ランプスイッチ横のフロントフォグランプ表示灯 ‡D とリアフォグランプ表示灯 O‡ が点灯します。

リアフォグランプを点灯する（LED ドライビングランプ装備車）

▶ イグニッション位置が **2** でランプスイッチの位置が ≣D のときに、ランプスイッチを引きます。

リアフォグランプが点灯し、ランプスイッチ横のリアフォグランプ表示灯 O‡ が点灯します。

⚠ 警告

ランプスイッチが AUTO または ≑00≑ の位置のとき（フロントフォグランプ装備車は AUTO の位置のとき）は、フォグランプを点灯することはできません。霧の中を走行するときは、あらかじめランプスイッチを ≣D の位置にしてヘッドランプを点灯してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! フォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。

! エンジンを停止した状態でランプを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

パーキングランプ

暗がりでの駐車時に後続車などに自車の存在を知らせるため、片側の車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングランプを点灯する

イグニッション位置が **2** 以外のときに点灯させることができます。

▶ ランプスイッチを P≤→ または ←P≤ の位置にします。

位置	作動内容
P≤→	右側のパーキングランプが点灯
←P≤	左側のパーキングランプが点灯

ヘッドランプ上向き / 下向きの切り替え

ヘッドランプを上向きにする

▶ コンビネーションスイッチを⑨の位置にします。

ヘッドランプが上向きになり、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≡D が点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを上向きにしないでください。

ヘッドランプを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチが⑨の位置のときは、コンビネーションスイッチを引いて、中立の位置にします。

ヘッドランプが下向きになります。

パッシングする

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときに、コンビネーションスイッチを⑪の方向に引きます。

引いている間、ヘッドランプが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 ≡D が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと中立の位置に戻ります。

方向指示

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

右側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを⑩の方向に操作します。

左側の方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを⑫の方向に操作します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

ⓘ 方向指示灯を点滅させているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯に切り替わります。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ⓘ コンビネーションスイッチを軽く操作すると、方向指示灯が 3 回点滅します。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、以下のランプが点灯します。

- 車幅灯
- ヘッドランプ（LED ドライビングランプ装備車）
- LED ドライビングランプ * またはフロントフォグランプ *
- テールランプ
- ライセンスランプ

点灯した車外ランプは、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒経過すると消灯します。

この機能の設定と解除については（▷162 ページ）をご覧ください。

車外ランプ消灯遅延機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、イグニッション位置を **2** にします。

ⓘ ランプが消灯するまでの時間は、ドアやテールゲートを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

ⓘ エンジンを停止してからドアやテールゲートを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ランプは消灯します。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯を点滅させる

▶ 非常点滅灯スイッチ①を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。

非常点滅灯スイッチ①とメーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

非常点滅灯を消灯させる

▶ 再度、非常点滅灯スイッチ①を押します。

! 非常時以外は使用しないでください。

! エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停止したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ⓘ 非常点滅灯を点滅させているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

ⓘ エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を解除するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ヘッドランプウォッシャー

エンジンがかかっていてヘッドランプが点灯しているときに、フロントウインドウウォッシャーを約 10 回操作すると、ヘッドランプウォッシャーが自動的に作動します。

ⓘ エンジンを停止するか、ヘッドランプを消灯させると、フロントウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。

ⓘ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

! ヘッドランプは樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

コーナリングランプ *

以下のときに、方向指示灯の点滅、またはステアリング操作に連動して、フロントフォグランプが点灯します。

- 周囲が暗いとき
- エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のとき
- ヘッドランプが点灯しているとき

方向指示灯の点滅との連動

方向指示灯を点滅させると、点滅させた側のフロントフォグランプが点灯します。

シフトポジションが R のときは、フロントフォグランプは点灯しません。

ステアリング操作との連動

ステアリングを操作すると、操作した側のフロントフォグランプが点灯します。

シフトポジションが R のときは、ステアリングを操作した方向と逆側のフロントフォグランプが点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のフロントフォグランプが点灯します。

ℹ フロントフォグランプはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のフロントフォグランプが点灯することがあります。

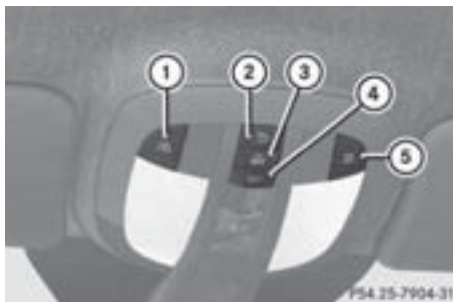
ℹ 点灯したフロントフォグランプは、約 3 分後に自動的に消灯します。

アクティブライトシステム

周囲が暗く、ヘッドランプを点灯して走行しているときにステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドランプの向きが変わります。

ℹ ヘッドランプの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。

ℹ 変化するヘッドランプの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

ルームランプ

① フロント読書灯（左側）スイッチ
② ラゲッジルームランプスイッチ
③ 点灯モード選択スイッチ
④ フロントルームランプスイッチ
⑤ フロント読書灯（右側）スイッチ

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③が押されていない状態にします。

以下の操作をするとフロントルームランプやリアルームランプ、ラゲッジルームランプおよびテールゲート裏側のランプ * が点灯 / 消灯します。

- ルームランプ消灯遅延機能（▷163 ページ）が設定されているときは、エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、約 10 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- いずれかのドアまたはテールゲートを開くと点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアやテールゲートを閉じるとただちに消灯します。

  ドアやテールゲートを開いたままのときは、消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーが抜いてあるときは、ドアやテールゲートを閉じると約 7 秒後に消灯します。

  ドアやテールゲートを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

ℹ 車種や仕様により、周囲が明るいときは、自動点灯モードにしていても、ルームランプなどが点灯しないことがあります。

ℹ 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で施錠すると、数秒後に自動的に消灯します。

常時消灯モードにする

▶ 点灯モード選択スイッチ③が押された状態にします。

以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠する
- ドアまたはテールゲートを開く

フロントルームランプの点灯 / 消灯

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ フロントルームランプスイッチ④を押します。

フロントルームランプが点灯 / 消灯します。

非常時の自動点灯

ルームランプが自動点灯モードのときは、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ルームランプが自動的に点灯します。また、このときは非常点滅灯も点滅します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ リモコン操作で施錠した後、解錠します。

または

▶ 点灯モード選択スイッチを押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

フロント読書灯の点灯 / 消灯

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ フロント読書灯スイッチ①⑤を押します。

ルームミラー下側のフロント読書灯が点灯 / 消灯します。

リアルームランプの点灯 / 消灯

リアルームランプは左右リアドアウインドウの上方にあります。

リアルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ リアルームランプ⑥の前部（矢印の部分）を押します。

リアルームランプが点灯 / 消灯します。

! リアルームランプを長時間点灯すると、リアルームランプが熱くなります。火傷をするおそれがありますので、操作するときなどは注意してください。

ラゲッジルームランプの点灯 / 消灯

ラゲッジルームランプはラゲッジルームの上方にあります。

ラゲッジルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ ラゲッジルームランプスイッチ②（▷111 ページ）を押します。

ラゲッジルームランプ⑦が点灯 / 消灯します。

i ラゲッジルームランプを点灯 / 消灯すると、テールゲート裏側のランプ * も点灯 / 消灯します。

フットウェルランプ

フロントシートおよびリアシートの足元 * に乗降用のランプがあります。

フロントルームランプまたはラゲッジルームランプを点灯させると、明るく点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠すると低い照度で点灯し、約 30 秒後に消灯します。
- イグニッション位置を **2** にすると低い照度で点灯し、**2** 以外の位置にすると約 7 秒後に消灯します。
- いずれかのドアを開くと明るく点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じると減光します。

  ◇イグニッション位置が **2** 以外のときは、ドアを閉じると減光し、約 7 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

センターコンソールランプ

ルームミラーの下部にあります。

車外ランプが点灯しているときに点灯します。

ドア下部のランプ

ドア下部に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- ドアを開くと点灯します。
- イグニッション位置が **2** 以外でドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ドアミラー下部のランプ

ドアミラー下部に乗降用のランプがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- いずれかのドアを開くと点灯し、ドアを閉じると約 7 秒後に消灯します。
- ドアを開いたままのときは、約 30 秒後に消灯します。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で解錠すると、約 30 秒間点灯します。

アンビエントランプ *

フロントドアのインナーグリップ下部やグローブボックス開口部のダッシュボード下端部などにアンビエントランプを装備しています。

ランプスイッチでの車幅灯の点灯 / に連動して、点灯します。車幅灯が消灯すると、イグニッション位置が **2** のときはすぐに、イグニッション位置が **1** か **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いてあるときは、約 5 分後に消灯します。

アンビエントランプは照度を調整することができます。詳しくは（▷162 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ワイパー

⚠ **警告**

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取れず、視界を妨げて事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

フロントワイパー

ワイパーを作動させる

イグニッション位置が **1** か **2** のときに作動します。

▶ コンビネーションスイッチをまわしてワイパー作動モードのマーク⑦を [•••] ～ [═] に合わせます。

位置	作動内容
1 [0]	停止
2 [•••]	オートモードⅠ ℹ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
3 [••••]	オートモードⅡ オートモードⅠよりも少ない雨滴量で作動します。 ℹ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
4 [─]	低速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、間欠作動になります。
5 [═]	高速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、低速作動になります。
⑥	ティップ機能 / フロントウインドウウォッシャーの噴射

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印⑥の方向に軽く押します。

ワイパーが 1 回だけ作動します（ウォッシャー液は噴射しません）。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

フロントウインドウウォッシャーを噴射する

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のとき、コンビネーションスイッチを矢印⑥の方向にいっぱいまで押します。

その間ウォッシャー液が噴射し、ワイパーも作動します。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! ウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを **0**（停止）の位置にしてください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。

! ウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

ウインドウが汚れている場合は、必ずウォッシャーを噴射してから使用してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを **0** の位置に戻してください。コンビネーションスイッチを **—** や **═** の位置のままイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! 車種や仕様により、イグニッション位置が **1** か **2** のときにコンビネーションスイッチを ··· か ···· の位置にすると、フロントウインドウが乾いていても、ワイパーが 1 回作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーがウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを操作してください。作業の際には、安全のため、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

i オートモードでは、フロントウインドウのレインセンサーが感知した雨滴量や走行速度などに応じて、ワイパーの作動を自動的に切り替えます。

i オートモードのとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは作動しません。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- シフトポジションが **P** または **N** のときは、ドアを閉じて他のシフトポジションにシフトしたとき
- シフトポジションが **D** または **R** のときは、ドアを閉じたとき

ℹ コンビネーションスイッチが [—] および [═] の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

ℹ ボンネットのロックが解除されているときは、ワイパーは作動しません。

ℹ ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

ℹ 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

リアワイパー

位置	作動内容
①	ノブ
[2] [5] [ワッシャー]	テールゲートウインドウウォッシャーの噴射
[3] [—]	リアワイパーの作動
[4] [0]	停止

⑥ リアワイパーインジケーター

リアワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときにノブ①をまわして、[3] の位置に合わせます。

リアワイパーが間欠で作動し、マルチファンクションディスプレイに、リアワイパーインジケーター⑥が表示されます。

ℹ イグニッション位置が **2** でフロントワイパーが作動しているときにシフトポジションを **R** にすると、リアワイパーが以下のように作動します。

- フロントワイパーが間欠作動のとき

  ◇間欠で作動します。

- フロントワイパーが低速あるいは高速作動のとき

  ◇低速で作動します。

テールゲートウインドウウォッシャーを噴射する

▶ イグニッション位置が **1** か **2** のときにノブ ① をまわして、**2** **5** の位置に合わせて保持します。

その間ウォッシャー液が噴射し、リアワイパーも作動します。

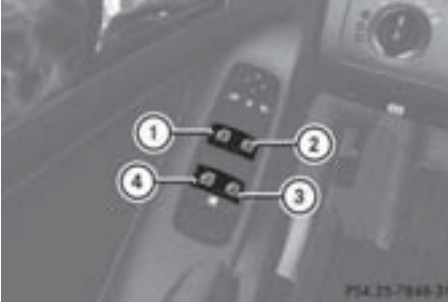
パワーウインドウ

ドアウインドウの開閉

⚠ **警告**

- ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。
- ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

  また、車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- 子供が車内からドアやドアウインドウを開くと、事故やけがの原因になります。

  子供を乗せるときは、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。

左ハンドル車
① 左フロントドアウインドウスイッチ
② 右フロントドアウインドウスイッチ
③ 右リアドアウインドウスイッチ
④ 左リアドアウインドウスイッチ

パワーウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ドアウインドウを開閉できます。

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウやスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。

i リモコン操作でドアウインドウを開くことができます（▷121 ページ）。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作 * でドアウインドウを閉じることができます（▷121 ページ）。

i ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉することができます。5 分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

i ドアウインドウが開いているときに PRE-SAFE®（▷45 ページ）が車両の横滑りを感知すると、ドアウインドウが少し開いた位置まで自動的に閉じます。

i 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席やリアドアのスイッチでドアウインドウを操作することはできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

挟み込み防止機能

⚠ 警告

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。ウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウがただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し開きます。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。このときに挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

さらにこの状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してからただちに再度ドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しません。

ドアウインドウが自動で開閉しないとき

以下のときは、それぞれのドアウインドウをリセットしてください。

- バッテリーあがりやバッテリーの交換などで、一時的に電源が断たれたとき
- ドアウインドウを閉じた後にスイッチから指を放すと、その位置から少し開くとき
- ドアウインドウが自動で開閉できなくなったとき

▶ ドアを閉じます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 運転席ドアのドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

この操作を行なってもドアウインドウが少し開いた状態になるとき

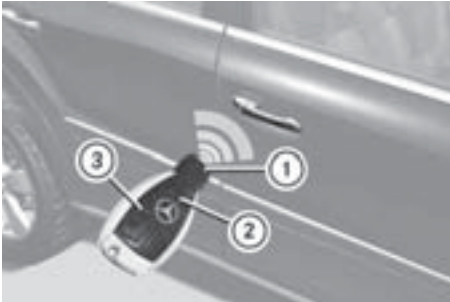
▶ ただちに運転席ドアのドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

スイッチから指を放したときにドアウインドウが閉じていれば、ドアウインドウはリセットされています。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、再度上記の操作を行なってください。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作でドアウインドウとスライディングルーフ * を開くことができます。

右ハンドル車および EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車

▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルの受光部に向けて、解錠ボタン③を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフ * が開きます。

解錠ボタン③から手を放すと、作動中のドアウインドウとスライディングルーフ * はその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! リモコン操作でドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

i コンビニエンスオープニング機能は、キーのリモコン操作でのみ行なうことができます。操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

i リモコン操作をするときは、キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルに向けて操作してください。

i エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * により、車外からドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じることができます。

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

! コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下で操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

! 車外から施錠したときは、車から離れる前に、すべてのドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じていることを確認してください。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作およびキーレスゴー操作 * はできません。

ⓘ 操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

リモコン操作でドアウインドウとスライディンググルーフ * を閉じる

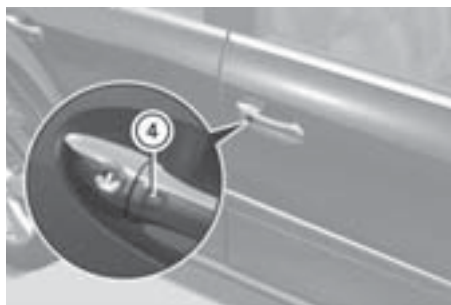
▶ キーの発信部①を運転席ドアのドアハンドルの受光部に向けて、施錠ボタン②を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディンググルーフが閉じます。

施錠ボタン②から手を放すと、作動中のドアウインドウとスライディンググルーフはその位置で停止します。

⚠ 警告

リモコン操作でドアウインドウやスライディンググルーフなどを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、ただちに施錠ボタンから手を放し、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウとスライディンググルーフを開いてください。

キーレスゴー操作でドアウインドウとスライディンググルーフ * を閉じる *

右フロントドア

▶ ドアハンドルのキーレスゴースイッチ④を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディンググルーフが閉じます。

キーレスゴースイッチ④から手を放すと、作動中のドアウインドウやスライディンググルーフはその位置で停止します。

⚠ 警告

キーレスゴー操作でドアウインドウやスライディンググルーフなどを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、ただちにドアハンドルのキーレスゴースイッチから手を放し、ドアハンドルを引き続けてください。ドアウインドウとスライディンググルーフが開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 警告

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 警告

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! 少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

ⓘ ランプやエアコンディショナーなど、バッテリーの負担になる装置のスイッチをオフにしておくと始動性が良くなります。

シフトポジション

シフトポジション	作動内容
P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき • 停車中またはごく低速で走行しているときに、シフトポジションが D か R の状態で運転席ドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、自動的に N になります。 ! シフトポジションを N にしたまま走行すると、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

! エンジンは、シフトポジションが N のときも始動できますが、安全のため、必ずシフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

キーによるエンジンの始動

ℹ キーによるエンジン始動を行なうときは、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチ * を取り外します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

ガソリンエンジン車

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

ディーゼルエンジン車

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **2** の位置までまわします。

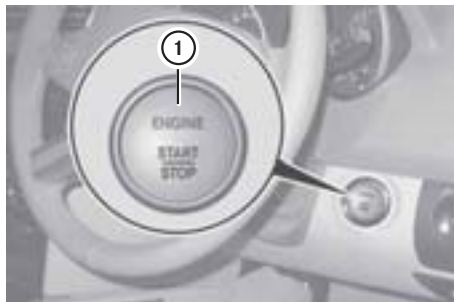
メーターパネルの予熱表示灯（▷27 ページ）が点灯します。

▶ 予熱表示灯が消灯したら、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

ℹ ディーゼルエンジン車は、エンジンが暖まっているときは、余熱操作をせずにエンジンを始動できます。

キーレスゴー操作によるエンジンの始動 *

⚠ 警 告

ごく短時間でも、車から離れるときは子供だけを車内に残さないでください。また、必ずキーを携帯してください。キーレスゴー操作により車が発進して事故の原因になったり、運転装置に触れてけがをするおそれがあります。

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチ①を押します。

❗ エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などにキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、警告音が鳴ります。また、マルチファンクションディスプレイに "ｷｰｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞｷﾏｾﾝ" と数秒間表示されます。この警告は、停車してドアやテールゲートを開いた後に走行を開始するたびに行なわれます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

タッチスタート機能

エンジンスイッチに差し込んだキーを **3** の位置（▷82 ページ）までまわすか、キーレスゴースイッチ * を押すと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

発進

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、車輪を空転させせないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! ML 63 AMG では、エンジンオイルの油温が約 20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。

i 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。

車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷165 ページ）をご覧ください。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを **D** にします。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヒルスタートアシスト

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

ヒルスタートアシストの作動

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

⚠ 警告

- ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にしてください。
- ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 下り坂で発進するとき
- シフトポジションが N のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障して解除されているとき

駐車

⚠ 警告

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

⚠ 警告

駐停車するときは、マフラーや排気系部品が、枯れ草や紙くず、油などの燃えやすいものに触れないようにしてください。発火して、火災が発生するおそれがあります。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じて、車を施錠してください。

確実に駐車するために、以下のことを確認してください。

- パーキングブレーキが確実に効いていること
- シフトポジションが P になっていて、エンジンスイッチからキーが抜かれているか、イグニッション位置が 0 になっていること
- 坂道で駐車するときは、前輪が歩道方向に向いていること

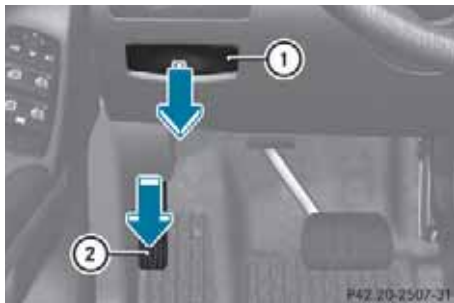
* オプションや仕様により、異なる装備です。

パーキングブレーキ

⚠ 警告

- 子供だけを残して車から離れないでください。パーキングブレーキを解除して車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。
- 急な坂道で駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

⚠ 警告

パーキングブレーキを効かせたまま走行しないでください。パーキングブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

左ハンドル車

パーキングブレーキを解除する

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏みます。

▶ 解除ハンドル①を手前に引きます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (①) が消灯します。

パーキングブレーキを効かせる

▶ 右足でブレーキペダルを踏み、左足でパーキングブレーキペダル②をいっぱいまで踏み込みます。

メーターパネルのブレーキ警告灯 (①) が点灯します。

! パーキングブレーキは完全に停車してから効かせてください。

i パーキングブレーキを解除せずに走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されます。

エンジンを停止するとき

⚠ 警告

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを P にします。

▶ イグニッション位置を **0** にします。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

キーレスゴー操作でエンジンを始動したとき *

▶ 完全に停車します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを P にします。

▶ キーレスゴースイッチを押します。

▶ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

⚠ 警告

走行中にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押し続けるとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ⓘ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

オートマチックトランスミッション

⚠ 警告

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

停車中は、必ずパーキングブレーキを効かせてください。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のとき、以下の状況に合わせて自動的にギアを変速します。

- 選択されているギアレンジ
- 走行モード（▷133 ページ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シフトポジション

シフトポジション	作動内容
P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動／停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき • 停車中またはごく低速で走行しているときに、シフトポジションが D か R の状態で運転席ドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、自動的に N になります。 ! シフトポジションを N にしたまま走行すると、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速～ 7 速の範囲で自動的に変速します。

⚠ 警告

走行中にシフトポジションを N にすると、エンジンブレーキがまったく効かなくなり、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

セレクターレバー

① セレクターレバー
② パーキングポジションの選択
③ ニュートラルポジションの選択
④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

シフトポジションを P にする

▶セレクターレバー先端のボタンを②の方向に押します。

シフトポジションを N にする

▶セレクターレバーを③または④の方向に軽く操作します。

シフトポジションを R にする

▶セレクターレバーを⑤の方向にいっぱいまで操作します。

シフトポジションを D にする

▶セレクターレバーを⑥の方向にいっぱいまで操作します。

⚠ 警告

セレクターレバーはステアリングの右側にあります。方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こしたり、車を損傷するおそれがあります。

⚠ 警告

約 10km/h 以下で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更できますが、シフトポジションが変更されたことに気付かずに一旦停止して、再度走り出すと、車が不意に後退または前進して事故を起こすおそれがあります。

エンジンを停止してシフトポジションが自動的に N になったときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを効かせてください。車が動き出すおそれがあります。

! セレクターレバーを操作するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

! シフトポジションを P または R にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、車輪を空転させせないように注意してください。駆動系部分を損傷するおそれがあります。

i セレクターレバーから手を放すと、セレクターレバーは中立の位置に戻ります。

i シフトポジションが R のときは、確認音が鳴ります。

i シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。さらに、この状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションが N のときにエンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは P になりません。

i 停車してイグニッション位置が **2** のとき、またはごく低速で走行しているとき、シフトポジションが D または R の状態で運転席ドアを開くと、シフトポジションが P になります。

ただし、運転席ドアが開いている状態でシフトポジションを D または R にしたときは、前進 / 後退することができます。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から D または R にできます。

i イグニッション位置が **1** で、ブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から N にできます。

i シフトポジションを P から他のシフトポジションにするときにブレーキペダルが踏まれていないと、マルチファンクションディスプレイに "P ﾚﾝｼﾞ ｶﾗ ｼﾌﾄ ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ" と表示されます。

i 約 10km/h 以上で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更しようとすると、N になります。

i イグニッション位置が **2** のとき、シフトポジションが N の状態で運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに "ｾﾚｸﾀｶﾞ ｿｳｺｳｲﾁ" と表示され、警告音が鳴ります。

i 約 10km/h 以下でセレクターレバー先端のボタンを ② の方向に押すと、シフトポジションが P になります。また、約 15km/h 以上でセレクターレバー先端のボタンを ② の方向に押したときは、シフトポジションは P にならず、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "P ﾚﾝｼﾞ ﾊ ﾃｲｼｼﾞ ﾉﾐ" と表示されます。

シフトポジション表示

① シフトポジション表示
(ドライブポジションが選択されている状態)

マルチファンクションディスプレイが表示されているときに、選択されているシフトポジションがシフトポジション表示①に反転表示されます。

! マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションが表示されないときは、セレクターレバーを慎重に操作してゆっくりとアクセルペダルを踏み、選択されたシフトポジションを確認してから走行してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

走行モードの切り替え *

① 走行モード表示

路面の状況や運転に合わせてオートマチックギアシフトの走行モードを切り替えることができます。選択された走行モードはメーターパネルの走行モード表示①に表示されます。

走行モード	作動内容
S モード	スポーティな走行に適したモードです。
C モード *	快適性と経済性を重視したモードです。
M モード *	マニュアルでギアシフトできるモードです。 詳しくは (▷136 ページ) をご覧ください。

走行モードが S モードのときは、以下のようになります。

- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、エンジン回転数が高くなり、燃料をより多く消費します。

走行モードが C モードのときは、以下のようになります。

- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃料の余分な消費が抑えられます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が低く抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

ⓘ エンジン始動時は、エンジン停止時の走行モードに関わらず、オフロードパッケージ装備車は S モード、ML 63 AMG は C モードに設定されます。

オフロードパッケージ装備車

走行モードを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ②を押します。

S モード→ M モード→ S モードと切り替わります。

ML 63 AMG

走行モードを選択する

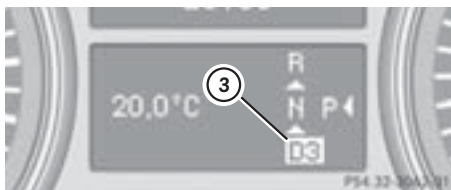
▶ 走行モード選択スイッチ③を押します。

C モード→ S モード→ M モード→ C モードと切り替わります。

ティップシフト

① 左側パドル（低いギアレンジを選択）
② 右側パドル（高いギアレンジを選択）
※ 車種や仕様により、パドルの色や形状は異なります。

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより、不必要に変速しないようにすることができます。

走行モードが M モード *（▷133 ページ）以外のときに、ティップシフトにできます。

③ ギアレンジ表示

※ オフロードパッケージは、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ティップシフトにする

▶ シフトポジションが D のときに、左側パドル①を引きます。

ティップシフトに切り替わり、選択されたギアレンジがマルチファンクションディスプレイのギアレンジ表示③に表示されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル①を引きます。

低いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示③にギアレンジが表示されます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル②を引きます。

高いギアレンジが選択され、ギアレンジ表示③にギアレンジが表示されます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル②を引いて保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示③に " D " が表示されます。

ギアレンジ	作動内容
D	1 速～ 7 速の範囲で変速します。
D6	1 速～ 6 速の範囲で変速します。
D5	1 速～ 5 速の範囲で変速します。
D4	1 速～ 4 速の範囲で変速します。
D3	1 速～ 3 速の範囲で変速します。エンジンブレーキが必要なときに使用します。
D2	1 速～ 2 速の範囲で変速します。下り坂や山道、悪路を走行するときに使用します。
D1	1 速に固定されます。エンジンブレーキが最大に作用します。急な下り坂や長い下り坂を走行するときに使用します。

⚠ 警告

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

❗ マルチファンクションディスプレイが故障してシフトポジションやギアレンジが表示されないときは、ティップシフトを解除して走行してください。また、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

ℹ ティップシフトが選択されていないときにパドル②を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

ℹ 加速時にエンジンの許容回転数を超えるようなときは、自動的にシフトアップが行なわれます。

ℹ ギアレンジ表示は選択したギアレンジを示しており、実際のギアを示すものではありません。

ℹ パドル①を引いても、選択したギアレンジが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトダウンされません。

ℹ エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても選択したギアレンジに変わらないことがあります。

マニュアルギアシフト *

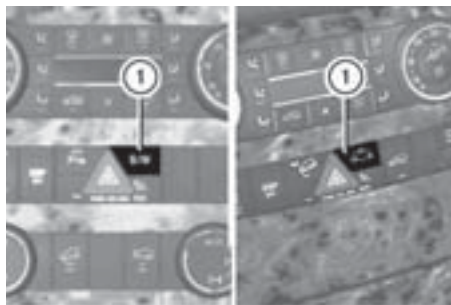
ステアリングのパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

⚠ **警告**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。ギアをシフトするときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

❗ エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

ℹ マニュアルギアシフトでは ESP® の機能を解除しないで走行することをお勧めします（▷59 ページ）。

マニュアルギアシフトの選択

（左）オフロードパッケージ装備車
（右）ML 63 AMG

※ オフロードパッケージは、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

② 走行モード表示
③ ギア表示

マニュアルギアシフトを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、走行モード表示②に " M " を表示させます。

選択されているギアがギア表示③に表示されます。

また、マルチファンクションディスプレイに AMG メニュー * を表示していて、シフトポジションが D のときは、マルチファンクションディスプレイに選択されているギアが表示されます（▷147 ～ 149 ページ）。

ⓘ マニュアルギアシフトではギア表示③に表示される数字は実際のギアを示しています。

運転者のシフトアップ / ダウン操作や、自動的なシフトアップ * / ダウンに応じてシフトインジケーターに表示される数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ①を押して、走行モード表示②に " S " または " C "* を表示させます。

ⓘ マニュアルギアシフトを選択した状態でエンジンを停止すると、次にエンジンを始動したときは、オートマチックギアシフトに切り替わります。

シフト操作

① 左側パドル（シフトダウン）
② 右側パドル（シフトアップ）

※ 車種や仕様により、パドルの色や形状は異なります。

シフトダウンする

▶ 左側パドル①を引きます。

操作するたびに 1 段下のギアにシフトダウンします。

シフトアップする

▶ 右側パドル②を引きます。

操作するたびに 1 段上のギアにシフトアップします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! オフロードパッケージ装備車では、ローレンジモードになっているときは（▷180 ページ）、エンジン回転数が高回転になってもオートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップしません。エンジン回転数の上げすぎに注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

i 停車すると、ギアは 1 速にシフトされます。

i 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

i シフトダウン操作をしなくても、速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンすることがあります。

i シフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

i オフロードパッケージ装備車では、エンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、自動的にシフトアップされます。このとき、ギア表示の数字も変わります。

i ML 63 AMG では、自動的にシフトアップされません。

i オフロードパッケージ装備車では、キックダウンを行なうことができます。

i ML 63 AMG では、キックダウンを行なうことはできません。

i ステアリング左側のパドルを引き続けると、そのときの加速に最も適したギアが選択されます。

※ オフロードパッケージは、日本仕様には装備されません。

シフトアップ表示（ML 63 AMG）

① ギア表示
② シフトアップ表示 "up"

エンジン回転数が上昇して、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイの表示が赤くなり、選択しているギア表示①の横に、"up" ②が表示されます。

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷26、27 ページ）をご覧ください。

⚠ **警告**

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。十分注意して走行してください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メーターパネルの点灯

メーターパネルは以下のときに点灯します。

- 運転席ドアを開いたときや閉じたとき（約 30 秒後に消灯）
- メーターパネル照度調整ボタンまたはリセットボタンを押したとき（約 30 秒後に消灯）
- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき（イグニッション位置を **0** にしてから約 30 秒後に消灯）
- 車外ランプが点灯したとき

スピードメーター

車の走行速度を表示します。

速度の表示単位をマイルに変更することもできますが、マイル表示にすると km/h 表示に比べ、同じ数字でも約 1.6 倍の速度になります。速度の出しすぎを防ぐため km/h 表示にしてください。

表示の切り替えについては（▷158 ページ）をご覧ください。

ⓘ 1mph は約 1.6km/h です。

ⓘ マイル表示を選択すると、トリップメーターなどの表示もマイル表示になります。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン回転数が許容回転数を超えると、エンジン保護のため、燃料供給が行なわれなくなります。

外気温度表示

外気温度を表示します。

外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

温度をフロントバンパー付近で測定しているため、温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

⚠ **警 告**

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

メーターパネル照度調整ボタン / リセットボタン

① 照度調整ボタン（明）
② リセットボタン
③ 照度調整ボタン（暗）

メーターパネル照度調整ボタン

周囲が暗いときにメーターパネルの明るさを調整できます。

照度を上げる

▶ 照度調整ボタン①を押します。

照度を下げる

▶ 照度調整ボタン③を押します。

リセットボタン

トリップメーターや各種設定などをリセットするときに使用します。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンクの容量は約 95 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 13 リットル（ML 63 AMG は約 15 リットル）です。

ℹ 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

時計

時刻は、COMAND システムの時刻に連動します。

時刻の調整については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイは、故障 / 警告メッセージや各種情報などを表示･設定するシステムです。

マルチファンクションステアリング

マルチファンクションディスプレイの操作は、ステアリングのスイッチで行ないます。

⚠ **警 告**

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。

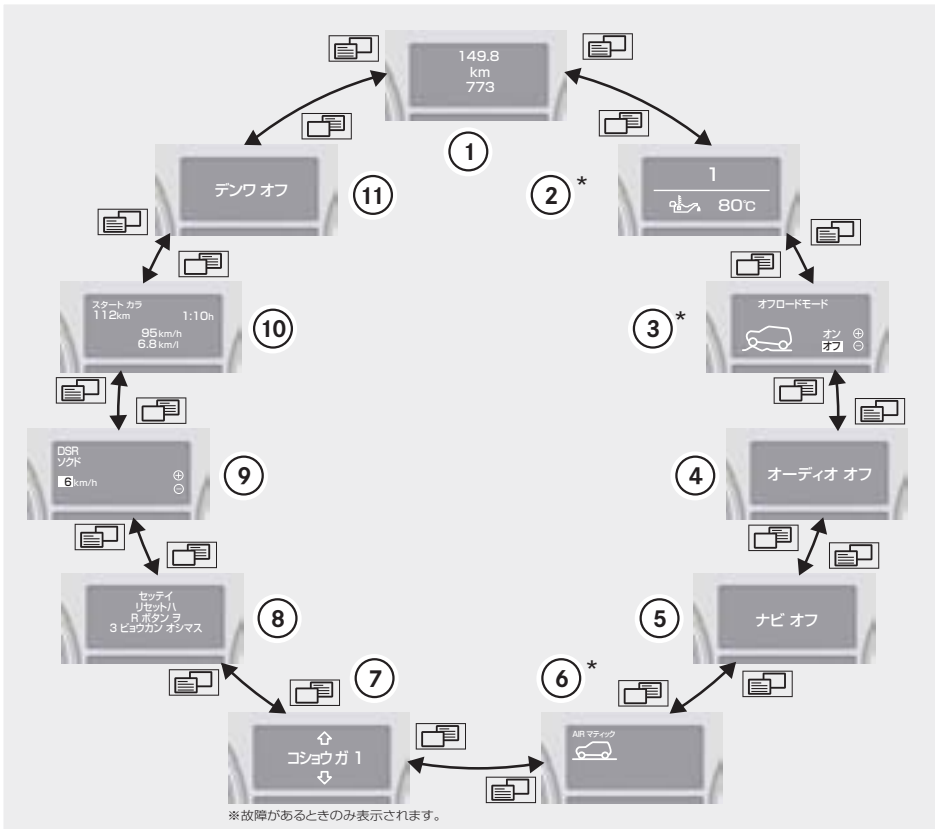
⚠ **警 告**

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**通話終了スイッチ** [電話終了] • 電話の保留 / 切断 • 電話帳表示や発信履歴表示の終了 **通話開始スイッチ** [電話開始] • 電話の発信 / 受信 • 発信履歴の表示 **設定スイッチ / 音量スイッチ** [+] [−] • 各種設定の設定グループ選択画面でのグループの選択 • 設定項目画面での数値や設定の変更や、機能のオン / オフの選択 • 各メイン画面やオーディオ画面表示中の音量の調節 • レースタイマーの操作（ML 63 AMG） **音声認識スイッチ** [音声認識] 音声認識の使用
③	**スクロールスイッチ** [▲] [▼] • 選択したメイン画面内での画面の切り替え • オーディオ画面表示中のオーディオやテレビの選曲・選局、DVD ビデオのチャプターの選択 • 電話画面表示中の電話帳や発信履歴の選択 **表示切り替えスイッチ** [◀] [▶] メイン画面の選択 **音声認識解除スイッチ** [OFF] 音声認識の中止

ⓘ ステアリングスイッチでの COMAND システムの操作については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

メイン画面一覧

※故障があるときのみ表示されます。

①	車両情報
②	AMG 表示 *
③	オフロードモード設定 *
④	オーディオ
⑤	ナビゲーション・進行方向方位表示
⑥	車高レベル / オフロード表示 *
⑦	故障表示
⑧	各種設定
⑨	車両設定
⑩	トリップコンピューター
⑪	電話

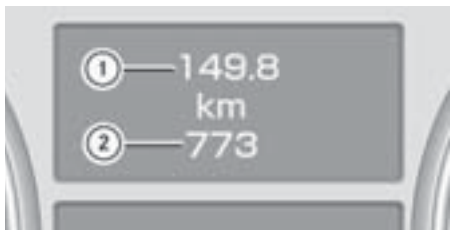
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車両情報

「車両情報」には以下の画面があります。

- 車両情報メイン画面（トリップメーター、オドメーター）
- 車両情報サブ画面
- タイヤ空気圧警告システム画面（▷291 ページ）
- 冷却水温度画面
- サブスピードメーター / 外気温度表示画面
- メンテナンスインジケーター画面（▷312 ページ）

車両情報メイン画面（トリップメーター / オドメーター）

車両情報メイン画面を表示させる

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

①	トリップメーター	リセット後の走行距離を表示します。
②	オドメーター	これまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーターをリセットする（0.0 に戻す）

▶ リセットボタン（▷140 ページ）を、表示が 0.0 になるまで押し続けます。

車両情報サブ画面

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

①	外気温度表示 / サブスピードメーター	外気温度または走行速度を表示します。 表示の切り替えは各種設定の " インストルメントクラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷159 ページ）で行ないます。
②	可変スピードリミッター設定速度表示 * / DSR 設定速度表示	可変スピードリミッター（▷190 ページ）、DSR（▷174 ページ）で設定した速度を表示します。
③	クルーズコントロールインジケーター * / DSR インジケーター	クルーズコントロール（▷186 ページ）、DSR（▷174 ページ）を作動させたときに表示されます。
④	オフロード・ドライブ・プログラムインジケーター * / ローレンジインジケーター / クルーズコントロール設定速度表示 *	オフロード･ドライブ･プログラム（▷178 ページ）またはローレンジモード（▷180 ページ）に設定したときに表示されます。 また、クルーズコントロール（▷186 ページ）で設定した速度を表示します。
⑤	シフトポジション表示	オートマチックトランスミッションのシフトポジションを表示します。 選択しているシフトポジションは反転表示されます（▷133 ページ）。
⑥	ギアレンジ表示 ギア表示 *	ティップシフトのときに選択しているギアレンジを表示します（▷134 ページ）。 マニュアルギアシフト * のときに選択しているギアを表示します（▷137 ページ）。
⑦	走行モード表示 *	オートマチックトランスミッションの走行モードを表示します（▷133 ページ）。

⚠ **警 告**

外気温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

! 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

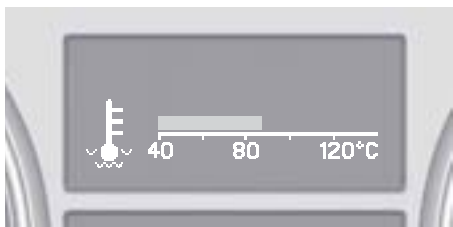
i 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤ空気圧警告システム画面

詳しくは（▷291 ページ）をご覧ください。

冷却水温度画面

イグニッション位置が **2** のとき、エンジンの冷却水温度を表示します。

冷却水温度画面を表示させる

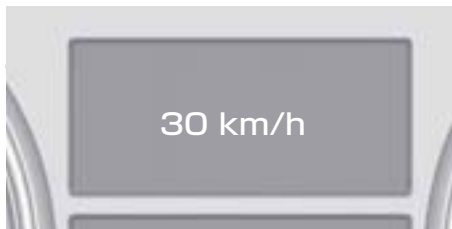
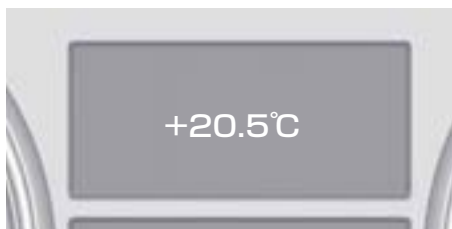
▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ または を押して、冷却水温度画面を表示させます。

ℹ 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

ℹ 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が右端付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷339､340 ページ）が表示されない限り、問題ありません。

サブスピードメーター / 外気温度表示画面

走行速度または外気温度を表示します。

サブスピードメーター

外気温度表示

表示の切り替えは各種設定の " インストルメントクラスタ " の " 車両情報サブ画面の表示設定画面 "（▷159 ページ）で行ないます。

サブスピードメーター / 外気温度表示画面を表示させる

▶ または を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷144 ページ）。

▶ または を押して、サブスピードメーター / 外気温度表示画面を表示させます。

ℹ サブスピードメーターの表示単位を km/h または mph に切り替えることができます（▷158 ページ）。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メンテナンスインジケーター画面

詳しくは（▷312 ページ）をご覧ください。

AMG 表示（ML 63 AMG）

「AMG 表示」には以下の画面があります。

- ギア表示・油温表示画面
- ギア表示・電圧表示画面
- ギア表示・レースタイマー画面
- 計測結果表示画面（全ラップ）
- 計測結果表示画面（ラップ別）

ギア表示・油温表示画面

① ギア表示
② 油温表示

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

エンジンがかかっていて、シフトポジションが D のときに表示されます。

油温表示②は、エンジンオイルの油温を表示します。

ギア表示・油温表示画面を表示させる

▶ または を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させせます。

! 油温表示のマークが点滅しているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約 80℃未満になっています）。このときはエンジン回転数を必要以上に上げないように運転してください。

i イグニッション位置が **1** のときは、油温は表示されません。このときは " ---℃ " が表示されます。

ギア表示・電圧表示画面

① ギア表示
② 電圧表示

ギア表示①は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。

エンジンがかかっていて、シフトポジションが D のときに表示されます。

電圧表示②は、バッテリーの電圧を表示します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ギア表示・電圧表示画面を表示させる

▶ [ ] または [ ] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます(▷147 ページ)。

▶ [△] または [▽] を押して、ギア表示・電圧表示画面を表示させます。

ギア表示・レースタイマー画面

① ギア表示
② 計測タイム
③ ラップ表示

ギア表示・レースタイマー画面では、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

レースタイマーは、イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

ギア表示・レースタイマー画面を表示させる

▶ [ ] または [ ] を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます(▷147 ページ)。

▶ [△] または [▽] を押して、ギア表示・レースタイマー画面を表示させます。

ⓘ 計測タイムは 1 秒単位で表示されます。

ⓘ ギア表示・レースタイマー画面を表示させているときは、[+] または [−] を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

タイム計測を開始する

▶ [+] を押します。

タイム計測が開始されます。

タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に [+] を押します。

タイム計測が停止します。

ⓘ タイム計測を停止しているときに [+] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

ⓘ タイム計測中に、イグニッション位置を **1** にすると、タイム計測が停止します。

その後、イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動して [+] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

ⓘ イグニッション位置を **0** にすると、計測タイムは消去されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に [−] を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

約 5 秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

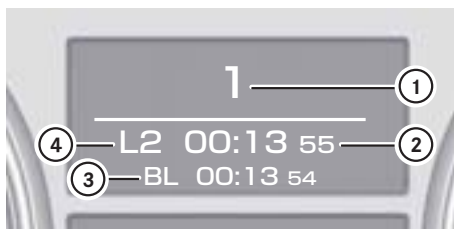
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ℹ スプリットタイムを表示しているときに再度 [ー] を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに [ー] を押します。

計測タイムが消去され、表示が 00:00₀₀ に戻ります。

ラップタイムを記録する

① ギア表示
② 計測タイム
③ 最速ラップタイム
④ ラップ数

最大 9 件までの計測タイムをラップタイムとして記録できます。

▶ タイム計測中に [ー] を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

ℹ このときから、次のラップタイムの計測が開始されます。

▶ スプリットタイムが表示されているときに、再度 [ー] を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップタイムが表示されます。

ℹ ラップタイムが記録されているときは、計測タイム②の下に最速ラップタイム③が表示されます。

ℹ ラップタイムが 9 件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、記録したラップタイムを消去してください。

記録したラップタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに、リセットボタン（▷140 ページ）を 2 回押します。

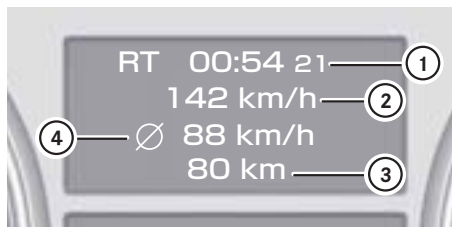
記録したすべてのラップタイムが消去され、表示が 00:00₀₀ に戻ります。

ℹ 記録したラップタイムは個別に消去できません。

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから一定の時間が経過すると、ラップタイムは消去されます。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

全ラップの計測結果を確認する

計測結果表示画面（全ラップ）
① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの総走行距離
④ 計測した全ラップでの平均速度

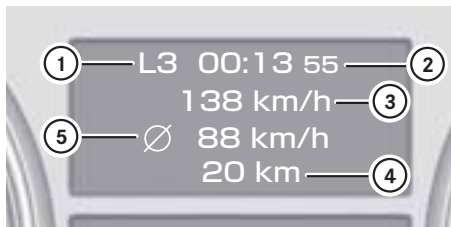
2 周以上のラップタイムが記録されているときは、タイム計測が停止しているときに計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（全ラップ）を表示させる

▶ または を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（▷147 ページ）。

▶ または を押して、計測結果表示画面（全ラップ）を表示させます。

ℹ タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

ラップごとの計測結果を確認する

計測結果表示画面（ラップ別）
① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップでの走行距離
⑤ 表示されているラップでの平均速度

ラップタイムが記録されているときは、タイム計測が停止しているときにラップごとの計測結果を表示できます。

計測結果表示画面（ラップ別）を表示させる

▶ または を押して、ギア表示・油温表示画面を表示させます（▷147 ページ）。

▶ または を押して、表示させたいラップの計測結果表示画面を選択します。

ℹ 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示①が点滅します。

ℹ タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

オフロードモード設定（ML 63 AMG）

オフロードモード設定画面

ML63 AMG のオフロード・ドライブ・プログラムの設定ができます。

オフロードモード設定画面を表示させる

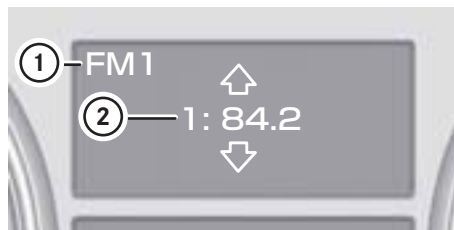
▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オフロードモード設定画面を表示させます。

表示	設定内容
オン	オフロード・ドライブ・プログラムが設定されます。
オフ	オフロード・ドライブ・プログラムが解除されます。

詳しくは（▷179 ページ）をご覧ください。

オーディオ

ラジオ局を選局する

① "FM1" または "FM2"
"AM1" または "AM2" または "TI"
② ラジオ局名または受信周波数

COMAND システムで、FM ラジオまたは AM ラジオを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオ画面を表示させます。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ [△] または [▽] を押します。

プリセットされたラジオ局が選択されます。

ラジオ局を自動選局する

▶ 受信周波数が動きはじめるまで、[△] または [▽] を押して保持します。

次に受信できる周波数で停止します。

ⓘ ラジオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

音楽を選曲する

① 音楽ソース表示
("DISC" / "CARD" / "HDD" / "MEDIA" / "AUX")
② トラック番号

COMAND システムで再生している音楽ソース（ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェース、外部入力）が音楽ソース表示 ① に表示されます。

▶ [ ] または [ ] を押して、オーディオ画面を表示させます。

音楽を選曲する

ディスク、メモリーカード、ミュージックレジスター、メディアインターフェースのいずれかを再生しているときは選曲を行なうことができます。

▶ [⇧] または [⇩] を押します。

次の曲または前の曲が選曲されます。

ℹ 音楽再生の詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

DVD ビデオのチャプターを選択する

① チャプター番号

COMAND システムで、DVD ビデオを再生しているときに表示・選択できます。

▶ [ ] または [ ] を押して、オーディオ画面を表示させます。

DVD ビデオのチャプターを選択する

▶ [⇧] または [⇩] を押します。

次のチャプターまたは前のチャプターが再生されます。

ℹ DVD ビデオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

テレビ局を選局する

① "TV1" または "TV2"
② プリセット番号 / チャンネル番号

COMAND システムで、テレビを受信しているときに表示・選局できます。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、オーディオ画面を表示させます。

テレビ局をプリセット選局する

▶ [△] または [▽] を押します。

プリセットされたテレビ局が選択されます。

テレビ局を自動選局する

▶ 受信チャンネルが動きはじめるまで、[△] または [▽] を押して保持します。

次に受信できるチャンネルで停止します。

ⓘ テレビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

ナビ

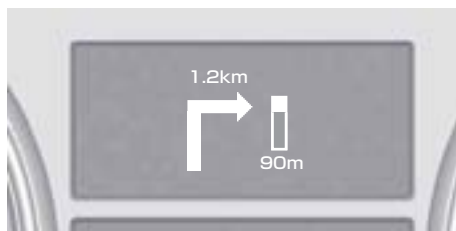
COMAND システムのナビ機能をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ナビ画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、ナビ画面を表示させます。

ルート案内を行なっていないとき

マルチファンクションディスプレイに進行方向の方位が表示されます。

ルート案内を行なっているとき

マルチファンクションディスプレイに進行方向や目的地までの距離、交差点（分岐点）または通過点までの距離が表示されます。

ⓘ 詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

車高レベル / オフロード表示 *

車高レベルやディファレンシャルロックに関する情報を表示します。

車高レベル / ディファレンシャルロック表示画面（オフロードパッケージ装備車）

① 車高レベル表示
② ディファレンシャルロック表示

オフロードパッケージ装備車は、AIR マティックサスペンションの車高レベルとディファレンシャルロックの作動状態を表示することができます。

車高レベル / ディファレンシャルロック表示画面を表示させる

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ⊡ または ⊡ を押して、車高レベル / ディファレンシャルロック表示画面を表示させます。

ℹ 車高レベルがオフロードレベル 3 のときは、マルチファンクションディスプレイの他の画面を表示させることはできません。

詳しくは（▷183、197 ページ）をご覧ください。

車高レベル表示画面（ML63 AMG）

① 車高レベル表示

ML63 AMG は、AIR マティックサスペンションの車高レベルを表示することができます。

車高レベル表示画面を表示させる

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ⊡ または ⊡ を押して、車高レベル表示画面を表示させます。

詳しくは（▷204 ページ）をご覧ください。

※ オフロードパッケージ、ディファレンシャルロックは、日本仕様には装備されません。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

故障表示

①	故障件数画面（この例では、1件故障があります）
②	故障メッセージ画面の例

故障や異常が起きたとき、車の状況をメッセージで表示します。

ℹ 故障がないときは、故障表示画面は表示されません。

自動表示機能

故障や異常が発生したときは、故障メッセージ画面が自動的に表示されます。

ステアリングの ⬚ ⬚ や ⇧ ⇩ またはリセットボタンを押すと、故障メッセージが消えます。

故障メッセージを確認する

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示されます。

▶ ⬚ または ⬚ を押して、故障件数画面①を表示させます。

故障件数が数字で表示されます。

▶ ⇧ または ⇩ を押して、故障メッセージ画面②を順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面①に戻ります。

故障表示のリセット

マルチファンクションディスプレイに故障メッセージが表示されているときは、イグニッション位置を **0** にすると、故障メッセージの表示が消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障メッセージが表示されます。

⚠ **警 告**

- 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。
- 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷330 ページ～）をご覧ください。

車両の操作

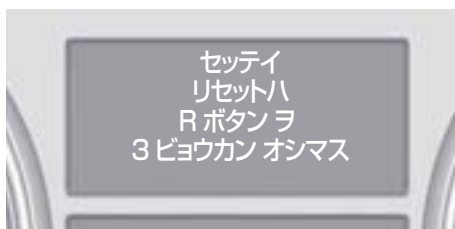
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定

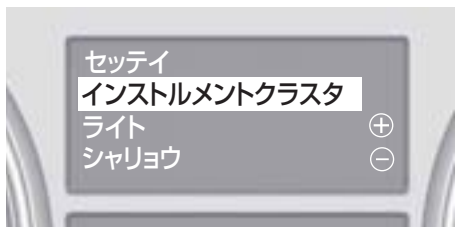
「各種設定」には以下の画面があります。

- 各種設定メイン画面
- 設定グループ選択画面
- 各種設定項目の初期化画面
- 各種設定項目の初期化完了画面

ⓘ 設定の変更は、安全のため、必ず停車中に行なってください。

各種設定メイン画面

メイン画面を表示させる

▶ [ ] または [ ] を押して、各種設定メイン画面を表示させます。

設定グループ選択画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ 各種設定メイン画面表示中に [△] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、設定グループを選択します。

▶ 選択したグループ名を確認して、[△] を押すと、選択したグループ内の最初の設定項目画面が表示されます。

設定項目画面を選択する

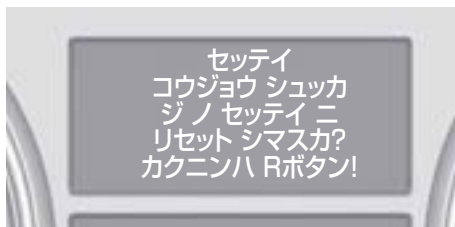
選択した設定項目画面の数値や設定を変更できます。

▶ [△] または [▽] を押して、設定項目画面を選択します。

設定項目を選択する
機能のオン / オフを選択する

▶ [+] または [−] を押して、設定項目を選択したり、機能のオン / オフを選択します。

選択した設定が記憶されます。

各種設定項目の初期化

初期化画面

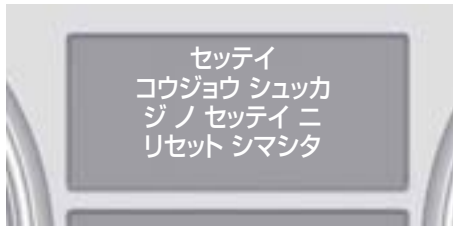
各種設定のすべての項目を工場出荷時の設定に初期化する（戻す）ことができます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

各種設定項目を初期化する

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます(▷156 ページ)。

▶ リセットボタン(▷140 ページ)を約 3 秒間押し続けます。

初期化画面が表示されます。

初期化完了画面

▶ 初期化画面の表示中 (約 5 秒以内) に、再度リセットボタンを押します。

初期化を実行し、初期化完了画面が表示されます。

ℹ 初期化画面が表示されてから約 5 秒間リセットボタンを押さずにいると、各種設定メイン画面に切り替わります。

ℹ 各種設定項目を初期化すると、設定グループ選択画面が表示されます。

ℹ 安全のため、エンジンがかかっているときに各種設定項目すべての初期化を行なうことはできません。このときはマルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ｴﾝｼﾞﾝｻﾄﾞｳﾁｭｳﾊ ｺｳｼﾞｮｳ ｼｭｯｶｼﾞ ﾉ ｾｯﾃｲ ﾆ ﾘｾｯﾄ ｽﾙｺﾄﾊﾃﾞｷﾏｾﾝ !" と表示されます。

インストルメントクラスタ

「インストルメントクラスタ」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- 速度・距離単位設定画面
- サブスピードメーター単位設定画面
- ディスプレイ言語設定画面
- 車両情報サブ画面の表示設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます(▷156 ページ)。

▶ 各種設定メイン画面表示中に [△] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

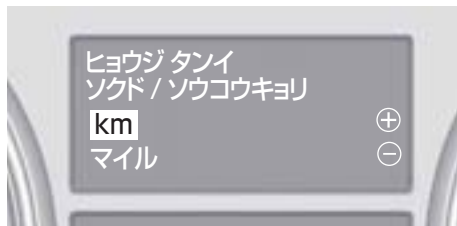
▶ [+] または [−] を押して、" インストルメントクラスタ " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [△] または [▽] を押します。

インストルメントクラスタの各設定項目画面が表示されます。

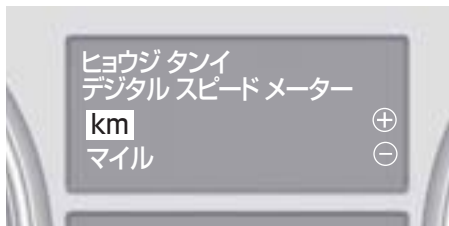
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

速度・距離単位設定画面

スピードメーターとマルチファンクションディスプレイの速度と走行距離の表示単位の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	表示が km/h、km になります。
マイル	表示が mph、マイル、MI になります。

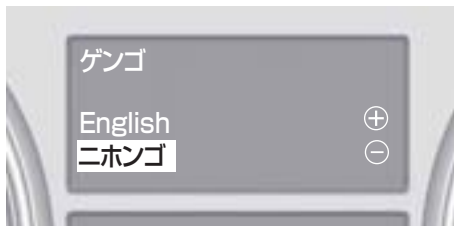
❗ 1 マイル（mph）は約 1.6km（km/h）です。スピードメーターの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

サブスピードメーター単位設定画面

マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター（▷146 ページ）の表示単位の設定ができます。

▶ ＋ または − を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
km	km/h 表示になります。
マイル	mph 表示になります。

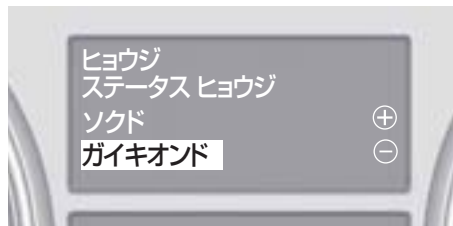
❗ 1mph は約 1.6km/h です。サブスピードメーターの表示単位がマイル表示になっていると、誤って速度を超過するおそれがあります。必ず km 表示を選択してください。

ディスプレイ言語設定画面

ディスプレイに表示する言語の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
English	英語表示になります。
ニホンゴ	日本語表示になります。

ℹ COMAND システムの言語設定を " ﾏﾙﾁﾌｧﾝｸｼｮﾝﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲと同期 " に設定しているときは、この画面で設定した言語が COMAND システムにも適用されます。詳細については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

車両情報サブ画面の表示設定画面

車両情報サブ画面（▷144 ページ）に表示される項目の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
ソクド	車両情報サブ画面の表示がサブスピードメーターになります。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示画面（▷146 ページ）には外気温度が表示されます。
ガイキオンド	車両情報サブ画面の表示が外気温度になります。 このとき、マルチファンクションディスプレイのサブスピードメーター / 外気温度表示画面（▷146 ページ）にはサブスピードメーターが表示されます。

ライト

「ライト」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- ヘッドランプ点灯モード設定画面
- ロケイターライティング設定画面
- アンビエントランプ照度設定画面 *
- 車外ランプ消灯遅延機能設定画面
- ルームランプ消灯遅延機能設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷156 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面表示中に [△] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

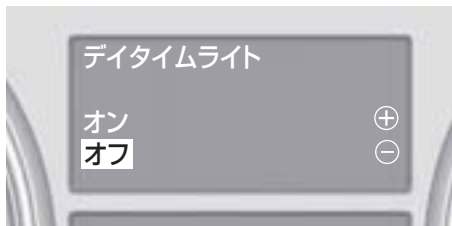
設定グループを選択する

▶ [+] または [−] を押して、" ライト " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [△] または [▽] を押します。

ライトの各設定項目画面が表示されます。

ヘッドランプ点灯モード設定画面

ヘッドランプの点灯モードの設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

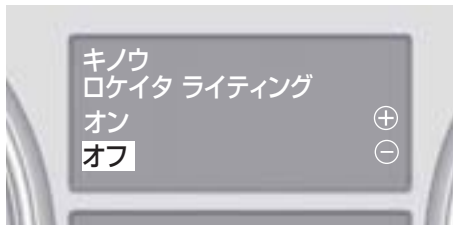
表示	設定内容
オン	常時点灯モードです。 ランプスイッチを [0] か [AUTO] の位置にしているときに、エンジンを始動すると、ヘッドランプなどが常に点灯します。
オフ	手動点灯モードです。 ヘッドランプなどを点灯するときはランプスイッチを操作します。 日本ではこのモードに設定してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 安全のため、エンジンがかかっているときは設定を変更することはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ｾｯﾃｲ ﾊ ｴﾝｼﾞﾝ ｵﾌ ﾉ ﾄｷﾉﾐ ｶﾉｳﾃﾞｽ" と表示されます。

i 常時点灯モードは、走行中の常時点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

i 常時点灯モードで自動的に点灯するランプは、車幅灯、ヘッドランプ、LED ドライビングランプ *、テールランプ、ライセンスランプです。ヘッドランプを上向きにしたり、フォグランプなどを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

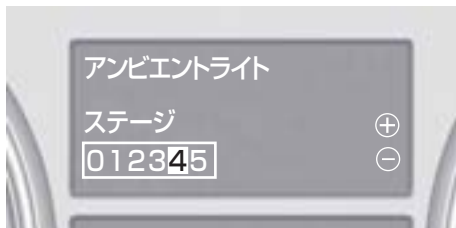
ロケイターライティング設定画面

周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、車幅灯、ヘッドランプ（LED ドライビングランプ装備車）、LED ドライビングランプ * またはフロントフォグランプ *、テールランプ、ライセンスランプが点灯します。
オフ	ロケイターライティングは作動しません。

詳しくは（▷71 ページ）をご覧ください。

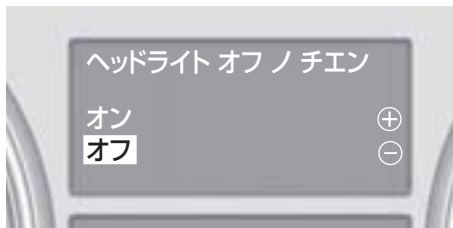
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

アンビエントランプ照度設定画面 *

アンビエントランプの照度の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して設定内容を変更します。

表示	設定内容
0	アンビエントランプは点灯しません。
1 2 3 4 5	1 がもっとも暗く、5 がもっとも明るい設定になります。

詳しくは（▷114 ページ）をご覧ください。

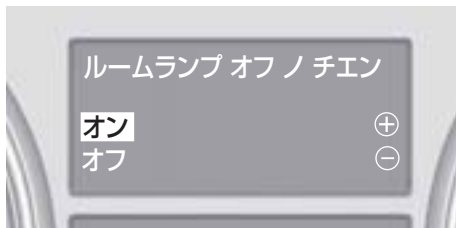
車外ランプ消灯遅延機能設定画面

周囲が暗いときにエンジンを停止すると車外ランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、ヘッドランプ（LED ドライビングランプ装備車）、LED ドライビングランプ * またはフロントフォグランプ *、テールランプ、ライセンスランプが点灯し、ドアやテールゲートを開いて閉じた後、約 15 秒後に消灯します。
オフ	車外ランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷109 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ルームランプ消灯遅延機能設定画面

ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くとルームランプが点灯する機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	ルームランプが自動点灯モードのときにエンジンスイッチからキーを抜くと、ルームランプが約 10 秒間点灯します。
オフ	ルームランプ消灯遅延機能は作動しません。

詳しくは（▷111 ページ）をご覧ください。

シャリョウ

「シャリョウ」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- エンジン停止時の表示設定画面 *
- ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面
- 車速感応ドアロック設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [▤] または [▤] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷156 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面表示中に [△] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

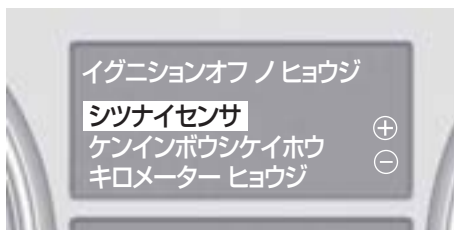
設定グループを選択する

▶ [＋] または [－] を押して、" シャリョウ " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [△] または [▽] を押します。

シャリョウの各設定項目画面が表示されます。

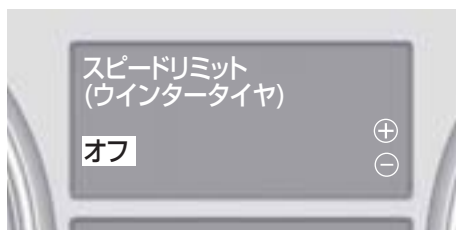
エンジン停止時の表示設定画面 *

イグニッション位置を **0** にしたときやエンジンスイッチからキーを抜いたときに、最初に表示される画面の設定ができます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
シツナイセンサ	室内センサーのオン / オフ画面になります。
ケンインボウシケイホウ	けん引防止警報機能のオン / オフ画面になります。
キロメーターヒョウジ	車両情報メイン画面になります。

ℹ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 2 分間経過すると、室内センサーやけん引防止警報機能を解除したり、待機状態にすることはできなくなります（▷64、65 ページ）。

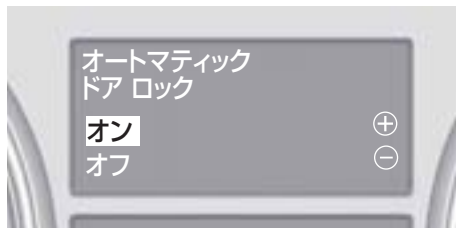
ウィンタータイヤスピードリミッター設定画面

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

ℹ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷190 ページ）で設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

▶ [+] または [−] を押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h **230km/h** **220km/h** **210km/h** **200km/h** **190km/h** **180km/h** **170km/h** **160km/h**	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

車速感応ドアロック設定画面

走行速度が約 15km/h 以上になったときに、ドアとテールゲートを自動的に施錠する機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、設定内容を選択します。

表示	設定内容
オン	車速感応ドアロックが作動します。
オフ	車速感応ドアロックは作動しません。

詳しくは（▷77 ページ）をご覧ください。

コンフォート

「コンフォート」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- イージーエントリー設定画面 *
- フロントシートベルトのテンションを自動調整機能設定画面
- 施錠時のドアミラー格納設定画面

設定グループ選択画面を表示させる

▶ [ ] または [ ] を押して、各種設定メイン画面を表示させます（▷156 ページ）。

▶ 各種設定メイン画面表示中に [△] を押して、設定グループ選択画面を表示させます。

設定グループを選択する

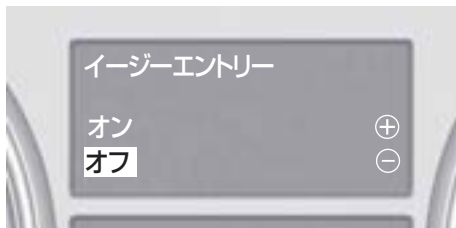
▶ [＋] または [－] を押して、" コンフォート " を選択します。

設定項目画面を表示させる

▶ [△] または [▽] を押します。

コンフォートの各設定項目画面が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

イージーエントリー設定画面 *

運転席への乗り降りを容易にするイージーエントリー機能の設定ができます。

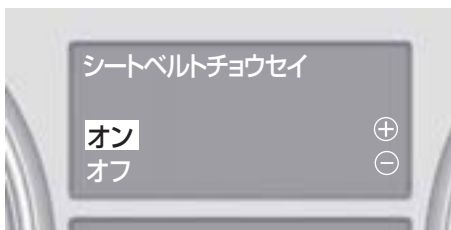
⚠ **警告**

- イージーエントリーの作動中に身体や物が挟まれないように注意してください。
  挟まれそうになったときは、運転席のメモリースイッチかポジションスイッチ、ステアリング調整レバーのいずれかを操作してください。イージーエントリーの作動が停止します。
- チャイルドセーフティシートを使用している場合でも、子供だけを残して車から離れないでください。誤ってエンジンスイッチからキーを抜いたり、運転席ドアを開いたときにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イージーエントリー機能が作動します。
オフ	イージーエントリー機能は作動しません。

詳しくは（▷94 ページ）をご覧ください。

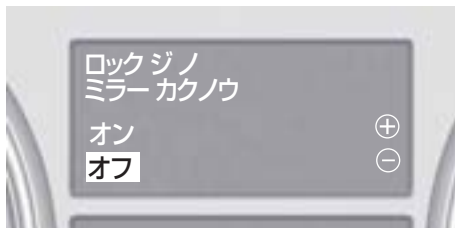
フロントシートベルトのテンション自動調整機能設定画面

イグニッション位置が **2** のとき、フロントシートベルトが乗員の上半身に密着するように、テンション（締め付け具合）を自動的に調整する機能の設定ができます。

▶ [＋] または [－] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	イグニッション位置が **2** のときに、フロントシートベルトのテンションが自動的に調整されます。
オフ	フロントシートベルトのテンションは調整されません。

詳しくは（▷102 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

施錠時のドアミラー格納設定画面

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での施錠時にドアミラーを格納する機能の設定ができます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

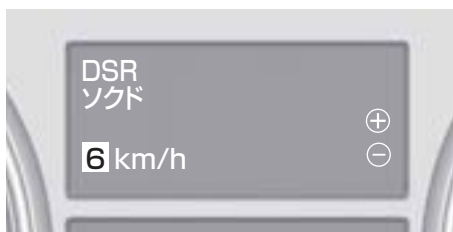
表示	設定内容
オン	リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での施錠時にドアミラーが格納されます。
オフ	リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での施錠時にドアミラーは格納されません。

詳しくは（▷97 ページ）をご覧ください。

車両設定

「車両設定」では、以下の画面での設定を行なうことができます。

- DSR 速度設定画面
- けん引防止警報機能設定画面 *
- 室内センサー設定画面 *

DSR 速度設定画面

マルチファンクションディスプレイでは、DSR の速度を 6km/h から 18km/h の間で、2km/ h 単位で設定できます。

DSR 設定画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、DSR 速度設定画面を表示させます。

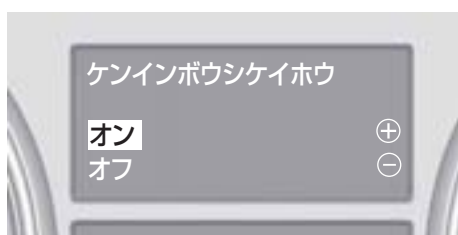
▶ [+] または [−] を押して、設定速度を選択します。

表示	設定内容
6 ～ 18 km/h	DSR の設定速度がそれぞれの速度になります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ DSR を作動させているときは、クルーズコントロール / 可変スピードリミッターレバーにより、DSR の設定速度を 4km/h から 18km/h の間で、1km/h 単位で一時的に変更することができます。

詳しくは（▷174 ページ）をご覧ください。

けん引防止警報機能設定画面 *

盗難防止警報システムのけん引防止警報機能を設定できます。

けん引防止警報機能設定画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、DSR 速度設定画面を表示させます。

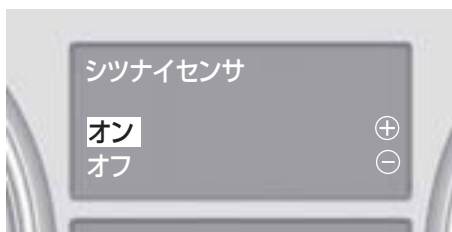
▶ [△] または [▽] を押して、けん引防止警報機能設定画面を表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

表示	設定内容
オン	けん引防止警報機能が待機状態になります。
オフ	けん引防止警報機能が解除されます。

ⓘ エンジン停止時の表示設定画面（▷163 ページ）が "ｹﾝｲﾝﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ" のときは、イグニッション位置を **0** にするかエンジンスイッチからキーを抜くと、マルチファンクションディスプレイに "ｹﾝｲﾝ ﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾌ" または "ｹﾝｲﾝ ﾎﾞｳｼｹｲﾎｳ ｵﾝ" と表示されます。このとき [+] または [−] を押すと、けん引防止警報機能を待機状態にするか、または解除することができます。

詳しくは（▷64 ページ）をご覧ください。

室内センサー設定画面 *

盗難防止警報システムの室内センサーを設定できます。

室内センサー設定画面を表示させる

▶ [⊟] または [⊟] を押して、DSR 速度設定画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、室内センサー設定画面を表示させます。

▶ [+] または [−] を押して、反転表示を移動します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示	設定内容
オン	室内センサーが待機状態になります。
オフ	室内センサーが解除されます。

ℹ エンジン停止時の表示設定画面（▷163 ページ）が " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ " のときは、イグニッション位置を **0** にするかエンジンスイッチからキーを抜くと、マルチファンクションディスプレイに " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾌ " または " ｼﾂﾅｲｾﾝｻ ｵﾝ " と表示されます。このとき [+] または [−] を押すと、室内センサーを待機状態にするか、または解除することができます。

詳しくは（▷65 ページ）をご覧ください。

トリップコンピューター

「トリップコンピューター」には以下の画面があります。

- エンジン始動時からの情報表示画面
- リセット時からの情報表示画面
- 走行可能距離表示画面
- 瞬間燃費表示画面 *

エンジン始動時からの情報表示画面

① エンジン始動時からの走行距離（km）
② エンジン始動時からの経過時間（h）
③ エンジン始動時からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動時からの平均燃費（km/l）

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

ℹ イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。約 4 時間以内にイグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km/ マイル走行後に自動的にリセットされます。

エンジン始動時からの情報表示画面を表示させる

▶ エンジン始動時からの情報表示画面が表示されるまで、[⊟] または [⊟] を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジン始動時からの情報表示画面を手動でリセットする

エンジン始動時からの情報表示画面は手動でリセットすることもできます。

▶ エンジン始動時からの情報表示画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷140 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

リセット時からの情報表示画面

① リセット時からの走行距離（km）
② リセット時からの経過時間（h）
③ リセット時からの平均速度（km/h）
④ リセット時からの平均燃費（km/l）

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報表示画面を表示させる

▶ [画面ボタン] または [画面ボタン] を押して、エンジン始動時からの情報表示画面を表示させます。

▶ リセット時からの情報表示画面が表示されるまで、[▲] または [▼] を押します。

リセットする

▶ リセット時からの情報表示画面が表示されているときに、メーターパネルのリセットボタン（▷140 ページ）を押し続けて、表示をリセットします。

ℹ リセット後は、9,999 時間経過後、または 99,999km/ マイル走行後に自動的にリセットされます。

走行可能距離表示画面

現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示されます。

走行可能距離表示画面を表示させる

▶ [画面ボタン] または [画面ボタン] を押して、エンジン始動からの情報表示画面を表示させます（▷169 ページ）。

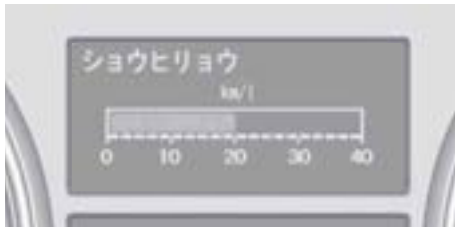
▶ 走行可能距離表示画面を表示されるまで、[▲] または [▼] を押します。

❗ 表示される走行可能距離は、現在までの平均燃費と残り燃料から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

燃料残量が少ないときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾈﾝﾘｮｳﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ " と表示されるか、[icon] が表示されます。

最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

瞬間燃費表示画面 *

そのときの瞬間燃費を km/l 単位で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

瞬間燃費表示画面を表示させる

▶ [icon] または [icon] を押して、エンジン始動からの情報表示画面を表示させます（▷169 ページ）。

▶ 瞬間燃費表示画面が表示されるまで、[△] または [▽] を押します。

電話

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

ℹ COMAND システムには Bluetooth® により携帯電話を接続できます。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

⚠ **警告**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話を発信しないでください。

また、走行中に電話が着信したときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

ℹ 走行中は一部の機能が使用できなくなります。

電話画面を表示させる

▶ COMAND システムの電源をオンにします。

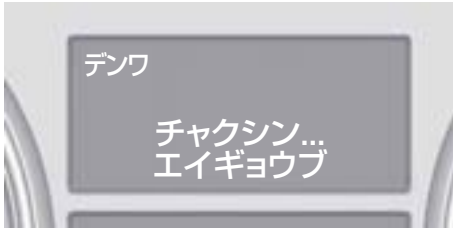
▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ [icon] または [icon] を押して、電話画面を表示させます。

マルチファンクションディスプレイに " マチウケ " と表示されます。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

着信した電話を受ける

発信元が電話帳データに登録されている場合

電話が着信すると上記のような画面が表示されます。

▶ 着信呼び出し中に [発信] を押します。

通話を終える（電話を切る）

▶ [終話] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [終話] を押します。

ⓘ 上記の操作は電話画面を表示していないときも行なうことができます。

電話帳から電話を発信する

COMAND システムに登録されている電話帳から電話を発信できます。

ⓘ COMAND システムの電話帳には、COMAND システムから直接電話帳データを入力したり、携帯電話やメモリーカードからデータをダウンロードできます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

▶ [◁画面] または [画面▷] を押して、電話画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、電話帳を呼び出します。

▶ [△] または [▽] を押して、発信先を選択します。

電話帳のリストがスクロールします。

ⓘ [△] または [▽] を押し続けると、はじめの 7 件目までは 1 件づつ表示されます。

[△] または [▽] をさらに押し続けると、8 件目からは五十音順またはアルファベット順の先頭のデータが表示されます。

▶ [発信] を押します。

マルチファンクションディスプレイに、" ハッシン ..." のメッセージと発信した電話番号が表示されます。電話帳に名前が登録されているときは、名前が表示されます。また、発信した番号が履歴に登録されます。

ⓘ 電話帳データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに [△] または [▽] を押して電話番号を選択してから、[発信] を押すと発信されます。

ⓘ ステアリングの [終話] スイッチを押し、電話を発信しないで電話帳を閉じたときは、待ち受け画面に戻ります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

発信履歴から電話を発信する

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、電話画面を表示させます。

▶ COMAND ディスプレイに " マチウケ " と表示されているときに、[電話ボタン] を押します。

発信履歴が表示されます。

▶ [上ボタン] または [下ボタン] を押して、発信先を選択します。

▶ [電話ボタン] を押します。

オフロード走行装備

オフロード走行のための装備には、以下のものがあります。

- 4MATIC

  車両操縦性や走行安定性を高める 4 輪駆動システムです。

- DSR

  下り坂を走行するときに設定した速度を維持しようとするシステムです。

- オフロード・ドライブ・プログラム

  エンジンの出力特性やギアシフトのタイミングなどをオフロード走行に適した設定にします。

- ローレンジモード

  強い駆動力を必要とするときに設定します。

- ディファレンシャルロック

  車輪が空転して動けなくなった場合などの緊急時の装備です。

オフロード走行については、オフロードでの走行（▷305 ページ）もご覧ください。

※ ローレンジモード、ディファレンシャルロックは、日本仕様には装備されません。

4MATIC

4MATIC は、滑りやすい路面での発進時や加速時の走行安定性を向上させ、車両操縦性を確保しようとする 4 輪駆動システムです。

⚠ **警 告**

- 4MATIC は車両操縦性や走行安定性を高める装備で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。4MATIC 車でも、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。
- 運転時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 滑りやすい路面などでいずれかのタイヤが空転したときは、アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。また、慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
  - ◇ 急ハンドル
  - ◇ 急ブレーキ
  - ◇ 急発進、急加速
  - ◇ 急激なエンジンブレーキ

! 4MATIC 車であっても雪道や凍結路などでは、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着して速度を控えめにし、車間距離を十分確保して運転してください。スノーチェーンは後輪に装着してください。

! ブレーキダイナモ上でパーキングブレーキを点検するときは、約 10 秒以内にしてください。また、イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります

! ダイナモメーターを使用して検査などを行なうときは、必ず 2 軸ダイナモメーターを使用してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

DSR

DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）は、下り坂を走行するときに自動的にブレーキを作動させ、設定した速度を維持しようとするシステムです。

下り坂の勾配が急になるほどブレーキの効き具合は強くなり、勾配がゆるくなるとブレーキの効き具合は弱くなります。

勾配のない路面でも作動しますが、必ず下り坂を走行するときに使用してください。

設定できる速度は 4km/h から 18km/h の間です。

⚠ **警 告**

- DSR使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- DSRは必ず下り坂を走行するときに使用してください。路面の勾配にかかわらず作動するため、路面や周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。
- 極端な下り坂などでDSRが設定速度を維持できないときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

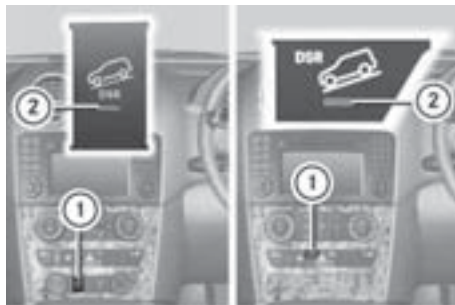
! DSRの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイにDSRに関する故障／警告メッセージが表示されたときは（▷339ページ）をご覧ください。

ℹ DSRが作動していても、アクセルペダルを踏むと車は加速します。またブレーキペダルを踏むと、車は減速します。

⚠ **警 告**

DSRが作動しているときに、アクセルペダルを踏んで車を加速させると、設定速度や路面の勾配によっては、アクセルペダルから足を放したときにDSRが急ブレーキをかけることがあります。十分注意して走行してください。

DSRの作動と解除

（左）オフロードパッケージ装備車
（右）オフロードパッケージ非装備車、
ML 63 AMG

DSRを作動させる

▶ エンジンがかかっていて走行速度が約30km/h以下のときに、DSRスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯し、マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面にDSRインジケーター③が表示されます。

※ オフロードパッケージは、日本仕様には装備されません。

車両の操作

⑤ 設定速度
（設定速度が 6km/h のとき）

また、マルチファンクションディスプレイに設定速度⑤が数秒間表示されます。

その後、マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面に設定速度④が表示されます。

ℹ 約 30km/h 以上の速度で走行しているときは DSR を作動させることができません。このときはマルチファンクションディスプレイに下記のメッセージが表示されます。

約 30km/h 以上の速度で走行していて、DSR を作動させようとしたとき

DSR を解除する

▶ DSR スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯し、マルチファンクションディスプレイに "DSR オフ " と数秒間表示されます。

車両情報サブ画面の設定速度④と DSR インジケーター③も消灯します。

❗ DSR を解除するときは周囲の状況に注意してください。急な下り坂を走行しているときに DSR を解除すると、自動で作動しているブレーキが解除されて速度が上昇し、事故を起こすおそれがあります。

ℹ エンジンを停止すると、DSR は解除されます。

ℹ 走行速度が約 35km/h 以上になると DSR は自動的に解除されます。このときは警告音とともにマルチファンクションディスプレイに "DSR オフ " と表示されます。

マルチファンクションディスプレイで DSR の速度を設定する

DSR 設定画面

マルチファンクションディスプレイで DSR の速度を設定することができます。

設定できる速度は 6km/h から 18km/h の間です。

ℹ マルチファンクションディスプレイで設定した DSR の速度は、エンジンを停止しても消去されません。

速度を設定する

▶ マルチファンクションディスプレイに DSR 速度設定画面を表示させます（▷167 ページ）。

▶ ステアリングの [+] を押します。

2km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ ステアリングの [−] を押します。

2km/h 単位で設定速度が下がります。

! 走行中はマルチファンクションディスプレイで DSR の設定を行なわないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。必ずレバーで設定を行なってください。

レバー操作で DSR の設定速度を変更する

DSR を作動させているときは、レバーで DSR の設定速度を一時的に変更することができます。

この変更によって設定できる速度は 4km/h から 18km/h の間です。

i レバーで設定した DSR の速度は、エンジンを停止すると消去されます。次にエンジンを始動したときは、マルチファンクションディスプレイで設定した速度になります。

設定速度を上げる

▶ レバーを⑥の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを⑥の方向にいっぱいまで操作します。

2km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

i 設定した速度は数秒間マルチファンクションディスプレイに表示され、その後、車両情報サブ画面に表示されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを⑦の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを⑦の方向にいっぱいまで操作します。

2km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

ⓘ 設定した速度は数秒間マルチファンクションディスプレイに表示され、その後、車両情報サブ画面に表示されます。

オフロード・ドライブ・プログラム

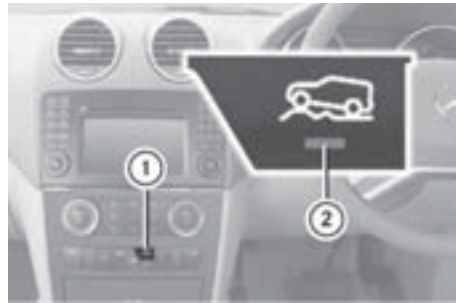
悪路や冠水路などを走行するときは、オフロード・ドライブ・プログラムを作動させてください。

エンジンの出力特性やギアシフトのタイミング、ABS、ESP®、4ETS などの制御が、オフロード走行に適したものになります。

！ 積雪路や凍結路を走行するときやスノーチェーンを装着しているときは、オフロード・ドライブ・プログラムを作動させないでください。

ⓘ オフロード・ドライブ・プログラムを作動させているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれることがあります。

ⓘ イグニッション位置を **2** 以外にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、設定内容は記憶されます。

ML 350 BlueTEC 4MATIC / ML 350 4MATIC

オフロード・ドライブ・プログラムを作動させる

▶ オフロード・ドライブ・プログラムスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面に、オフロード・ドライブ・プログラムインジケーター③が表示されます。

オフロード・ドライブ・プログラムを解除する

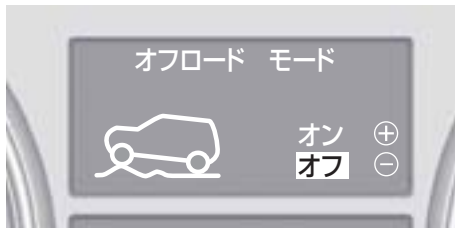
▶ オフロード・ドライブ・プログラムスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面のオフロード・ドライブ・プログラムインジケーター③の表示が消えます。

ML 63 AMG

オフロード・ドライブ・プログラムを作動させる

▶ マルチファンクションディスプレイに、オフロードモード設定画面を表示させせます（▷151 ページ）。

▶ [+] を押して、" オン " を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面に、オフロード・ドライブ・プログラムインジケーター①が表示されます。

オフロード・ドライブ・プログラムを解除する

▶ マルチファンクションディスプレイに、オフロードモード設定画面を表示させせます（▷151 ページ）。

▶ [−] を押して、" オフ " を反転表示にします。

マルチファンクションディスプレイの車両情報サブ画面のオフロード・ドライブ・プログラムインジケーター①の表示が消えます。

ローレンジモード

急勾配の道路を走行するときや、河川などを渡るとき、トレーラーをけん引するときなど、強い駆動力を必要とする場合はローレンジにします。

ギアレンジ	用途
ノーマルレンジ	一般道路走行用です。
ローレンジ	急勾配の道路を走行するときや河川などを渡るときなどに使用します。 ノーマルレンジに比べて速度は約 1/3 になり、強い駆動力が発生します。

⚠ 警告

ノーマルレンジからローレンジへ、またはローレンジからノーマルレンジへのギアチェンジ操作を行なう場合は、必ずギアチェンジの動作が完了するまで待ってください。

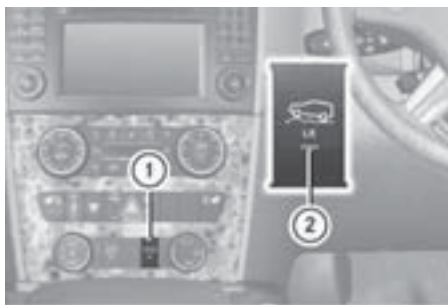
また、ギアチェンジの動作中にエンジンを停止したり、シフトポジションを N 以外にしないでください。

ギアチェンジの動作が完了するまで待たないと、ギアがニュートラルになり、エンジンとドライブアクスルの間で動力が伝達されなくなります。

この状態では、シフトポジションが N 以外のときでも車が固定されないため、坂道などで車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。

! 以下のときはローレンジを使用しないでください。

- ぬかるみなど滑りやすい路面を走行するとき
- 積雪路や凍結路を走行するとき
- スノーチェーンを装着しているとき

! 走行モードが M モードのときにローレンジにすると、エンジン回転数が許容回転数に達しても自動的にシフトアップされません。エンジン回転数を上げすぎないように注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ローレンジにする

▶ エンジンがかかっていて、走行速度が約 40km/h 以下のときに、シフトポジションを N にします。

▶ ローレンジスイッチ①を押します。

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。

スイッチの表示灯②が点滅し、マルチファンクションディスプレイにローレンジインジケーター③が表示されます。

ギアチェンジの動作が終了すると、スイッチの表示灯②が点灯します。

操作を中断したいときは、スイッチの表示灯②が点滅しているときにローレンジスイッチ①を押します。

ノーマルレンジにする

▶ エンジンがかかっていて、走行速度が約 70km/h 以下のときに、シフトポジションを N にします。

▶ ローレンジスイッチ①を押します

スイッチの表示灯②が点滅します。

ギアチェンジの動作が終了すると、スイッチの表示灯②とマルチファンクションディスプレイのローレンジインジケーター③が消灯します。

操作を中断したいときは、スイッチの表示灯②が点滅しているときにローレンジスイッチ①を押します。

マルチファンクションディスプレイの警告メッセージ

ギアチェンジの動作が正常に終了していないときは、マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

"max. 40km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ "

走行速度が約 40km/h 以上のときにローレンジにしようとしています。

スイッチの表示灯②も点滅しています。

▶ 走行速度を約 40km/h 以下にしてください。

ローレンジになり、スイッチの表示灯も点灯に変わります。

" ﾀﾝｼﾞｶﾝ N ﾆ ｼﾌﾄｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ "

走行速度は約 40km/h 以下 (ローレンジにするとき）または約 70km/h 以下（ノーマルレンジにするとき）になっていますが、シフトポジションが N になっていません。

▶ シフトポジションを N にしてください。

" ｼﾌﾄﾄﾞｳｻ ｷｬﾝｾﾙ ｻｲｷﾄﾞｳｼﾃｸﾀﾞｻｲ "

何らかの原因でギアチェンジの動作が完了していません。

▶ ギアチェンジのための条件を確認し、再度操作を行なってください。

" ﾃｲｼｬ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ "

警告音が鳴ります。

ギアチェンジの動作が完了していません。ギアがニュートラルになっており、エンジンとホイールの間で動力が伝達されていません。

! 走行を続けないでください。駆動部品を損傷するおそれがあります。

▶ 周囲の状況に注意しながら、停車してください。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ ギアチェンジのための条件を確認し、再度操作を行なってください。

ギアチェンジの動作が完了すると、警告メッセージが消えます。

ディファレンシャルロック

ディファレンシャルロックは、車輪が空転して走行できなくなった場合などに、ディファレンシャルをロックすることにより、空転していない車輪に駆動力を伝え、脱出を容易にする緊急時の装備です。

ディファレンシャルロックは、自動または手動により操作することができます。

⚠ **警告**

舗装された道路や固い路面を走行するときは必ず AUTO モードにして、ディファレンシャルロックの手動操作はしないでください。ディファレンシャルをロックすると、車両操縦性が大幅に制限されるため、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

コーナリング中にディファレンシャルロックの操作をしないでください。旋回時でも直進しようとする力が強く働き、急激に直進状態に戻ることがあり、事故を起こすおそれがあります。

ディファレンシャルをロックしたときは、急発進をしないでください。車の向きが急に変わり、事故を起こすおそれがあります。

! ディファレンシャルロックの手動操作は、AUTO モードでは駆動力が不足する場合にのみ行なってください。

! ディファレンシャルロックを手動操作したときは、車両操縦性が大幅に制限されるため、注意して走行してください。また、最適な駆動力が得られるように慎重にアクセルを踏んでください。

! ディファレンシャルをロックしたときは、アクセル操作やステアリング操作はゆっくり行ない、慎重に運転してください。

! ディファレンシャルをロックするときは、車輪が空転していないことを必ず確認してください。車輪が空転しているときにロックすると車が突然飛び出すおそれがあります。

※ ディファレンシャルロックは、日本仕様には装備されません。

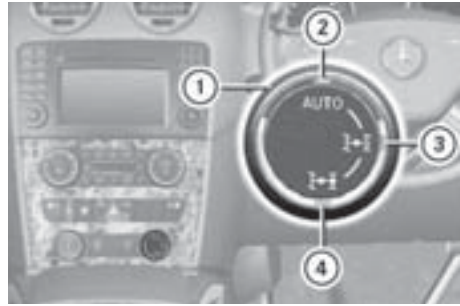
! 車をシャシーダイナモ上で動かすときは、必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、短時間であっても駆動アクスル以外を持ち上げるか、ドライブシャフトを外してください。このとき、センターディファレンシャルを必ずロックしてください。駆動装置を損傷するおそれがあります。

i 前輪の駆動力は 4ETS により、自動的に制御されます。

i ディファレンシャルロックの作動状態は、マルチファンクションディスプレイの " オフロード表示 " 画面（▷154 ページ）に表示されます。

i 安全のため、走行速度が約 50km/h 以上になると、ディファレンシャルロックは自動的に解除されます。

i 停車してイグニッション位置を **0** か **1** にしてから約 10 秒以上経過すると、ディファレンシャルロックは AUTO モードになります。

ディファレンシャルロックの作動

AUTO モードにする

▶ エンジンを始動します。

ディファレンシャルロックダイヤル①の表示灯②が点灯します。

▶ 他のモードを選択しているときは、ディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯②を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイを " オフロード表示 " 画面（▷154 ページ）にしているときは、" ｵｰﾄ " の文字が表示されます。

AUTO モードでは、ディファレンシャルロックは自動的に制御されます。

舗装路面からオフロードまで、様々な路面状況に適した駆動力が発生し、車の旋回時にも影響を与えません。

点灯する表示灯	モード	作動内容
②	AUTO モード	状況に合わせてディファレンシャルロックが自動的に作動します。
③	センターディファレンシャルロック	センターディファレンシャルを手動でロックすることができます。 ロックすると、フロント / リアのプロペラシャフトが直結し、前輪または後輪が空転した場合でも駆動力を確保します。
④	センター / リアディファレンシャルロック	センターディファレンシャルとリアディファレンシャルを手動でロックすることができます。 ロックすると、フロント / リアのプロペラシャフトとリア左右のアクスルが直結し、空転していない車輪にも駆動力が伝わります。

センターディファレンシャルをロックする

▶ 約 30km/h 以下で走行しているときにディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯③を点灯させます。

⑤ センターディファレンシャルがロックした状態

マルチファンクションディスプレイを "オフロード表示" 画面(▷154ページ)にしているときは、センターディファレンシャルがロックしたことを示す●マーク⑤が表示されます。

AUTO モードから操作したときは、" ｵｰﾄ " の文字が消えます。

センターデファレンシャルとリアデファレンシャルをロックする

▶ 約 30km/h 以下で走行しているときにディファレンシャルロックダイヤル①をまわして、表示灯④を点灯させます。

⑤ センターディファレンシャルがロックした状態
⑥ リアディファレンシャルがロックした状態

マルチファンクションディスプレイを"オフロード表示"画面(▷154ページ)にしているときは、センター / リアディファレンシャルがロックしたことを示す2つの●マーク⑤⑥が表示されます。

AUTOモードから操作したときは、"ｵｰﾄ"の文字が消えます。

約30km/h以上で走行しているときにディファレンシャルをロックしようとしたときは、マルチファンクションディスプレイに上記のメッセージが表示されます。

マルチファンクションディスプレイの警告メッセージ

ギアチェンジの動作が正常に終了していないときは、マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。

"ﾃﾞﾌﾛｯｸｼｽﾃﾑ ｶﾈﾂ ｽｺｼ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ"

ディファレンシャルロックシステムが過熱しているため、ディファレンシャルロックが解除されています。

▶ 注意して走行してください。

ディファレンシャルロックが冷却されれば、再度操作できるようになります。

走行装備

走行装備には、以下のものがあります。

- クルーズコントロール

  設定速度を自動的に維持して走行できます。
- 可変スピードリミッター

  設定速度を超えないように走行できます。
- AIRマティックサスペンション *

  運転のスタイルや路面状況などに応じてサスペンションや車高を最適な状態に自動調整します。
- サイドビューカメラ

  助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の映像をCOMANDディスプレイに表示します。
- パークトロニック

  車庫入れや狭い場所での運転時に、障害物とのおおよその距離を知らせます。
- パーキングアシストリアビューカメラ

  車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助します。

ABS、BAS、アダプティブブレーキランプ、ESP®、EBD、4ETSについては、走行安全装備(▷54ページ)をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した速度を自動的に維持して走行できます。

設定できる速度は約 30km/h 以上です。

⚠ **警告**

- 車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
  - ◇急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
  - ◇加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
  - ◇雨で濡れた路面や積雪路、凍結路などの滑りやすい路面
  - ◇降雨時や降雪時、濃霧時など視界が確保できない場合

! クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは、（▷334 ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ **警告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

クルーズコントロールの使いかた

①	現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
②	表示灯
③	前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④	現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤	クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥	クルーズコントロールを解除する

可変スピードリミッター（▷190 ページ）、DSR（▷174 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯②が消灯しているときに、クルーズコントロールを操作できます。

レバーの表示灯②が点灯しているときは、可変スピードリミッターを操作できる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

クルーズコントロールを設定する

▶ DSR が解除されていることを確認します（▷175 ページ）。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを①か④の方向に操作します。

そのときの速度にクルーズコントロールが設定されます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

アクセルペダルから足を放すと、設定した速度を維持するように走行します。

⚠ 警 告

解除前に設定していた速度に再度設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速をして事故を起こすおそれがあります。

マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が数秒間表示されます。

また、車種や仕様により、設定速度⑦は数秒後に車両情報サブ画面に移動し、車両情報サブ画面にクルーズコントロールインジケーター⑧が表示されます。

車種や仕様により、スピードメーターの設定速度より上の部分に、クルーズコントロールインジケーター⑨が点灯します。

ℹ 走行速度が約 30km/h 以下のときや、ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除しているときはクルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

ℹ クルーズコントロールを解除する前の設定速度は記憶されます。

ℹ イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

ℹ 上り坂では設定速度を維持できないことがありますが、平坦な路面になると設定速度に戻ります。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が上がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

! レバーを①の方向に操作してクルーズコントロールの設定速度を上げるときは、周囲の状況に注意してください。レバーから手を放した後も、設定した速度に到達するために車が加速することがあります。

設定速度を下げる

▶ レバーを④の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを④の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が下がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定され、マルチファンクションディスプレイに設定速度が数秒間表示されます。

ⓘ レバーを④の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

! クルーズコントロールが自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたり、ブレーキの作動を妨げることがあります。

一時的に速度を上げる

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

クルーズコントロールの設定を解除する

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを⑥の方向に操作します。

または

▶ レバーを⑤の方向に操作します。

レバーの表示灯②が点灯し、可変スピードリミッターの操作ができる状態に切り替わります。

ⓘ 以下のときはクルーズコントロールが自動的に解除されます。

- シフトポジションを N にしたとき
- ESP® が作動したとき
- ESP® オフスイッチで ESP® の機能を解除したとき

このときは警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾌ " と表示されます。

また、パーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは自動的に解除されます。

⚠ 警告

クルーズコントロールはシフトポジションを N にしても解除されますが、走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターで制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏み込んでいても、設定速度を超えないように走行することができます。

設定できる速度は30km/hから210km/h、または250km/hの間です。

ただし、車の最高速度以上に制限速度を設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

※ 車種や仕様により設定できる制限速度が異なります。

⚠ 警告

- 走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- 運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定した制限速度を伝えてください。

  可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。
- 可変スピードリミッターはブレーキペダルを踏んでも解除できません。
- 可変スピードリミッターは設定した制限速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

⚠ 警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

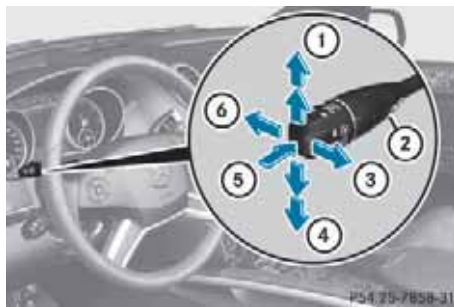
! 自動的にブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが奥に引き込まれます。ブレーキペダルの下に足を置いていると挟まれたりブレーキの作動を妨げるおそれがあります。

! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷334 ページ）をご覧ください。

ⓘ ウィンタータイヤスピードリミッター（▷164 ページ）を設定しているときは、可変スピードリミッターで設定できる制限速度は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度が上限となります。

ⓘ 設定した速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾘﾐｯﾄｦ ｺｴﾏｼﾀ" と表示されることがあります。

可変スピードリミッターの使いかた

①	現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を上げる
②	表示灯
③	前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する
④	現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤	可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える
⑥	可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロール（▷186 ページ）、DSR（▷174 ページ）と同じレバーを使用します。

レバーの表示灯②が点灯しているときに、可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの表示灯②が消灯しているときは、クルーズコントロールの操作ができる状態です。レバーを⑤の方向に押すと表示灯が点灯し、可変スピードリミッターを操作できる状態に切り替わります。

可変スピードリミッターを設定する

▶ DSR が解除されていることを確認します（▷175 ページ）。

▶ レバーを①または④の方向に軽く操作します。

- 停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは 30km/h に設定されます。
- 走行速度が約 30km/h 以上のときはそのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

- 設定速度が記憶されているときは、記憶されている速度に再度設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。
- 設定速度が記憶されていないときで、走行速度が約 30km/h 以上のときは、そのときの速度に設定されます。

! 可変スピードリミッターを解除しても、設定速度は記憶されています。記憶されている速度が走行速度よりも低い場合、記憶されている速度に再度設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

メーターパネルの可変スピードリミッター表示灯⑧が点灯します。

また、車種や仕様により、マルチファンクションディスプレイに設定速度⑦が表示され、数秒後に車両情報サブ画面に移動します。また、車両情報サブ画面に可変スピードリミッターインジケーター⑨が表示されます。

車種や仕様により、スピードメーターの設定速度より下の部分に、可変スピードリミッターインジケーター⑨が点灯します。

i 可変スピードリミッターを解除する前の設定速度は記憶されます。

i イグニッション位置を一度 **0** か **1** にすると、記憶された速度は消去されます。

ℹ 車種や仕様により、走行速度が記憶されている設定速度より約 60km/h 以上高いときは、記憶されている速度に再度設定することができません。このときはマルチファンクションディスプレイに "---km/h" が数秒間点滅します。

! 制限速度を設定するときは、周囲の状況、特に後方の車などに注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

または

▶ レバーを①の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が上がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り上がり、その後 10km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを④の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が下がります。

または

▶ レバーを④の方向にいっぱいまで操作します。

10km/h 単位で設定速度が下がります。

1km/h 単位の端数で速度が設定されていたときは、設定速度が切り下がり、その後 10km/h 単位で設定速度が下がります。

▶ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

そのときの速度に設定されます。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを⑥の方向に操作します。

次の操作をしたときも解除されます。

▶ レバーを⑤の方向に押します。

レバーの表示灯②が消灯し、クルーズコントロールの操作ができる状態に切り替わります。

ℹ 次の操作をしたときは可変スピードリミッターが自動的に解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは警告音が鳴ります。ただし、走行速度が設定速度より約 20km/h 以上低いときは、キックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。

- エンジンを停止したとき

AIR マティックサスペンション（オフロードパッケージ装備車）

AIR マティックサスペンションは、運転のスタイルや路面状況などに応じて、サスペンションや車高を最適な状態に自動調整します。

また、サスペンションモード選択スイッチで 3 種類のモードを選択したり、車高調整スイッチで車高を 4 つのレベルに調整できます。

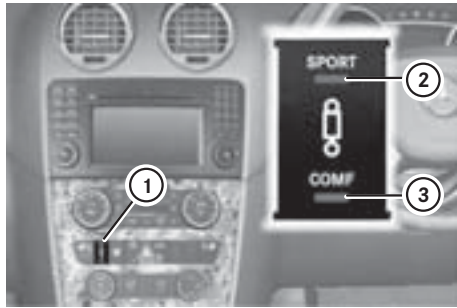
このシステムは以下の 2 つにより構成されています。

- ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）
- レベルコントロール

ADS

サスペンションモード選択スイッチで 3 種類のサスペンションモードを選択することができます。

エンジンがかかっているときに操作することができます。

> ⚠ **警 告**
>
> サスペンションモード選択スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体が挟まれるおそれがあります。

サスペンションモードを選択する

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

サスペンションモードが AUTO → SPORT → COMF → AUTO と切り替わります。

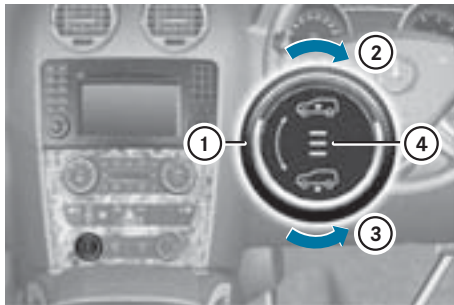
ℹ サスペンションモードが AUTO モードか COMF モードのときは、走行速度が一定以上になると、車高が下がります。

ℹ イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、選択したサスペンションモードは記憶されます。

ℹ いずれかのドアが開いているときは車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

※ オフロードパッケージは、日本仕様には装備されません。

点灯する表示灯	サスペンションモード	作動内容
消灯	AUTO	通常走行用のモードです。
②	SPORT（スポーツ）	スポーティな走行に適したモードです。標準より約 15mm 低い車高になります。
③	COMF（コンフォート）	快適性を重視する走行に適したモードです。

レベルコントロール

悪路などを走行するときは、車高を上げることにより最低地上高を確保することができます。

車高は、車高調整ダイヤル①により、4 つのレベルを選択できます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

点灯する表示灯の数	車高レベル	車高上昇値	設定可能速度
0	通常走行レベル	0mm（標準）	
1	オフロードレベル 1	標準 +30mm	～ 100km/h
2	オフロードレベル 2	標準 +60mm	～ 70km/h
3	オフロードレベル 3	標準 +90mm	～ 20km/h

⚠ **警告**

- 車高を調整するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。
- 通常は、できるだけ低い車高で走行してください。車高が上昇すると、車の重心も上がり、事故を起こすおそれがあります。
- 車高を上昇させたときは、急発進や急加速を避け、慎重に運転操作を行なってください。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

! 悪路などを走行するときは、レベルコントロールで車高を上げて十分な地上高を確保してください。車両を損傷するおそれがあります。

! 連続して車高を調整しないでください。システムの保護機能によって作動が停止することがあります。

! 車高を下げるときは、車体の下に十分な空間があることを確認してください。車体を損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷337、338 ページ）をご覧ください。

i 走行中に車高を調整すると、より短い時間で車高調整を完了させることができます。

i リモコン操作やキーレスゴー * 操作で車を解錠したときやドアを開いたときに、積載荷物の重量に応じて車高が調整されることがあります。

i イグニッション位置を **0** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜いても、選択した車高レベルは記憶されます。

i いずれかのドアが開いているときは車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

i 設定可能速度以上の速度で車高を調整しようとしたときは、マルチファンクションディスプレイに " ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲ ｼﾖｳﾌｶ " と表示されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチファンクションディスプレイの表示

車高レベルの表示

マルチファンクションディスプレイを "車高レベル / オフロード表示" 画面（▷154 ページ）にしているときは、車高の上昇 / 下降状態や車高レベルが表示されます。

"オフロード表示" 画面を表示させていないときに、レベルコントロールを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

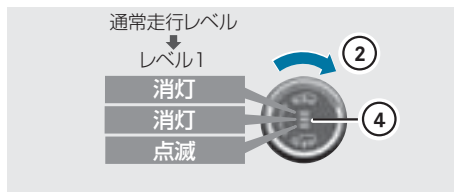
- 車高をオフロードレベル 3 以外のレベルにしたときは、マルチファンクションディスプレイの画面は、車高調整が完了した約 5 秒後に、元の画面に戻ります。

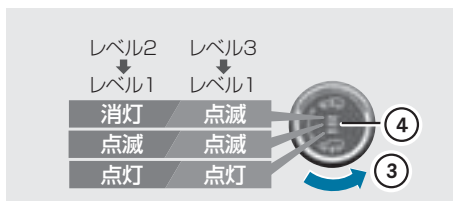
  車高が調整されている途中で、ステアリングスイッチの □ □ または △ ▽ を押すと、他のメニューを選択できます。

- 車高をオフロードレベル 3 にしたときは、車高調整が完了してもマルチファンクションディスプレイの画面は元の表示に戻りません。

  車高が調整されている途中で、ステアリングスイッチの □ □ または △ ▽ を押すと、そのときの車高がオフロードレベル 2 以下のときは、他のメニューを選択できます。

車高をオフロードレベル 1 にする

停車中、または約 100km/h 以下で走行しているときに設定できます。

▶ 車高が通常走行レベルのときは、車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

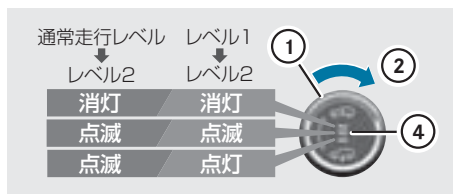
マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と "ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ" が表示されます。

▶ 車高がオフロードレベル 2、またはオフロードレベル 3 のときは、車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と " カコウチュウ " が表示されます。

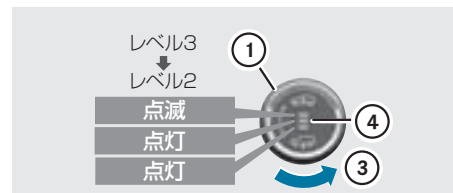
車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに " オフロード タカサ 1" と表示され、車高インジケーター⑦が 1 個点灯します。

また、表示灯④が 1 個点灯します。

車高をオフロードレベル 2 にする

停車中、または約 70km/h 以下で走行しているときに設定できます。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

▶ 車高が通常走行レベル、またはオフロードレベル 1 のときは、車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と " ジ ョウショウチュウ " が表示されます。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

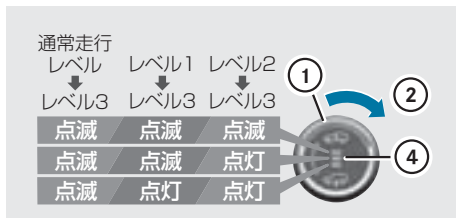
▶ 車高がオフロードレベル 3 のときは、車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と"ｶｺｳﾁｭｳ"が表示されます。

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに"ｵﾌﾛｰﾄﾞﾀｶｻ 2"と表示され、車高インジケーター⑦が 2 個点灯します。

また、表示灯④が 2 個点灯します。

車高をオフロードレベル 3 にする

停車中、または約 20km/h 以下で走行しているときに設定できます。

車高調整ダイヤル①操作直後の表示灯④の状態

▶ 車高調整ダイヤル①を時計回り②にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

マルチファンクションディスプレイに車高上昇インジケーター⑤と"ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ"が表示されます。

▶ 車高がオフロードレベル 2 以上になったときは "max.20km/h" と表示されます。

車高調整が完了すると、マルチファンクションディスプレイに"ｵﾌﾛｰﾄﾞﾀｶｻ 3"と表示され、表示灯④が 3 個点灯します。

また、車高インジケーター⑦が 3 個点灯します。

※ 上記の数値は取扱説明書作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。

⚠ 警 告

一般道では車高をオフロードレベル 3 にして走行しないでください。重心が高くなり、事故を起こすおそれがあります。

また、以下の内容を守って運転してください。

- オフロードレベル 2 では走破できないような悪路を走行するときのみ、オフロードレベル 3 にしてください。
- オフロードレベル 3 のときは、約 20km/h 以上の速度で走行しないでください。
- オフロードレベル 3 にすると、車両操縦性が大きく変化します。急ハンドルや急加速、急ブレーキは避けてください。

オフロードレベル 3 の自動解除

車高がオフロードレベル 3 のときに走行速度が約 20km/h を超えると、警告音とともに上記の警告メッセージが表示されます。

そのままの速度で走行を続けたり、速度を上昇させたときはオフロードレベル 3 は自動的に解除され、そのときの速度に適した車高に自動調整されます。

ℹ 走行速度が約 20km/h を超えたときに表示されるメッセージは、手動では消すことはできません。

ℹ オフロードレベル 3 で走行しているときに、停車するか速度を下げると、車高が自動調整されることがあります。

オフロードレベル 2 の自動解除

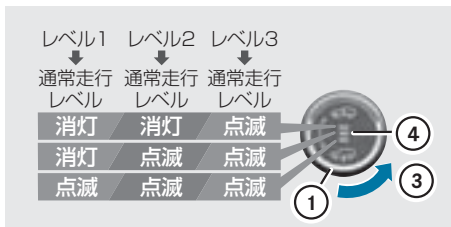
車高がオフロードレベル 2 のときに、約 90km/h 以上の速度で走行するか、約 70 ～ 90km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、オフロードレベル 2 は自動的に解除され、オフロードレベル 1 になります。

オフロードレベル 1 の自動解除

車高がオフロードレベル 1 のときに、約 115km/h 以上の速度で走行するか、約 100 ～ 115km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、オフロードレベル 1 は自動的に解除され、通常走行レベルになります。

ADS のモードが AUTO または COMF のときは通常走行レベルに、SPORT のときはハイウェイレベル（▷201 ページ）になります。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

車高を通常走行レベルにする

▶ 車高調整ダイヤル①を反時計回り③にまわして、表示灯④の状態を上図のようにします。

マルチファンクションディスプレイに車高下降インジケーター⑥と "ｶｺｳﾁｭｳ" が表示されます。

車高調整が完了すると、点滅していたスイッチの表示灯が消えます。

ℹ 車高が下がっているときにいずれかのドアを開くと、作動は停止します。開いたドアを閉じると、作動は再開します。

ハイウェイレベル

ADS（▷194 ページ）のモードが AUTO か COMF のときに、約 115km/h 以上の速度で走行するか、約 100 ～ 115km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、車高が約 15mm 下がります。

速度が約 40km/h 以下になるか、約 40 ～ 70km/h の速度で約 20 秒以上走行すると、車高は通常走行レベルに戻ります。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ ADS のモードが SPORT のときは、走行速度にかかわらず、車高はハイウェイレベルになります。

AIR マティックサスペンション（ML 63 AMG）

AIR マティックサスペンションは、運転のスタイルや路面状況などに応じて、サスペンションや車高を最適な状態に自動調整します。

また、サスペンションモード選択スイッチで 3 種類のモードを選択したり、車高調整スイッチで車高を上げることができます。

このシステムは以下の 2 つにより構成されています。

- ADS（アダプティブ・ダンピング・システム）
- レベルコントロール

ADS

サスペンションモード選択スイッチで 3 種類のサスペンションモードを選択することができます。

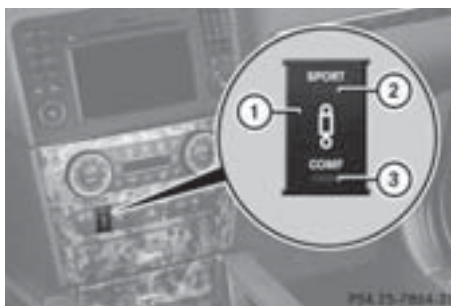
エンジンがかかっているときに操作することができます。

> ⚠ **警 告**
>
> サスペンションモード選択スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体が挟まれるおそれがあります。

サスペンションモードを選択する

エンジンがかかっているときに操作できます。

▶ サスペンションモード選択スイッチ①を押します。

サスペンションモードが AUTO → SPORT → COMF → AUTO と切り替わります。

ℹ サスペンションモードが AUTO モードか COMF モードのときは、走行速度が一定以上になると、車高が下がります。

ℹ エンジンを停止しても、選択したサスペンションモードは記憶されます。

ℹ いずれかのドアが開いているときは車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

点灯する表示灯	モード	作動内容
消灯	AUTO	通常走行用のモードです。
②	SPORT（スポーツ）	スポーティな走行に適したモードです。AUTO モードより約 8mm 低い車高になります。
③	COMF（コンフォート）	快適性を重視する走行に適したモードです。AUTO モードより約 7mm 高い車高になります。

レベルコントロール

悪路などを走行するときは、車高を上げることにより最低地上高を確保することができます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

⚠ 警告

- 車高を調整するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体が挟まれるおそれがあります。
- 通常は、できるだけ車高を上げないで走行してください。車高が上がると、車の重心も上がり、事故を起こすおそれがあります。
- 車高を上げたときは、急発進や急加速を避け、慎重に運転操作を行なってください。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

! 悪路などを走行するときは、レベルコントロールで車高を上げて十分な地上高を確保してください。車両を損傷するおそれがあります。

! 連続して車高を調整しないでください。システムの保護機能によって作動が停止することがあります。

! マルチファンクションディスプレイに車高に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは (▷337､338 ページ)をご覧ください。

i リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車を解錠したときやドアを開いたときに、積載荷物の重量に応じて車高が調整されることがあります。

i 走行中に車高を調整すると、より短い時間で車高調整を完了させることができます。

i 外気温度の変化により、停車中に車高が変化することがあります。

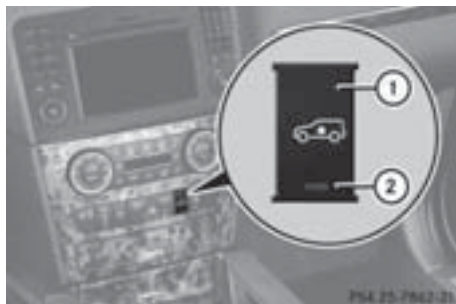
i サスペンションモードが AUTO モードか COMF モードで標準の車高のときに、エンジンを停止してリモコン操作やキーレスゴー操作 * で施錠すると、標準の車高より低い車高になることがあります。

次にエンジンを始動すると、標準の車高に戻ります。

i マルチファンクションディスプレイを " 車高レベル表示画面 " (▷154 ページ)にしていないときは、車高調整を開始すると車高レベル表示画面が表示されます。車高調整が完了した約 5 秒後に、元の画面に戻ります。

車高調整の途中で、ステアリングスイッチの [⊟] [⊟] または [△] [▽] を押すと、元の画面に戻ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車高の調整

ℹ サスペンションモードが SPORT または COMF のときは、車高調整スイッチを押しても車高が上がらない場合があります。

車高を上げる

▶ 車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点滅し、車高が上がり始めます。

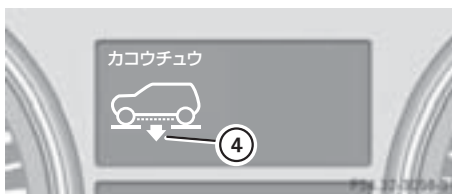
マルチファンクションディスプレイに、車高上昇インジケーター③と "ｼﾞｮｳｼｮｳ" が表示されます。

車高調整が完了すると、スイッチの表示灯が点灯して、マルチファンクションディスプレイに "ﾚﾍﾞﾙ Hi" と表示されます。

ℹ 走行速度が約 70km/h 以上のときは車高を上げることはできません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲｼﾖｳﾌｶ" と表示されます。

標準の車高に下げる

▶ 車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点滅し、車高が下がり始めます。

マルチファンクションディスプレイに、車高下降インジケーター④と "ｶｺｳﾁｭｳ" が表示されます。

車高調整が完了すると、スイッチの表示灯が消灯して、マルチファンクションディスプレイに "AIR ﾏﾃｨｯｸ " と表示されます。

! 車高を下げるときは、車体の下に十分な空間があることを確認してください。車体を損傷するおそれがあります。

i 車高を上げた状態で、走行速度が約 90km/h 以上の速度になるか、走行速度が約 70 ～ 90km/h での走行が約 20 秒間続くと、標準の車高に下がります。このとき、仕様によりマルチファンクションディスプレイに " ﾚﾍﾞﾙ ｾﾝﾀｸ ｼｮｳｷｮ " と表示されることがあります。

i いずれかのドアが開いているときは車高は下がりません。開いているドアを閉じると、車高が下がります。

ハイウェイレベル

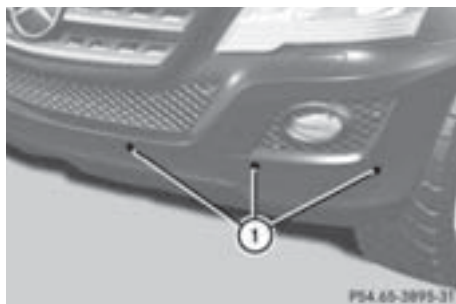
走行速度が上がると、ADS のサスペンションモードに応じて車高が下がります。

i ADS のサスペンションモードが SPORT モードのときは、走行速度にかかわらず、車高はハイウェイレベルになります。

パークトロニック

パークトロニックは、フロントとリアのバンパーにあるセンサーで障害物などを感知し、車と障害物とのおよその距離を、インジケーターと警告音で運転者に知らせます。

i パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。

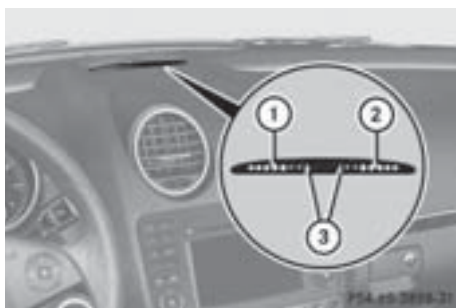
パークトロニックセンサー

① センサー（フロント）

② センサー（リア）

フロントバンパーの 6 個のセンサー①とリアバンパーの 4 個のセンサー②が車の周辺の障害物などを感知します。

! センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着したときは、赤色インジケーターが点灯して、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。

! センサーに損傷を与えないように注意してください。正しく作動しなくなるおそれがあります。

インジケーター / 作動表示灯

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ 作動表示灯

リア
④ 左側インジケーター
⑤ 右側インジケーター
⑥ 作動表示灯

フロントのインジケーターと作動表示灯はダッシュボード上の図の位置にあります。

リアのインジケーターと作動表示灯はラゲッジルーム上方の図の位置にあります。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

ⓘ イグニッション位置を **2** にすると、すべてのインジケーターと作動表示灯が一瞬点灯します。

パークトロニックの作動条件

イグニッション位置が **2** でパーキングブレーキが解除されているとき、シフトポジションに応じて以下のように作動します。

シフトポジション	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯③が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯③⑥が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

i パークトロニックが作動したとき、センサーの感知範囲に障害物などがあると、その距離に応じてインジケーターが点灯し、警告音も鳴ります。

i パークトロニックは、速度が約18km/h 以下のときに待機状態になります。速度が約 18km/h 以上になると機能が解除されます。

パークトロニックの作動

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲（▷208 ページ）に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

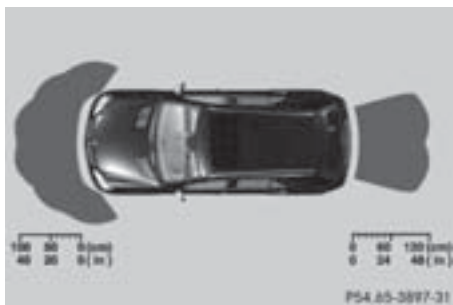
障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーターに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20 ～ 15cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

! 障害物との距離がセンサーの最短感知距離よりも近くなると、センサーは障害物を感知できなかったり、正常に作動しなくなることがあります。

また、点灯していたインジケーターが消灯することがあります。

センサーの感知範囲

フロントバンパー側	センサー感知範囲
中央	約 100cm ～ 20cm
コーナー	約 60cm ～ 15cm

リアバンパー側	センサー感知範囲
中央	約 120cm ～ 20cm
コーナー	約 80cm ～ 15cm

! 車の中央でバンパーから約 20cm 以内、コーナーでバンパーから約 15cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

! 電波を発する物が近くにあるときや、不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

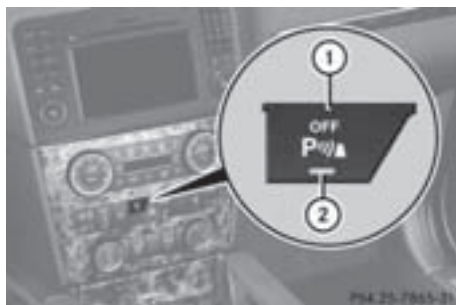
! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 路面が平坦でないときは、パークトロニックは正常に作動しないことがあります。

パークトロニックの機能の解除

オフロードパッケージ非装備車
① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

オフロードパッケージ装備車
① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

※ 車種や仕様により、スイッチの配置などが異なります。

センターコンソールのスイッチで、パークトロニックの機能を解除することができます。

パークトロニックの機能を解除する

▶ イグニッション位置が **2** のとき、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ 再度、パークトロニックオフスイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

! システムに異常があるときは、赤色インジケーターだけが点灯して警告音が約 2 秒間鳴り、約 20 秒後にパークトロニックの機能が解除されることがあります。このときは、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯します。

i パークトロニックの機能を解除しても、次にイグニッション位置を **2** にしてパーキングブレーキを解除したとき、パークトロニックは自動的に作動します。

サイドビューカメラ

助手席側ドアミラー下部に装着されたカメラにより、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の映像を、COMAND ディスプレイに表示します。

また、ガイドラインにより、カーブなどでの走行を補助します。

発進する際などには、必ずサイドビューカメラで助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の状況を確認してください。

※ オフロードパッケージは、日本仕様には装備されません。

⚠ **警告**

- サイドビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はサイドビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- サイドビューカメラ使用時においても安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。
- COMANDディスプレイの映像には近くにある障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。ディスプレイの映像だけを見て発進や路肩への幅寄せなどをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

  サイドビューカメラ使用時においても、目視による安全確認を行ないながら運転してください。

! 乗車人数や荷物の積載量により、サイドビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! ボディ側面前方や後方にある物はディスプレイには表示されません。

! 外気温度が低いときは、ディスプレイが暗くなったり、映像が薄くなることがあります。また、動いている物の映像が歪んだり、ディスプレイに表示されないことがあります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! ドアを開閉するときやドアミラーを格納 / 展開するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! カメラやカメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。カメラが故障したり、カメラの取り付け位置や角度がずれるおそれがあります。

! ドアミラーやカメラを損傷したり、カメラの取り付け位置や角度がずれたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの修理および調整を行なってください。

! カメラの修理および調整は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。お客様自身で作業を行なうと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

! カメラや関連部品の取り外しや分解、改造は絶対に行なわないでください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときや、" ガイドできません。オーナーズマニュアルを参照ください " というメッセージが表示されたときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

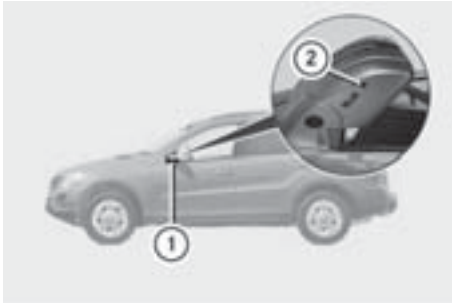
! 以下のような場合は、サイドビューカメラは正常に作動しません。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき
- 助手席側ドアミラーが完全に展開していないとき
- スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているとき
- 激しい雨や雪が降っているときや霧のとき
- 夜間や暗い場所で使用するとき
- カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入るときなど）
- カメラが曇ったり水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷するおそれがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

サイドビューカメラの位置

右ハンドル車
① 助手席側ドアミラー
② サイドビューカメラ

サイドビューカメラ②は助手席側ドアミラー①の下部に装備されています。

サイドビューカメラの表示範囲

右ハンドル車
① サイドビューカメラの表示範囲

サイドビューカメラは、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の範囲①を表示します。

サイドビューカメラの作動と停止

サイドビューカメラを作動させる

イグニッション位置が **2** のときにサイドビューカメラを作動させることができます。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの " ｼｽﾃﾑ " を選択します。

設定基本画面になります。

設定基本画面

▶ " ｻｲﾄﾞﾋﾞｭｰｶﾒﾗ " を選択します。

COMAND ディスプレイに、サイドビューカメラの映像とガイドラインが表示されます。

サイドビューカメラを停止する

▶ コントロールスティックを押すか、COMAND コントロールパネルのリターンボタンを押します。

設定基本画面に戻ります。

または

▶ COMAND コントロールパネルのアプリケーション選択ボタンを押します。

それぞれのボタンに応じた画面になります。

ℹ COMAND システムをオフにしたり、イグニッション位置を **2** 以外にすると、サイドビューカメラが停止します。

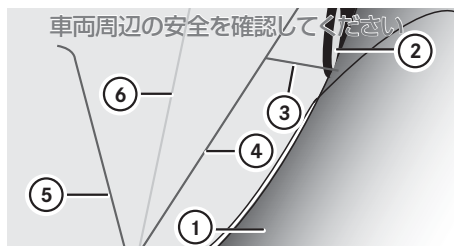
再度 COMAND システムをオンにしたり、イグニッション位置を **2** にするとサイドビューカメラが作動します。

サイドビューカメラの映像

走行速度が約 20km/h を超えると、サイドビューカメラの映像は表示されなくなります。

このときは、ディスプレイに " 安全のため、走行中は利用できません。" と表示されます。

走行速度が約 15km/h 以下になると、サイドビューカメラの映像は再び表示されます。

ガイドライン

右ハンドル車
① 自車
② 助手席側フロントタイヤ

③	助手席側フロントホイールの中心位置を表示するガイドラインです。
④	助手席側の車体から約 25 ～ 30cm の位置を表示するガイドラインです。
⑤	ステアリングをいっぱいまでまわして曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドラインです。
⑥	現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドラインです。 ステアリング操舵角が変化すると、角度が変化します。

ガイドライン⑤および⑥は以下のときには表示されません。

- 助手席方向にまわしたステアリング操舵角が約 90 度以下のとき
- ステアリングが運転席方向にまわしてあるとき
- シフトポジションが R のとき

また、以下のときはガイドライン③および④も表示されません。

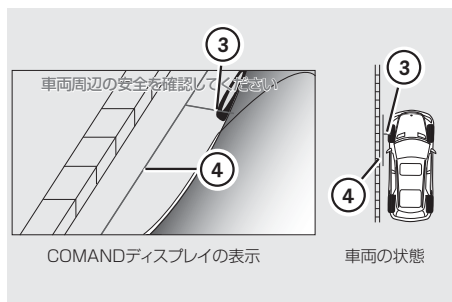
- 助手席ドアが完全に閉じていないとき

  ディスプレイに " 助手席側ドアが開いているため ガイドできません " と数秒間表示されます。

- 助手席側ドアミラーが格納されているとき

  ディスプレイに " ドアミラーが格納されているため ガイドできません " と数秒間表示されます。

路肩などに車を寄せるとき

路肩などに車を寄せるときに、車体と路肩の縁石などの目標物との位置関係を確認できます。

右ハンドル車

③ 助手席側フロントホイールの中心を表示するガイドライン（青色）

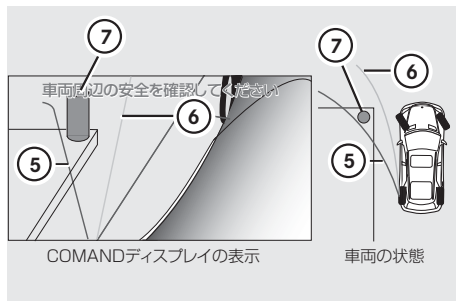
④ 助手席側の車体から約 25 ～ 30cm の位置を表示するガイドライン（青色）

▶ 図のように、ガイドライン④が目標物の端に接するように車両を幅寄せします。

▶ ガイドライン④を目標物と平行にすることで、目標物に沿って駐車できます。

ガイドライン③の位置により、助手席側フロントホイールのおよその位置を知ることもできます。

障害物のあるカーブを曲がるとき

助手席側に障害物があるカーブを曲がるときに、車体の予想進路と障害物との位置関係の目安を確認できます。

右ハンドル車

⑤ ステアリングをいっぱいまでまわして曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドライン（青色）
⑥ 現在のステアリング操舵角で曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を表示するガイドライン（黄色）
⑦ 障害物

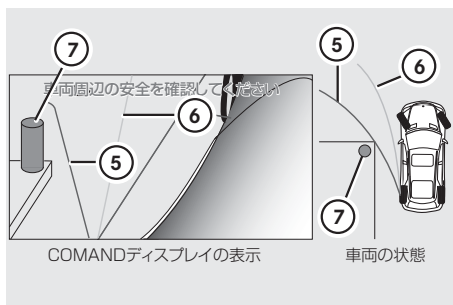
▶ ステアリングを助手席側にまわします。

図のように、ガイドライン⑥が障害物⑦より外側にくるときは、車体と障害物が接触しない目安になります。

! ディスプレイの表示はあくまで目安です。走行するときはディスプレイの表示だけに頼らず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

ただし、ステアリングをさらに助手席側にまわし、ガイドライン⑥が障害物と重なったり、障害物よりも内側にくると、車体と障害物が接触するおそれがあります

ガイドライン⑥が障害物より外側にくるようにステアリング操舵角を調整して走行してください。

! ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

右ハンドル車

図のように、ガイドライン⑤が障害物⑦より外側にあるときは、ステアリングをいっぱいまでまわして曲がっても、車体と障害物が接触しない目安になります。

! ガイドラインは目安を示すものであり、車両の移動軌道を保証するものではありません。ガイドラインは目安として使用し、実際は必ず周囲の状況を直接確認してください。

パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ **警告**

- パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。運転者はパーキングアシストリアビューカメラだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。特に周辺に人や動物がいないことを確認してください。
- パーキングアシストリアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

! パーキングアシストリアビューカメラは運転者を支援するシステムです。絶対にCOMANDディスプレイの映像だけを見て後退や車庫入れなどをしないでください。

! システムの特性上、COMANDディスプレイの映像には障害物の遠近感が正しく映し出されなかったり、映像が非常に見えづらいことがあります。COMANDディスプレイの映像だけを見て後退などをすると、人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を確認してください。

! 乗車人数や荷物の積載量により、パーキングアシストリアビューカメラの映像範囲は変化し、それに伴いガイドラインの示す位置にも誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! COMANDディスプレイに表示される物などが歪んだ形状で表示されたり、鮮明に表示されないことがあります。

! リアバンパーの至近距離や下方にある物はCOMANDディスプレイには表示されません。

運転者はCOMANDディスプレイの映像だけに頼らず、必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。特に周囲に人や動物がいないことを確認してください。

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

! 車の後部を損傷したときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの点検および調整を行なってください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときは正しく作動しません。

- テールゲートが完全に閉じていないとき
- カメラやカメラの周囲に損傷があるとき

! テールゲートを開閉するときなどは、カメラを損傷しないように注意してください。

! 以下のような場合はシステムを使用しないでください。

- 激しい雨や雪が降っているときや、カメラが汚れているときなど、COMAND ディスプレイの映像が見えづらいとき
- 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
- 坂道やカーブなどの平坦でない、または直線でない道路

洗車するときの注意

- 洗車時に高圧のスプレーガンを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。水圧が高いため、故障の原因になります。
- カメラを清掃するときは、きれいな水で汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。

  また、強い力で乾拭きしないでください。変色の原因になったり、カメラを損傷することがあります。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着してしまった場合は、水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

カメラの位置

① カメラ

カメラ①はテールゲートハンドルの横に装備されています。

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車モードの映像
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに映し出される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

⚠ **警 告**

安全のため、ガイドラインの色の識別が困難な方は、パーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。

ⓘ テールゲートが開いていたり、完全に閉じていない状態でパーキングアシストリアビューカメラを作動させたときや、パーキングアシストリアビューカメラ作動中にテールゲートを開いたときは、ガイドラインは表示されません。

このときは COMAND ディスプレイに " テールゲートが開いています ガイドできません " と数秒間表示されます。

! 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

! 障害物に向かって後退しているときは、0.25m ガイドライン④を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン④まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

ⓘ 以下のときは映像が見えづらくなりますが、異常ではありません。

- 夜間や暗い場所で使用するとき
- 急激な温度変化があったとき（カメラに冷水や温水がかかったときなど）
- カメラ付近の温度が極端に高いときや低いとき
- カメラにヘッドランプや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な明るさの変化があったとき（ガレージから出入りするときなど）
- カメラに水滴が付着したとき（雨の日や湿度の高い日、洗車した直後など）
- カメラに泥や汚れが付着したとき

後退駐車モード

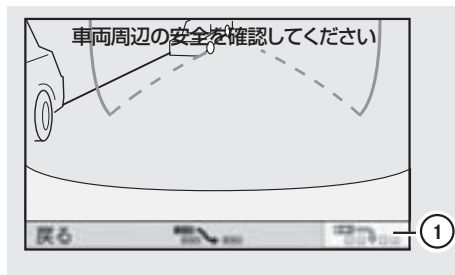
駐車場の駐車スペースなどに後退して駐車するときに、後退操作を補助するモードです。

後退駐車モードにする

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

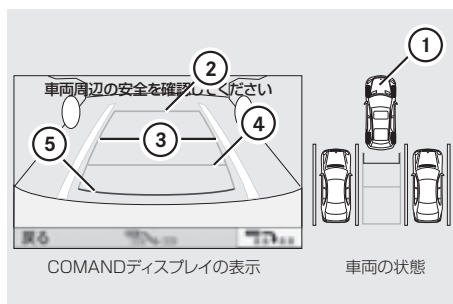
COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

が表示されていないときは、後退駐車アイコン ①を選択して、コントロールスティックを押します。

① 後退駐車アイコン

後退駐車時のガイドラインが表示されます。

" 戻る " を選択してコントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

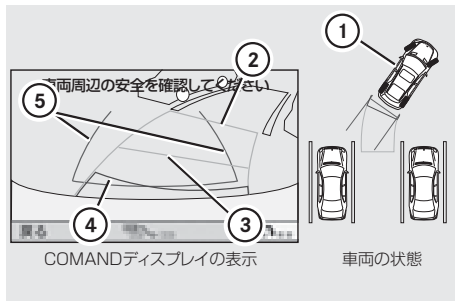
パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

ステアリングをまわさないでまっすぐ後退駐車する

① 自車位置
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 予想進路ガイドライン（黄色）
④ 1.0m ガイドライン（黄色）
⑤ 0.25m ガイドライン（赤色）

▶ 予想進路ガイドライン③が駐車スペースに収まっていることを確認し、周囲に注意しながら、まっすぐに後退します。

! ガイドライン内やその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

車両の操作

ステアリングをまわしながら後退駐車する

① 自車位置
② 予想進路ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）
⑤ 直進ガイドライン（青色）

直進ガイドライン⑤は、ステアリングが直進状態で車が後退するときの進路を示します。

予想進路ガイドライン②は、そのときのステアリングの操舵角で車が後退するときの予想進路を示します。

▶ 予想進路ガイドライン②が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

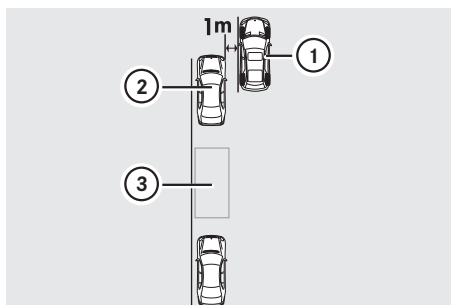
▶ 直進ガイドライン⑤が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

! ガイドライン内やその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

! ステアリングをまわして予想進路ガイドライン②の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両②から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両②の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。

ステアリングは直進状態にします。

i 駐車スペース③の前方に駐車車両②がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

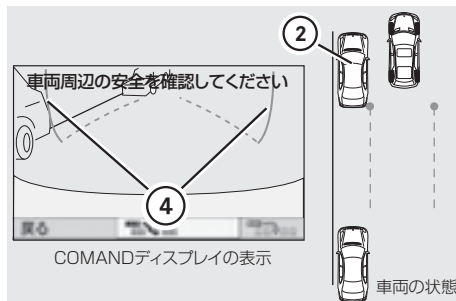
▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

が表示されていないときは、縦列駐車アイコン ① を選択して、コントロールスティックを押します。

① 縦列駐車アイコン

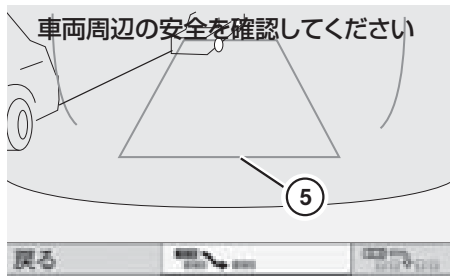
縦列駐車モードのガイドラインが表示されます。

② 駐車スペース前方の駐車車両
④ 垂直ガイドライン

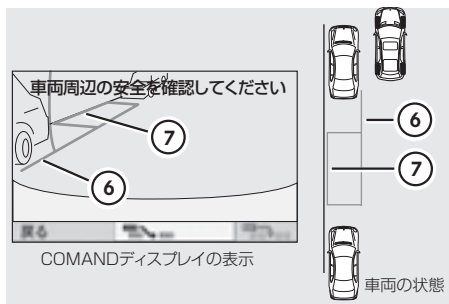
" 戻る " を選択してコントロールスティックを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

▶ 垂直ガイドライン④が、駐車スペース前方の駐車車両②の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン④が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

! 垂直ガイドライン④が駐車車両②の後端から外れていると、正しい位置に駐車することはできません。

⑤ 駐車位置ガイドライン

垂直ガイドラインが表示されてからしばらくすると、駐車位置ガイドライン⑤が表示されます。

⑥ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑦ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。

また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認してください。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑥が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

! ステアリングをまわしすぎたときは " ガイドできません ステアリングを戻してください " と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン④、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦が消えます。

i ゆっくり後退しないと、ガイドが間に合わないことがあります。

i 以下のときはガイドが中止されます。

- シフトポジションを R 以外にしたとき
- " 戻る " を選択したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、画面に " ガイドできません " または " ガイドできませんステアリングがずれました " と表示されます。

! ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑧ ステアリング角度ガイドライン

▶ そのままゆっくり後退すると、ステアリング角度ガイドライン⑧が表示されます。縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン⑧が合うまで、ステアリングをまわさないでそのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン⑧が正しい位置に合ったら、停車します。

⑨ 直進ガイドライン（青色）
⑩ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン⑨と予想進路ガイドライン⑩が表示されます。

▶ 予想進路ガイドライン⑩が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進状態に戻します。

! ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

音声案内の設定

パーキングアシストリアビューカメラ作動時の音声案内を停止 / 作動できます。

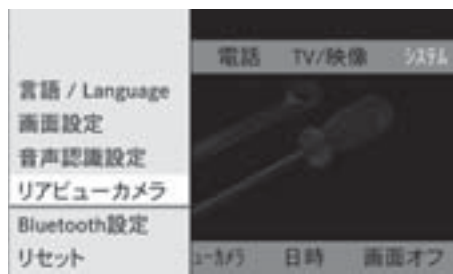
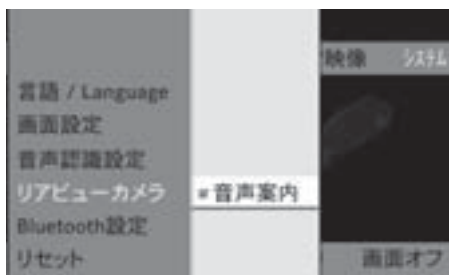
▶ COMAND システムをオンにします。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの " ｼｽﾃﾑ " を選択します。

設定基本画面

設定基本画面になります。

▶ " ｼｽﾃﾑ設定 " → " リアビューカメラ " を選択します。

▶ コントロールスティックを押します。

コントロールスティックを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

チェックマークが表示されているときは、音声案内が行なわれます。

ℹ 音声案内中に、ステアリングスイッチ [+] [−]、または COMAND コントロールパネルの音量調整ダイヤルを操作すると、音量が調整できます。

エアコンディショナー

エアコンディショナーの取り扱い

エアコンディショナーは、設定温度や車内温度、外気温度や日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

⚠ **警 告**

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

環 境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警 告**

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。ウインドウが曇って事故を起こすおそれがあります。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

i 外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとスライディングルーフ * を開くと、短時間で換気できます（▷121 ページ）。

i 除湿された水分は車体下方に排水されます。水分が排出されても、故障ではありません。

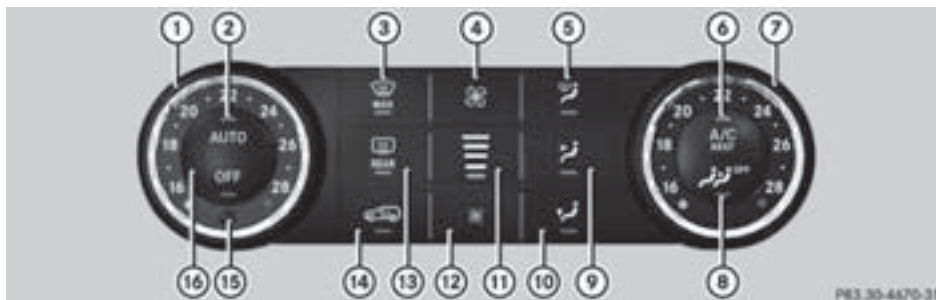
i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ML 350 BlueTEC 4MATIC / ML 350 4MATIC

コントロールパネル

	名称
①	送風温度調整ダイヤル（左）
②	AUTO スイッチ
③	デフロスタースイッチ
④	送風量調整スイッチ（強）
⑤	送風口選択スイッチ （フロントウインドウ送風口 / サイド送風口 / ドアウインドウ送風口）
⑥	AC スイッチ / 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑦	送風温度調整ダイヤル（右）
⑧	リアエアコンディショナーオフスイッチ
⑨	送風口選択スイッチ （サイド送風口 / 中央送風口）
⑩	送風口選択スイッチ （足元送風口 / サイド送風口）
⑪	送風量インジケーター
⑫	送風量調整スイッチ（弱）
⑬	リアデフォッガースイッチ

	名称
⑭	内気循環スイッチ
⑮	室内温度センサー
⑯	オフスイッチ

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄や配列などは、予告なく変更される場合があります。

通常の使いかた（AUTO モード）

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

または

▶ オフスイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ℹ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させると、自動的に AC モード（▷229 ページ）および外気導入モード（▷230 ページ）に設定されます。

エアコンディショナーの停止

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

ℹ ドアウインドウやスライディングルーフ * が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

設定温度の調整

▶ 送風温度調整ダイヤル①または⑦をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

ℹ 送風温度は左右別々に設定できます。

ℹ 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ℹ ドアウインドウやスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持することができません。

ℹ リア送風口の送風温度は助手席側の送風温度に連動します。

送風量の調整

送風量を手動で調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）④を押します。

送風量インジケーター⑪の点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑫を押します。

送風量インジケーター⑪の点灯数が減ります。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量調整の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ 送風量調整スイッチを操作すると、リア送風口からの送風量も増減します。

ℹ 送風量を上げているときに、COMAND システムの音声認識機能を使用すると、送風量が自動的に下がることがあります。音声認識機能を終了させると、送風量は元の設定に戻ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ⑤⑨⑩のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

送風口の選択を解除する

▶ 選択されているスイッチを押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、送風口選択の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

再度、送風口選択スイッチを押してすべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTO モードに戻ります。

ⓘ 複数の送風口選択スイッチを押すと、組み合わせた送風口から送風できます。

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風口 選択スイッチ	主に送風される送風口
⑤	フロントウインドウ送風口Ⓔ ドアウインドウ送風口Ⓕ サイド送風口Ⓐ
⑨	中央送風口Ⓒ　サイド送風口Ⓐ
⑩	サイド送風口Ⓐ　足元送風口Ⓖ

送風口の開閉

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒを開閉できます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒷⒹを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

ⓘ ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒは風向きを調整することができます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ⓘ 換気効率を上げるため、送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的にAC モードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードを設定する

▶ 再度、AC スイッチを押します。

⚠ **警 告**

ドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

環 境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

ⓘ 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているときに送風されます。

ⓘ エアコンディショナーが停止しているときに AC スイッチの表示灯が点灯するときは、エアコンディショナーが故障しています。除湿 / 冷房は行なわれません。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

内気循環モード

⚠ 警告

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

ドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。

ウインドウが曇りはじめたときは内気循環モードを解除してください。曇り具合がひどいときはデフロスターモードにしてください。

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやスライディングルーフ * を開閉できます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑭を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑭を約 2 秒以上押し続けると、開いているドアウインドウとスライディングルーフ * が自動で閉じます。

⚠ 警告

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。身体や物が挟まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチやスライディングルーフスイッチを操作して、ドアウインドウやスライディングルーフを開いてください。

⚠ 警告

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して少し開く機能がありますが、身体を挟まれないように注意してください。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後
外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ⑭を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

内気循環スイッチ⑭を約 2 秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディンググルーフ * が、前回開いていた位置まで自動で開きます。

⚠ 警告

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディンググルーフ * を開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけたり、スライディンググルーフ * やサンシェード * に触れないようにしてください。ドアウインドウとドアフレーム、スライディンググルーフ * やサンシェード * とルーフ内張りの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。

ⓘ 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

ⓘ AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。

ⓘ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディンググルーフ * を別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディンググルーフ * を内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

デフロスターモード

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ③を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 送風量が上がります。
- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

ⓘ 外気温度によっては、送風温度が高くならなかったり、送風量が上がらないことがあります。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ③を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ⓘ デフロスターモードを解除すると、送風量と送風温度、送風口の選択は、デフロスターモードに設定する前の設定に戻ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していた場合は AC モードに設定されます。AC モードを解除していて内気循環だった場合は、外気導入になります。

ⓘ オフスイッチや AUTO スイッチ、送風温度調整ダイヤルや送風量調整スイッチを操作したときも、デフロスターモードは解除されます。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、フロントウインドウやフロントドアウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

> ⚠ **警 告**
>
> ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたらすみやかに停止してください。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは数分後に自動的に停止します。

ⓘ 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

ⓘ バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

ⓘ 外気温度が低いときは、車内が暖まるまではリアデフォッガーが作動しないことがあります。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口の選択や送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター･ベンチレーションスイッチ⑥を押します。

または

▶ オフスイッチ⑯を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑥の表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ⓘ バッテリーを保護するために、送風量は弱の設定で一定に保たれます。

ⓘ エンジン冷却水の温度が低いときは、暖気が送風されないことがあります。

ⓘ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは中程度の送風になります。

ⓘ リア送風口からは送風されません。

リア送風口からの送風の停止

フロントのコントロールパネルでリア送風口からの送風を停止できます。

リア送風口からの送風を停止する

▶ リアエアコンディショナーオフスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リア送風口から送風する

▶ 再度、リアエアコンディショナーオフスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ フロントエアコンディショナーの送風量を最大にするときは、リア送風口からの送風を停止してください。

リア送風口

リア送風口には、以下の二つの送風口があります。

- センターコンソール後端部のリア中央送風口
- フロントシート下のリア足元送風口

ⓘ リア送風口の送風温度や送風量は、助手席側のエアコンディショナーの設定に連動します。

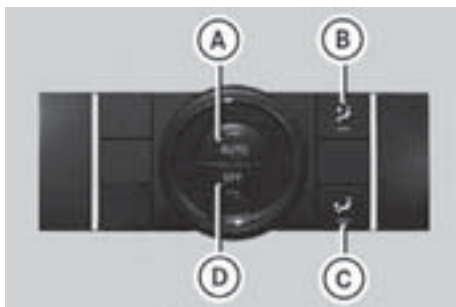
ただし、車内温度や外気温度、日射の強さなどによっては、助手席側のエアコンディショナーで設定した送風温度や送風量で送風が行なわれないことがあります。また、リア中央送風口またはリア足元送風口いずれかからの送風になる場合があります。

⑰	リア中央送風口（左側）
⑱	リア中央送風口（右側）

リア中央送風口⑰⑱は、風向きを調整できます。

リア中央送風口の風向きを調整する

▶ リア中央送風口⑰⑱のノブを上下左右に動かします。

リア送風口コントロールパネル *

Ⓐ	AUTO スイッチ
Ⓑ	送風口選択スイッチ（リア中央送風口）
Ⓒ	送風口選択スイッチ（リア足元送風口）
Ⓓ	オフスイッチ

センターコンソール後端部に後席用の送風口コントロールパネルを装備しています。

フロントのエアコンディショナーが作動しているときに、リア送風口からの送風 / 停止と送風口の選択ができます。

リア送風口から送風する

▶ AUTO スイッチⒶを押します。

または

▶ 送風が停止しているときに、オフスイッチⒹを押します。

AUTO スイッチⒶの表示灯が点灯し、送風口の選択が自動的に行なわれます。

リア送風口からの送風を停止する

▶ オフスイッチⒹを押します。

オフスイッチⒹの表示灯が点灯し、送風が停止します。

ⓘ リア送風口からの送風が停止しているときは、リアコンディショナースイッチ⑧の表示灯が点灯します。

リア送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチⒷを押します。

スイッチⒷの表示灯が点灯し、リア中央送風口から送風されます。

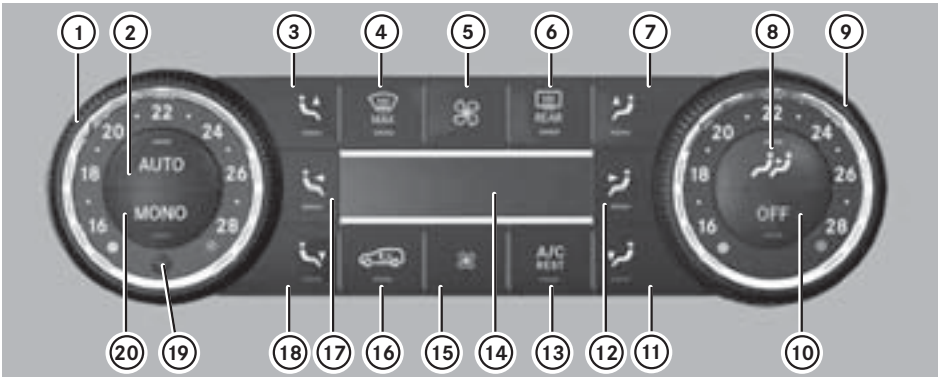
または

▶ 送風口選択スイッチⒸを押します。

スイッチⒸの表示灯が点灯し、リア足元送風口から送風されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ML 63 AMG

コントロールパネル

	名称
①	送風温度調整ダイヤル（助手席側）
②	AUTO スイッチ
③	送風口選択スイッチ（助手席側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
④	デフロスタースイッチ
⑤	送風量調整スイッチ（強）
⑥	リアデフォッガースイッチ
⑦	送風口選択スイッチ（運転席側：フロントウインドウ / サイド / ドアウインドウ送風口）
⑧	リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑨	送風温度調整ダイヤル（運転席側）
⑩	オフスイッチ
⑪	送風口選択スイッチ（運転席側：足元 / サイド送風口）
⑫	送風口選択スイッチ（運転席側：サイド / 中央送風口）
⑬	AC スイッチ / 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑭	ディスプレイ
⑮	送風量調整スイッチ（弱）
⑯	内気循環スイッチ
⑰	送風口選択スイッチ（助手席側：サイド / 中央送風口）
⑱	送風口選択スイッチ（助手席側：足元 / サイド送風口）
⑲	室内温度センサー
⑳	運転席モードスイッチ

※ エアコンディショナーのスイッチ類の絵柄や配列などは、予告なく変更される場合があります。

通常の使いかた（AUTO モード）

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ②を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

送風口の組み合わせと送風量が自動的に調整されるようになります。

または

▶ オフスイッチ⑩を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ℹ AUTO モードでエアコンディショナーを作動させると、自動的に AC モード（▷238 ページ）および外気導入モード（▷239 ページ）に設定されます。

エアコンディショナーの停止

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑩を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

ℹ ドアウインドウやスライディングルーフ * が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

設定温度の調整

▶ 送風温度調整ダイヤル①または⑨をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

ℹ 送風温度は左右別々に設定できます。

ℹ 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ℹ ドアウインドウやスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持することができません。

送風量の調整

送風量を手動で調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）⑤を押します。

ディスプレイの送風量インジケーター⑭の点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑮を押します。

ディスプレイの送風量インジケーター⑭の点灯数が減ります。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量調整スイッチを押すと、送風量調整の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 送風量を上げているときに、COMAND システムの音声認識機能を使用すると、送風量が自動的に下がることがあります。音声認識機能を終了させると、送風量は元の設定に戻ります。

送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

送風口を選択する

▶ 送風口選択スイッチ③⑦⑪⑫⑰⑱のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

送風口の選択を解除する

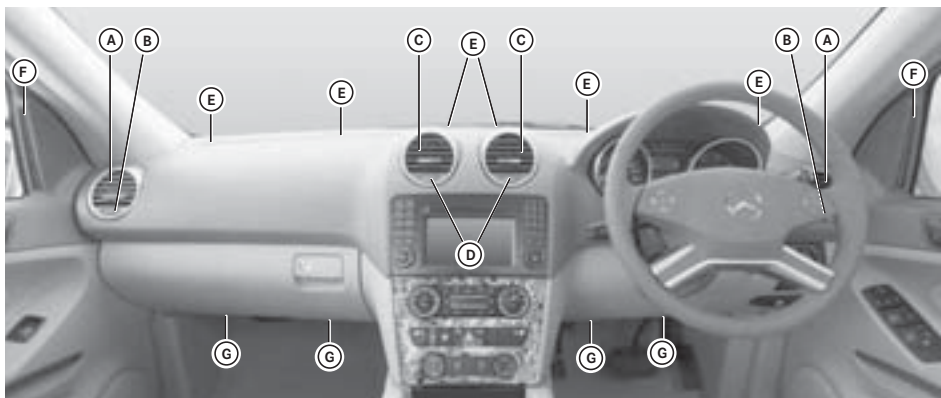
▶ 選択されているスイッチを押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、押した席側の送風口選択の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

再度、送風口選択スイッチを押してすべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTO モードに戻ります。

ℹ 複数の送風口選択スイッチを押すと、組み合わせた送風口から送風することができます。

ℹ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

送風口 選択スイッチ	主に送風される送風口
③ ⑦	フロントウインドウ送風口Ⓔ ドアウインドウ送風口Ⓕ サイド送風口Ⓐ
⑰ ⑫	中央送風口Ⓒ　サイド送風口Ⓐ
⑱ ⑪	サイド送風口Ⓐ　足元送風口Ⓖ

送風口の開閉

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒを開閉できます。

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤルⒷⒹを左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルⒷⒹを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、完全に送風口を閉じることはできません。

送風口の風向き調整

サイド送風口Ⓐと中央送風口Ⓒは風向きを調整することができます。

風向きを調整する

▶ 各送風口のノブを上下左右に動かします。

ℹ 換気効率を上げるため、各送風口の風向きを中央にすることをお勧めします。

AC モード

AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AUTO モードでエアコンディショナーを作動させたときは、自動的に AC モードになり、スイッチの表示灯が点灯します。

AC モードを解除する

▶ AC スイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、除湿 / 冷房されていない空気が送風されます。

AC モードを設定する

▶ 再度、AC スイッチを押します。

⚠ **警 告**

ドアウインドウとスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

環 境

AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

ℹ 除湿 / 冷房された空気はエンジンがかかっているときに送風されます。

ℹ エアコンディショナーが停止しているときに AC スイッチの表示灯が点灯するときは、エアコンディショナーが故障しています。除湿 / 冷房は行なわれません。すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ AC モードを解除しても、しばらくは除湿 / 冷房された空気が送風される場合があります。

内気循環モード

⚠ 警告

外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は短時間にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、事故を起こすおそれがあります。

ドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じているときに内気循環モードにするとウインドウが曇りやすくなります。

ウインドウが曇りはじめたときは内気循環モードを解除してください。曇り具合がひどいときはデフロスターモードにしてください。

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやスライディングルーフ * を開閉できます。

内気循環モードに設定する

▶ 内気循環スイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

内気循環スイッチ⑯を約 2 秒以上押し続けると、開いているドアウインドウとスライディングルーフ * が自動で閉じます。

⚠ 警告

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。身体や物が挟まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチやスライディングルーフスイッチを操作して、ドアウインドウやスライディングルーフを開いてください。

⚠ 警告

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフ * を閉じているときに、挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して少し開く機能がありますが、身体を挟まれないように注意してください。

内気循環モードに設定されていても、一定時間を経過すると以下のように外気導入をはじめます。

外気温度が約 5℃以上のとき	約 30 分後
外気温度が約 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後

* オプションや仕様により、異なる装備です。

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに内気循環スイッチ⑯を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

内気循環スイッチ⑯を約 2 秒以上押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフ * が、前回開いていた位置まで自動で開きます。

⚠ 警 告

内気循環スイッチでドアウインドウやスライディングルーフ * を開いているときは、ドアウインドウに身体を寄りかけたり、スライディングルーフ * やサンシェード * に触れないようにしてください。ドアウインドウとドアフレーム、スライディングルーフ * やサンシェード * とルーフ内張りの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、冷房効率を高めるために自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

ℹ AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。

ℹ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディングルーフ * を別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフ * を内気循環モードの解除操作と連動して前回開いていた位置まで開くことはできません。

デフロスターモード

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿された空気が送風されます。
- 送風量が上がります。
- 送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口から送風されます。
- 内気循環モードが解除されます。

ℹ 外気温度によっては、送風温度が高くならなかったり、送風量が上がらないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ④を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ 曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ℹ デフロスターモードを解除すると、送風量と送風温度の調整、送風口の選択は、デフロスターモードに設定する前の設定に戻ります。

ℹ デフロスターモードを解除すると、AC モードを解除していた場合は AC モードに設定されます。AC モードを解除していて内気循環だった場合は、外気導入になります。

ℹ オフスイッチや AUTO スイッチ、送風温度調整ダイヤルや送風量調整スイッチを操作したときも、デフロスターモードは解除されます。

ℹ デフロスターモードに設定すると、リアエアコンディショナー（▷244 ページ）が停止します。

ウインドウの外側が曇るとき

車外の湿度が高いときなどに、フロントウインドウやフロントドアウインドウの外側が曇ることがあります。このときは、ウインドウに冷気が当たらないように送風口を調整すると、外側の曇りを軽減できます。

また、フロントウインドウ外側の曇りを取るときには、ワイパーを作動させてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

> ⚠ **警 告**
>
> ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたらすみやかに停止してください。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ⑥を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは数分後に自動的に停止します。

ℹ 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

ℹ バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

ℹ 外気温度が低いときは、車内が暖まるまではリアデフォッガーが作動しないことがあります。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジン停止後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑬を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口や送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑬を押します。

または

▶ オフスイッチ⑩を押します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ⑬の表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ⓘ バッテリーを保護するために、送風量は弱の設定で一定に保たれます。

ⓘ エンジン冷却水の温度が低いときは、暖気が送風されないことがあります。

ⓘ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

ⓘ リア送風口からは送風されません。

運転席モード

助手席およびリアエアコンディショナーの設定の一部を運転席と同じ設定にできます。

運転席の設定を変更すると、助手席およびリアエアコンディショナーの設定の一部も変更されます。

運転席モードに設定する

▶ 運転席モードスイッチ⑳を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

助手席の送風温度および送風口の選択が運転席の設定に連動します。

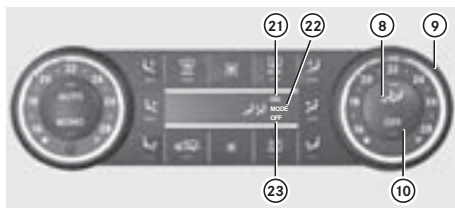
また、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動し、送風温度の設定が運転席の設定に連動します。

運転席モードを解除する

▶ 再度、運転席モードスイッチ⑳を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 助手席やリアエアコンディショナーの設定を変更したときは、運転席モードは自動的に解除されます。

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作する

⑧ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ
⑨ 送風温度調整ダイヤル（運転席側）
⑩ オフスイッチ
㉑ リアエアコンディショナー作動インジケーター
㉒ リアエアコンディショナーモードインジケーター
㉓ リアエアコンディショナー停止インジケーター

フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを作動 / 停止させたり、リアエアコンディショナーの送風温度を調整できます。

リアエアコンディショナーを作動させる

▶ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナー作動インジケーター㉑とリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

また、リアエアコンディショナーコントロールパネルの AUTO スイッチの表示灯（▷244 ページ）が点灯し、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

ℹ リアエアコンディショナーコントロールスイッチ⑧を押してから約 3 秒間何も操作をしないと、スイッチ⑧の表示灯とディスプレイのリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が消灯し、フロントのエアコンディショナーを操作できる状態に戻ります。

リアエアコンディショナーの送風温度を調整する

▶ リアエアコンディショナースイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

▶ 約 3 秒以内に送風温度調整ダイヤル（運転席側）⑨で送風温度を調整します。

設定した送風温度のインジケーターが点灯します。

リアエアコンディショナーコントロールパネルの送風温度調整ダイヤル（▷244 ページ）内側のインジケーターが、設定した送風温度に移動します。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ リアエアコンディショナースイッチ⑧を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、ディスプレイにリアエアコンディショナーモードインジケーター㉒が表示されます。

▶ 約 3 秒以内にオフスイッチ⑩を押します。

ディスプレイにリアエアコンディショナー停止インジケーター㉓が表示されます。

リアエアコンディショナーが停止します。

ℹ フロントのコントロールパネルから、リアエアコンディショナーの送風口の選択や送風量の調整を行なうことはできません。

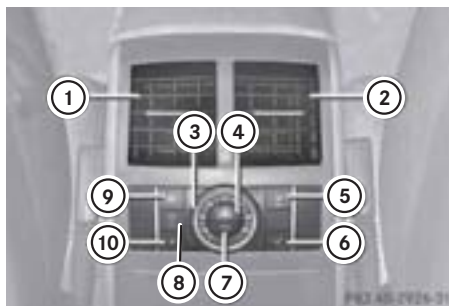
ℹ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているときは、リアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

リアエアコンディショナー

リアエアコンディショナーは、フロントエアコンディショナーが作動しているときに作動させることができます。

ℹ フロントシートの下にリア足元送風口があります。

ℹ フロントのエアコンディショナーがデフロスターモードのときはリアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

ℹ フロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作しているとき（▷243 ページ）は、リアエアコンディショナーのコントロールパネルは操作できません。

①	リア中央送風口（左側）
②	リア中央送風口（右側）
③	送風温度調整ダイヤル
④	AUTO スイッチ
⑤	送風口選択スイッチ（リア中央送風口）
⑥	送風口選択スイッチ（リア足元送風口）
⑦	オフスイッチ
⑧	送風量インジケーター
⑨	送風量調整スイッチ（強）
⑩	送風量調整スイッチ（弱）

リアエアコンディショナーを AUTO モードで作動させる

▶ AUTO スイッチ④を押します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯します。

送風量の調整と送風口の選択は自動的に行なわれます。

▶ 送風温度調整ダイヤル③をまわして、ダイヤル内側のインジケーターを好みの温度に合わせます。

ℹ 通常は22℃に設定することをお勧めします。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ⑦を押します。

オフスイッチの表示灯が点灯し、リアエアコンディショナーが停止します。

再度、オフスイッチ⑦を押すと、リアエアコンディショナーが元の設定で作動します。

リアエアコンディショナーの送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ（強）⑨を押します。

送風量インジケーター⑧の点灯数が増えます。

リアエアコンディショナーの送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ（弱）⑩を押します。

送風量インジケーター⑧の点灯数が減ります。

ℹ リアエアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに送風量調整スイッチを押すと、送風量調整のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチ④の表示灯が消灯します。

リアエアコンディショナーの送風口を選択する

リアエアコンディショナーの送風口を手動で選択できます。

▶ 送風口選択スイッチ⑤⑥のいずれかを押します。

選択されたスイッチの表示灯が点灯します。

送風口選択スイッチ	送風される送風口
⑤	リア中央送風口①②
⑥	リア足元送風口

ℹ リアエアコンディショナーがAUTOモードで作動しているときに、送風口選択スイッチを押すと、送風口選択のAUTOモードが解除され、AUTOスイッチ④の表示灯が消灯します。

再度、送風口選択スイッチを押して、すべての送風口選択スイッチの表示灯を消灯させると、AUTOモードに戻ります。

リア送風口の風向きを調整する

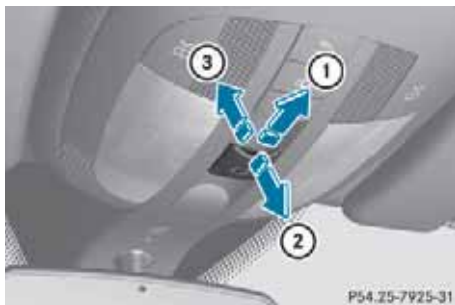
リア中央送風口①②は、風向きを調整できます。

▶ リア中央送風口①②のノブを上下左右に動かします。

スライディングルーフ *

スライディングルーフの操作

⚠ 警告

- スライディングルーフを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。スライディングルーフを操作してけがをしたり、事故の原因になります。
- スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に放り出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

① 開く
② 閉じる / チルトダウン
③ チルトアップ

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

スライディングルーフを開く

▶ スライディングルーフスイッチを①の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

サンシェードが閉じている場合は連動して開きます。

①の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

スライディングルーフを閉じる

▶ スライディングルーフスイッチを②の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

②の方向にいっぱいまで操作すると、自動で閉じます。

スライディングルーフをチルトアップする

▶ スライディングルーフスイッチを③の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

③の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

スライディングルーフをチルトダウンする

▶ スライディングルーフスイッチを②の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

②の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 走行中はスライディンググルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディンググルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディンググルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディンググルーフが完全に閉じていることを確認してください。

! スライディンググルーフの開口部から、角の尖った物を出し入れしないでください。スライディンググルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にスライディンググルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! スライディンググルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディンググルーフを損傷するおそれがあります。

i スライディンググルーフはリモコン操作で開くことができます（▷121 ページ）。

i スライディンググルーフはリモコン操作またはキーレスゴー操作 * で閉じることができます（▷121 ページ）。

i スライディンググルーフが自動で作動しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

i スライディンググルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディンググルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

i スライディンググルーフが開いているときに PRE-SAFE®（▷45 ページ）が車の横滑りを感知すると、スライディンググルーフが少し開いた位置まで自動的に閉じます。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、スライディンググルーフを操作できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、スライディンググルーフの操作はできなくなります。

i スライディンググルーフが開閉できないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

挟み込み防止機能

スライディンググルーフには挟み込み防止機能があります。

スイッチを操作し続けてスライディンググルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、その位置から少し開きます。

ただし、挟み込み防止機能が作動した後に再度操作して、挟み込みなどの抵抗を検知したときは、より強い力で閉じます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

さらに、この状態で再度操作して挟み込みなどの抵抗を検知したときは、挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

> ⚠ **警 告**
>
> 挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフを閉じるときは、身体を挟まないように注意してください。スライディングルーフに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

自動でスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止して、その位置から少し開きます。

> ⚠ **警 告**
>
> スライディングルーフには挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフを閉じるときやチルトダウンするときは、身体などを挟まないように注意してください。特に子供には注意してください。

自動チルトアップ機能

スライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから、約 12 時間経過したとき

! 自動チルトアップ機能で閉じているスライディングルーフには、挟み込み防止機能がありますが、スライディングルーフから身体や物などを出さないでください。

! 濡れたタオルなどでフロントウインドウを拭くと、スライディングルーフが閉じることがあります。

i レインセンサーに雨滴がかからないときは、自動チルトアップ機能は作動しません。

i 自動チルトアップ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、挟み込み防止機能が作動し、スライディングルーフがただちに停止し、その位置から少し開きます。その後自動チルトアップ機能は解除されます。

i 自動チルトアップ機能は、イグニッション位置が **1** か **2** のときやスライディングルーフがチルトアップしているときは作動しません。

イグニッション位置を**0**にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約5秒間は、自動チルトアップ機能は作動しません。

スライディングルーフのリセット

スライディングルーフがスムーズに作動しないとき、またはバッテリーあがりやバッテリー交換などで電源が断たれたときは、スライディングルーフのリセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を**0**にしてから、**2**にします。

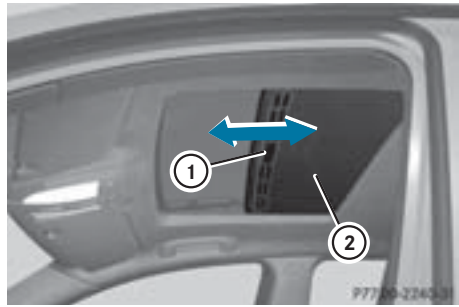
▶ スライディングルーフスイッチを③の方向（▷246ページ）に押してチルトアップします。

▶ スイッチを押したまま約2秒以上保持します。

▶ スライディングルーフが自動で全開／全閉することを確認します。

▶ 自動で全開しないときは、再度リセットを行ないます。

！ リセットを行なっても、スライディングルーフが自動で全開／全閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

サンシェード

サンシェードを開閉する

▶ グリップ①を持って、サンシェード②を前後に開閉します。

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

！ スライディングルーフが開いているときに、サンシェード②とルーフ内張りの間に身体が挟まれないように注意してください。

スライディングルーフが開いているときは、サンシェード②を閉じることはできません。

荷物の積み方 / 小物入れ

荷物を積むときの注意点

⚠ **警告**

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故のときなどに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ **警告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物を積み方は車の走行安定性に大きく影響します。以下の点に注意してください。

- 荷物の重量が、制限重量（▷410 ページ）を超えないようにしてください。
- ラゲッジルームには極端に重い荷物を積載しないでください。
- 重い物は車の中心近く（ラゲッジルームの前方）の低い位置に積み、確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、ラゲッジルーム内部を損傷するおそれがあります。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- 荷物はラゲッジルームに積み、バックレストまたは前方に倒したリアシートクッションに接するようにしてください。また、リアシートを起こしているときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。
- セーフティネットを使用してください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 強度の十分な荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。

ℹ 荷物固定用のアクセサリーは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

⚠ **警 告**

走行中は、小物入れのカバーを開いたままにしないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! 収納物が小物入れからはみ出さないようにしてください。

! 小物入れのカバーが閉じなくなるような大きな物を小物入れに入れないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 貴重品は小物入れに保管しないでください。

グローブボックス

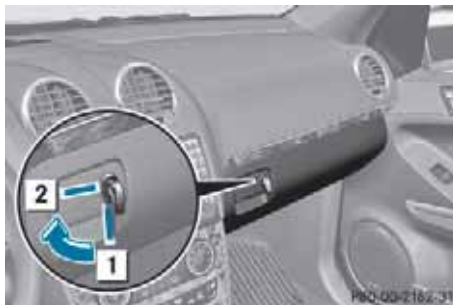
左ハンドル車

グローブボックスを開く

▶ ハンドル①を引きます。

カバー②が開きます。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー②を押してロックします。

左ハンドル車

グローブボックスのキーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んで、グローブボックスを施錠 / 解錠できます。

グローブボックスを施錠する

▶ キーを水平位置 2 にまわします。

確実に施錠されていることを確認します。

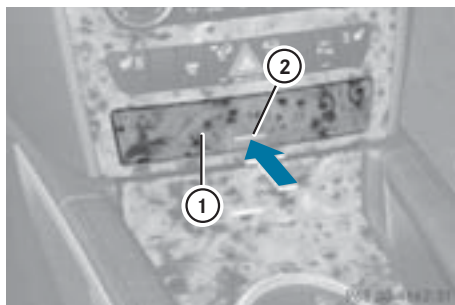
グローブボックスを解錠する

▶ キーを垂直位置 1 にまわします。

ℹ グローブボックス内には、メディアインターフェース用端子があります。メディアインターフェースは、iPod® や USB 機器などのポータブル音楽機器のための接続端子です。詳しくは別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

ℹ グローブボックスにはペンホルダーがあります。

ℹ イグニッション位置が **1** か **2** のときにグローブボックスを開くと、グローブボックスランプが点灯します。

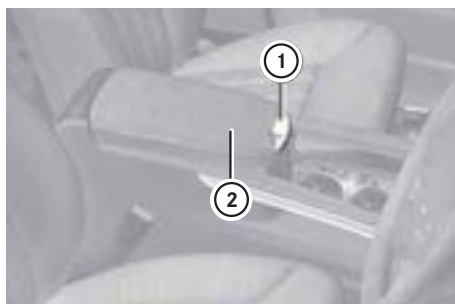
センターコンソール下部の小物入れ *

センターコンソール下部の小物入れを開く

▶ カバー①のマーク②を押します。

小物入れが開きます。

センターコンソール下部の小物入れを閉じる

▶ カバー①を押してロックします。

フロントアームレストの小物入れ

フロントシートのアームレスト内部に小物入れがあります。

小物入れを開く

▶ レバー①を引いてカバー②を開きます。

小物入れを閉じる

▶ カバー②を下げてロックします。

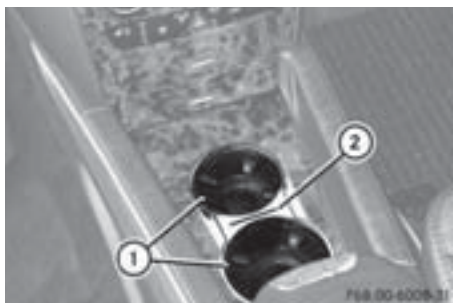
カップホルダー

⚠ 警告

- 走行中はカップホルダーを使用しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにカップホルダーに置いた容器が投げ出されて、乗員が火傷をするおそれがあります。
- カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。また、火傷防止のため、熱い飲み物が入った容器を置かないでください。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

センターコンソールのカップホルダー

センターコンソールにはカップホルダー①が装備されています。

また、2 つのカップホルダーの間にはカードホルダー②があります。

ⓘ カードホルダー②は上方に引き上げて取り外すことができます。

ⓘ カップホルダーを清掃するときは、きれいなぬるま湯で拭いてください。

リアアームレストのカップホルダー

リアアームレストにはカップホルダー①があります。

リアアームレストのカップホルダーを使用する

▶ リアアームレストを引き下げて使用します。

収納するときはリアアームレストを引き上げます。

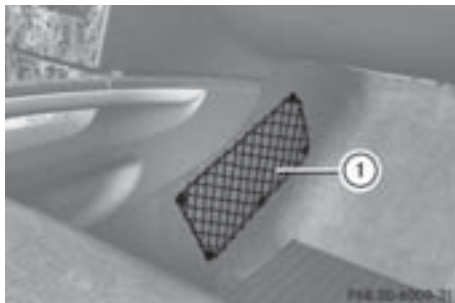
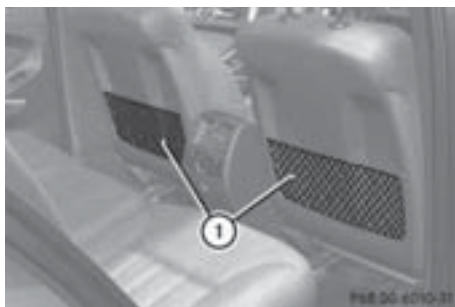
! 容器を置いたままリアアームレストを収納しないでください。

収納ネット

⚠ **警 告**

収納ネットには、重い物やかたい物、ビンや缶、割れやすい物、鋭利な形状の物を収納しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに収納物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

助手席の足元とフロントシートの背面に新聞や雑誌などを収納できるネット①を備えています。

! 収納ネットから収納物がはみ出さないようにしてください。

左ハンドル車
① 助手席足元の収納ネット

① フロントシート背面の収納ネット

分割可倒式リアシート

左右いずれか一方、または両方のリアシートを折りたたむことができます

⚠ 警 告

ラゲッジルームに重い荷物やかたい荷物を積載するときは、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

ラゲッジルームに荷物を積載するときは、必ずセーフティネットを使用してください。

⚠ 警 告

リアシートのクッションを完全に引き起こしていない状態で、リアシートのバックレストを倒さないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物がバックレストの上を通って放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

- 大きな荷物を積まないときは、バックレストを起こしてください。ラゲッジルームの荷物などが前方に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- リアシートに乗車するときは、必ずバックレストを起こして確実にロックしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに、乗員がけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

! リアシートクッションを引き起こしたり、元の位置に戻すときは、ヒンジ周辺の部分（図中の×印のところ）などに身体や物が挟まれないように注意してください。

! リアシートを折りたたんでいるときにフロントシートを後方に移動したり、バックレストを後方に倒すときは、リアシートに接触しないように注意してください。フロントシート背面の収納ネットに収納している物やシートを損傷するおそれがあります。

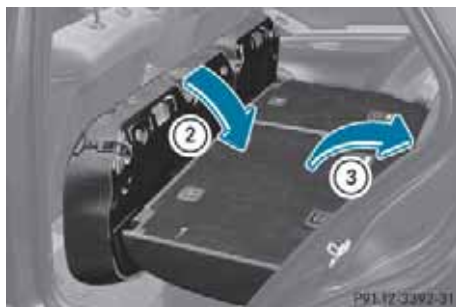
リアシートを折りたたむ

- フロントシートが後方の位置にあったり、バックレストを後方に倒しているときは、フロントシートを前方に移動し、バックレストを前方に起こします。
- 折りたたむリアシートのヘッドレストをいっぱいまで下げます。
- シートクッション横にあるストラップ①を引きます。

  シートクッション②のロックが解除されます。
- シートクッション②を前方に引き起こします。

- リリースハンドル④を引いて、バックレストのロックを解除します。
- バックレスト③を前方に倒します。

! バックレストは非常に重量があります。倒すときは身体を挟まないように注意してください。

- シートベルトをフック⑤にかけます。

リアシートを元に戻す

▶ シートベルトが挟まれないようにしながら、バックレスト③を元の位置に戻し、確実にロックします。

▶ シートクッション②を元の位置に戻し、確実にロックします。

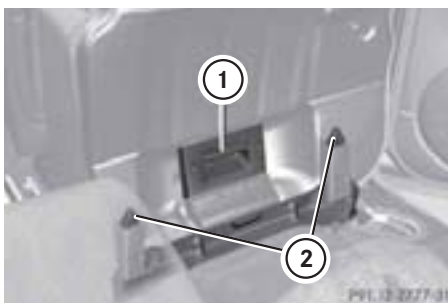
バックレストがロックされていない状態

▶ ロックインジケーター⑥が見えない状態になっていることを確認します。

⚠ 警告

バックレストを起こしたときは、バックレストが確実にロックされていることを確認してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が前方に放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! ロックインジケーター⑥が見えているときはバックレストがロックされていません。ロックインジケーターが見えなくなるまで、バックレストを確実にロックしてください。

シートクッションの脱着 *

左右いずれか一方、または両方のシートクッションを取り外して、ラゲッジスペースを広げることができます。

シートクッションを取り外す

▶ シートクッションを前方に引き起こします（▷255 ページ）。

▶ シートクッション裏のレバー①を引きながら、シートクッションを上方に取り外します。

! シートクッションを取り外したときは、シートクッション取り付け部②を後方に倒さないでください。

シートクッション取り付け部②を後方に倒した状態でバックレストを倒すと、シートクッション取り付け部とバックレストが接触して、バックレストを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ バックレストを前方に倒します。

シートクッションを取り付ける

▶ シートクッション取り付け部②にシートクッションを差し込みます。

シートクッションが確実にロックされていることを確認します。

▶ シートクッションを後方に倒して、ロックさせせます。

! シートクッションを取り付けたときは、シートクッションが確実にロックされていることを確認してください。

荷物の固定

荷物固定用リング

⚠ 警 告

荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

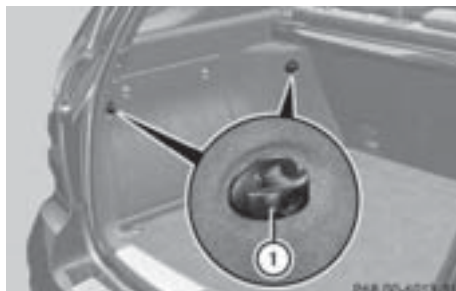
- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。
- 荷物固定用リングに均等に力がかかるようにしてください。
- できるだけすべての荷物固定用リングを使用してください。
- 荷物固定用リングに過大な力がかからないようにしてください。
- 固定用具の取扱説明書もご覧ください。

① 荷物固定用リング（ラゲッジルーム内）

② 荷物固定用リング（リアシート足元）

荷物固定用リングはラゲッジルーム内①に 4 個、リアシート足元②に 2 個あります。

荷物固定用のアクセサリーは、Daimler AG の推奨品の使用をおすすめします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

荷物固定用フック

① 荷物固定用フック

ラゲッジルームの左右に荷物固定用フックがあります。

! 荷物固定用フックには、約 4kg 以上の荷物をかけないでください。フックを損傷するおそれがあります。

EASY-PACK ラゲッジルームカバー

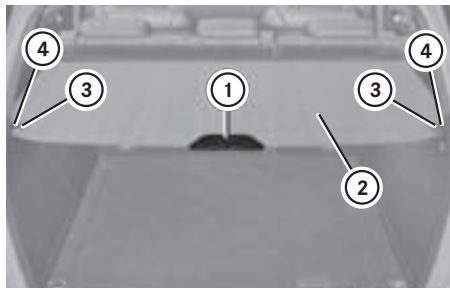
⚠ **警告**

ラゲッジルームカバーは、荷物の飛び出しを防ぐものではありません。ラゲッジルームカバーを使用しているときも、ラゲッジルームの荷物は確実に固定してください。

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

! ラゲッジルームに荷物を積むときは、ラゲッジルーム左右のウインドウ下端よりも高い位置に荷物を積み上げないでください。

! ラゲッジルームカバーの上に重い荷物を置かないでください。ラゲッジルームカバーを損傷するおそれがあります。

! ラゲッジルームカバーは、リアシートのバックレストを起こした状態で使用してください。

ラゲッジルームカバーを使用する

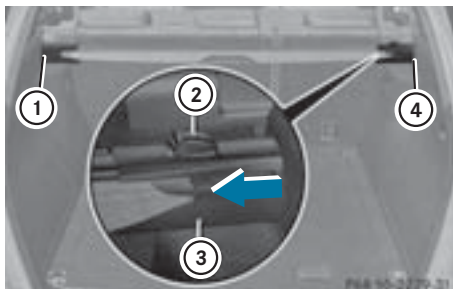
▶ ハンドル①を持って、ラゲッジルームカバー②をリールから引き出します。

▶ いっぱいまで引き出して、左右の固定部③をフック④にかけます。

ラゲッジルームカバーを収納する

▶ ハンドル①を持って、ラゲッジルームカバー②を少し引きながら、左右の固定部③をフック④から外します。

▶ ラゲッジルームカバー②をゆっくり巻き取らせます。

ラゲッジルームカバー収納リール

リールを取り外す

▶ ラゲッジルームカバーをリールに収納します。

▶ 収納リール右端部③を左側にスライドさせます。

収納リール右端部③が左側に押し込まれ、収納リールの長さが短くなります。

▶ 右側取り付け部④から収納リール右端部③を取り外します。

▶ 収納リールを取り外します。

リールを取り付ける

▶ 収納リール右端部③が左側に押し込まれていて、収納リールが短くなっていることを確認します。

収納リール右端部③が左側に押し込まれていないときは、左側に押し込みます。

▶ ロック解除ボタン②が右側および上面にくるようにします。

▶ 収納リールの左端部を左側取り付け部①に合わせます。

▶ 収納リール右端部③を右側取り付け部④に合わせ、ロック解除ボタン②を押します。

リール右端部③が右側にスライドして右側取り付け部④に固定されます。

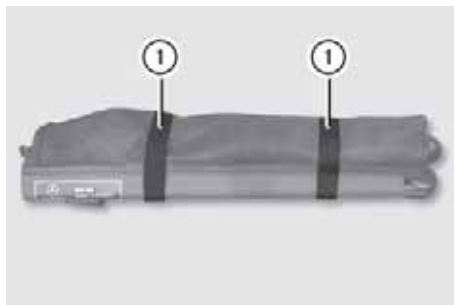
セーフティネット

⚠ **警 告**

セーフティネットを使用するときは、以下の点に注意してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

- セーフティネットが確実に固定されていること
- セーフティネットに損傷がないこと

また、セーフティネットは重い荷物の移動を防ぐことはできません。荷物は確実に固定してください。

セーフティネットを展開する

▶ 2 本のストラップ①を外します。

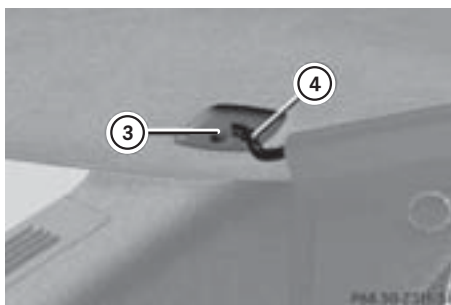
▶ バー②をロックするまで開きます。

バー②はセーフティネットの下部にもう 1 本あります。下部のバーもロックするまで開きます。

ℹ セーフティネットを収納するときは、上下のバーにあるロック解除ボタン③を押しながらバーを折りたたみます。

セーフティネットの取り付け位置

セーフティネットはフロントシートの後方①、またはリアシートの後方②に取り付けることができます。

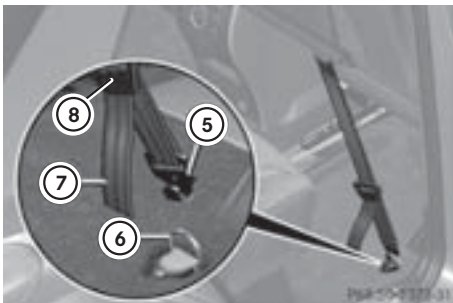
セーフティネットの取り付け

リアシート後方に取り付けるとき

▶ リアシートの後方にセーフティネットを取り付けるときは、ラゲッジルームカバー収納リールを取り外します。

▶ セーフティネット下側のフック⑤およびアジャスター⑧が後方を向くようにセーフティネットの上部を持ちます。

▶ セーフティネットのロッド④の片側を取り付け部③に差し込み、前方に押し込んで固定します。

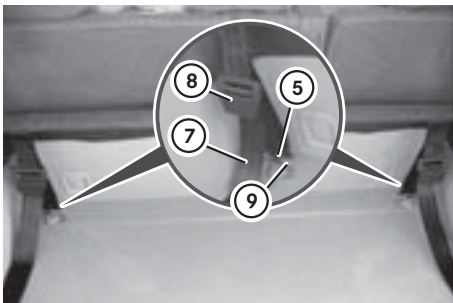
▶ ロッドを押し縮めながら、もう片側の端を取り付け部③に差し込み、前方に押し込んで固定します。

フロントシート後方に取り付けるとき

▶ フック⑤をリアシート足元の荷物固定用リング⑥にかけます。

▶ ベルト⑦の端部を下方に引きます。

▶ 少しの間走行した後に、ベルトがゆるんでいないことを確認します。

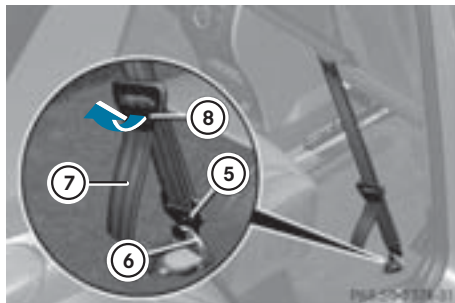
ベルトがゆるんでいるときは、ベルトの端部を引き、ベルトを締めます。

リアシート後方に取り付けるとき

▶ フック⑤をリアシート後方の荷物固定用リング⑨にかけます。

▶ ベルト⑦の端部を下方に引きます。

▶ 少しの間走行した後に、ベルトがゆるんでいないことを確認します。

ベルトがゆるんでいるときは、ベルトの端部を引き、ベルトを締めます。

セーフティネットの取り外し

フロントシート後方に取り付けたとき

▶ アジャスター⑧を矢印の方向に引き上げます。

ベルト⑦がゆるみます。

▶ 荷物固定用リング⑥からフック⑤を外します。

▶ ロッド④（▷260 ページ）を押し縮めながら、ロッドの端部を取り付け部から取り外します。

ルーフレール

⚠ 警告

- ルーフレールにルーフラックやスキーラックなどを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。誤った取り付け方によってルーフラックが脱落すると、乗員や他の人々がけがをしたり、事故の原因になります。
- ルーフの最大積載量（約 100kg）を超えないよう注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安定性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

⚠ 警告

ルーフラックを取り付けているときは、スライディングルーフ * を閉じてください。乗員がけがをするおそれがあります。

! ルーフラックやスキーラックなどは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。推奨品以外の製品を取り付けると車を損傷するおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ルーフラックなどを取り付けるとき、また、ルーフに荷物を積んだときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- スライディングルーフ * をチルトアップしたときに接触しないこと
- テールゲートを開いたときに接触しないこと

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ルーフレール①にルーフラックなどを取り付けます。

ルーフラックなどの装着方法については、製品に添付されている取扱説明書をご覧ください。

室内装備

サンバイザー

⚠ **警告**

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により事故を起こすおそれがあります。

① 照明
② フック
③ 補助サンバイザー *
④ バニティミラー
⑤ カードホルダー
⑥ バニティミラーカバー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック②から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

前方からの眩しさを防ぐときは、補助サンバイザー③ * を下げます。

使用後は、補助サンバイザーを元の位置に戻してから、サンバイザーを元の位置に戻します。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー⑥を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

i 車種や仕様により、横にまわしたサンバイザーを、軸方向にスライドすることができます。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザーを下げます。

▶ バニティミラーカバー⑥を上方に開きます。

照明①が点灯します。

i サンバイザーをフック②から外すと、照明①は点灯しません。

灰皿

i 灰皿を取り外したスペースを小物入れとして使用することができます。

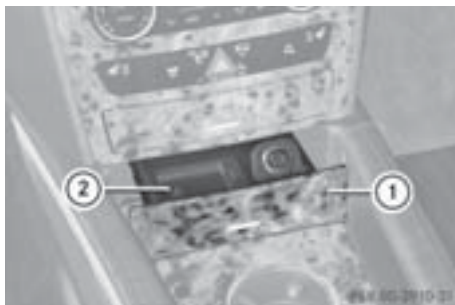
! 灰皿下部のスペースには耐熱性がありません。火がついたたばこを灰皿に置く前に、灰皿が確実に取り付けられていることを確認してください。灰皿下部のスペースを損傷するおそれがあります。

! 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 使用後は確実にカバーを閉じてください。

フロントの灰皿

灰皿を開く

▶ カバー①を軽く押します。

灰皿を閉じる

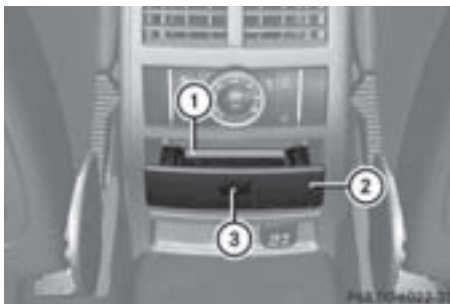
▶ カバー①を前方に押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿②を上方に引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿②をロックするまで押し込みます。

リアの灰皿

リアの灰皿は、リアセンターコンソールにあります。

灰皿を開く

▶ カバー②のボタン③を軽く押します。

灰皿を閉じる

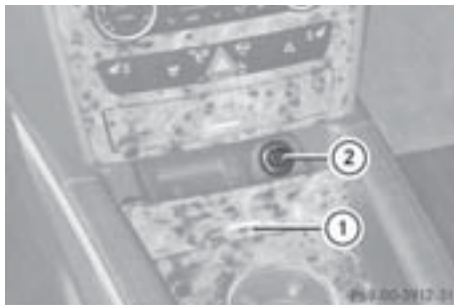
▶ カバー②を押して閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿①を引き上げて取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿①をロックするまで押し込みます。

ライター

ライターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 灰皿のカバー①を軽く押します。

▶ ライター②を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

⚠ **警 告**

- ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。
- 安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。ライターに触れて火傷をするおそれがあります。また、火災の原因になります。

! ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。

! 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

! ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやセンターコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、最大消費電流 15A 以下の規格に合った電気製品を使用してください。

! 電動エアポンプ *（▷376、379、382 ページ）のプラグをライターのソケットに差し込まないでください。

12V 電源ソケット

リアセンターコンソールとラゲッジルームに 12V 電源ソケットを装備しています。

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

ℹ イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはエンジンスイッチからキーを抜いてあるときも 12V 電源ソケットは使用できます。

ただし、バッテリー電圧が低下すると、12V 電源ソケットは使用できなくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアセンターコンソールの電源ソケット

ラゲッジルームの電源ソケット

12V 電源ソケットを使用する

▶ ソケットカバー①を開き、電気製品の電源コネクターを確実に差し込みます。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になります。

! 必ず DC12V、最大消費電流 20A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。

規格外の電気製品を使用すると、ヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

アシストグリップ

各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ **警 告**

SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。
- コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。
- コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣服を直接かけてください。

! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

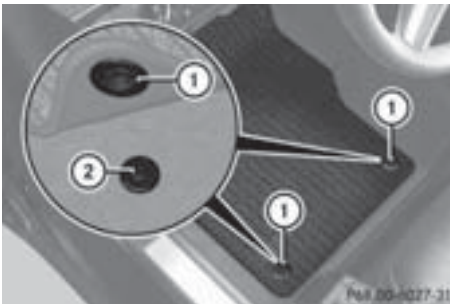
! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

フロアマット *

左ハンドル車

⚠ 警告

- 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。
- フロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。
- 走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。
- 運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

フロアマットを取り付ける

▶ フロントシートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

フロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

慣らし運転

⚠ 警 告

新品のブレーキパッドやブレーキディスクは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。また、ブレーキパッドの交換を行なったときも、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは注意してください。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲でエンジン回転数と走行速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 D3、D2、D1 および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ℹ ML 63 AMG は、走行距離が 1,500km になるまでは、以下の注意事項を守ってください。

- 走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。
- できるだけ、走行モードを C モード * にして走行してください。

ℹ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ℹ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ **警 告**

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生するおそれがあります。

⚠ **警 告**

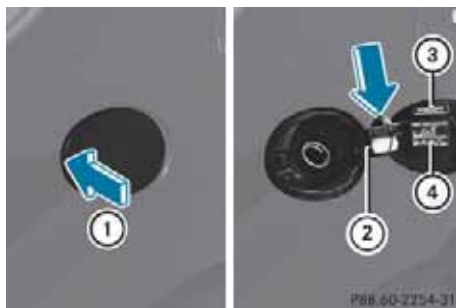
燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ **警 告**

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

⚠ **警 告**

ディーゼルエンジン車にガソリンを燃料として使用したり、軽油にガソリンを混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでも燃料系部品やエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

① 燃料給油フラップ
② ホルダー
③ 使用燃料表示
④ タイヤ空気圧ラベル

燃料給油フラップは、リモコン操作またはキーレスゴー操作 * での解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

給油口を開いて給油する

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチに取り付けているキーレスゴースイッチ * を押してイグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ * を取り付けているときは、運転席側ドアを開き、イグニッション位置を **0** にします。

再び運転席側ドアを閉じても、イグニッション位置は **0** のままになります。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の位置を押します。

燃料給油フラップ ① が少し開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ 燃料給油フラップ ① を開きます。

▶ キャップを反時計回りに少しゆるめて、タンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして取り外します。

▶ 外したキャップを燃料給油フラップの裏側にあるホルダー②に置きます。

▶ 給油を開始します。

給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

燃料給油口を閉じる

▶ キャップを燃料給油口に合わせます。

▶ キャップをカチカチッという音がして空回りするまで、時計回りにまわします。

▶ 燃料給油フラップ ① を閉じます。

ⓘ 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷289 ページ）をご覧ください。

ⓘ 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。施錠後に燃料給油フラップを閉じようとしても、ロックピンにより、燃料給油フラップが閉じなくなります。

ⓘ リモコン操作やキーレスゴー操作 * で燃料給油フラップが解錠されないときは、手動で解錠できます（▷362 ページ）。

ⓘ 燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネル内には燃料給油口の位置を示す [燃料] が表示されています。

! ディーゼルエンジン車は、燃料切れによりエンジンが停止した場合は、給油後に燃料ポンプのエア抜きを行なってください（▷352 ページ）。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- ガソリンエンジン車の燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。故障の原因になります。
- ガソリンエンジン車の燃料として軽油を使用しないでください。また、絶対にディーゼルエンジン車の燃料としてガソリンを使用しないでください。

  また、無鉛プレミアムガソリンと軽油を混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでも燃料系部品やエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- ガソリンエンジン車に誤って軽油を給油してしまった場合やディーゼルエンジン車に誤ってガソリンを給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。誤った燃料が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合は、燃料タンクや燃料装置から燃料を完全に抜き取る必要があるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- ディーゼルエンジン車の燃料については（▷274 ページ）をご覧ください。
- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を補給してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業を行なう人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは燃料給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

ディーゼルエンジン車の燃料について

⚠ **警告**

ディーゼルエンジン車に自動車用軽油以外の燃料を使用したり、自動車用軽油以外の燃料を自動車用軽油に混ぜて使用すると、エンジンや排気系部品、燃料系部品の腐食・損傷による火災が発生するおそれがあります。

自動車用軽油以外の燃料の使用または承認されていない添加剤の使用により発生した故障については、保証の適用外になります。

ディーゼルエンジン搭載車は、ガソリンエンジン搭載車とは取扱方法が異なります。

以下の注意を守ってください。

使用する燃料

自動車用の軽油を使用する

ディーゼルエンジン車の燃料には、日本の JIS 規格に適合した、自動車用の軽油を使用してください。

! 以下のような自動車用軽油以外の燃料を使用したり、自動車用軽油以外の燃料を自動車用軽油に混ぜて使用しないでください。

- 船外機用軽油
- 暖房用軽油
- バイオディーゼル軽油
- 植物油
- ガソリン
- 灯油 / 白灯油

エンジンの性能が発揮されず、エンジンを損傷するおそれがあります。

また、エンジンや排気系部品、燃料系部品を腐食・損傷させたり、摩耗度合いが高まるおそれがあります。

! 低温時用の流動性向上剤以外の添加剤は使用しないでください。

寒冷地での給油について

自動車用軽油は、外気温度が低くなると流動性が低下する性質があります。寒冷地で車を使用するときは以下の点に注意してください。

- 寒冷地で給油するときは、流動性向上剤を多く配合した寒冷地用軽油であることを確認してください。
- 寒冷地用軽油は、外気温度に合わせて、下記の等級の軽油を使用してください。

外気温度	使用燃料
-5℃以下	3 号軽油
-12℃以下	特 3 号軽油

ⓘ 寒冷地用軽油を「3 号軽油」という呼称で呼ぶことがあります。それに対して、流動性向上剤の配合率が低い寒冷地での使用に適さない軽油を「2 号軽油」と呼ぶことがあります。

- 寒冷地で長時間駐車するときは、あらかじめ寒冷地用軽油を給油してください。
- 寒冷地用軽油を給油するときは、燃料タンク容量の 3 分の 2 以上の容量を給油してください。

  燃料タンク容量については（▷405 ページ）をご覧ください。

エンジンルーム

ボンネット

⚠ 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて視界が遮られ、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

⚠ 警告

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

⚠ 警告

エンジンスイッチからキーを抜いているときやイグニッション位置が **0** のときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

▶ ワイパースイッチが停止の位置になっていることを確認します。

⚠ 警告

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にして、ワイパースイッチが停止の位置になっていることを確認してください。ワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がるおそれがあります。風の強い日には十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

左ハンドル車

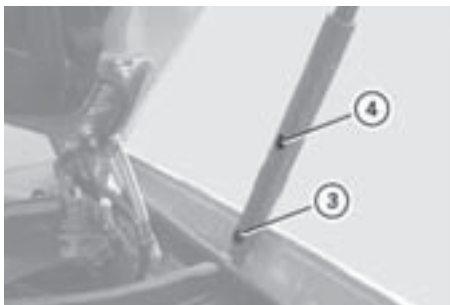
▶ エンジンスイッチからキーを抜くかイグニッション位置が **0** になっていることを確認します（▷82 ページ）。

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を手前に引きます。

ℹ 停車中やごく低速で走行中は、ワイパーが作動しているときにボンネットのロックを解除すると、ワイパーの作動が停止します。

▶ ラジエターグリルの上方にあるロック解除ノブ②を矢印の方向に引き上げながらボンネットを開きます。

ボンネットを約 40cm ほど持ち上げると、ガス封入式ダンパーによりボンネットは自動的に開き、保持されます。

ボンネットを垂直に開く

③ ロックボタン
④ 支柱上部に移動したロックボタンの位置

垂直位置まで開く

▶ 左側支柱下部にあるロックボタン ③ を押しながら、ボンネットを押し上げて垂直の位置にします。

ロックボタン ③ が支柱上部に移動し、ロックされます。

垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを少し後方に押しながら、支柱上部に移動したロックボタン ④ を押し、ボンネットを閉じます。

ℹ 垂直に開いたボンネットは、支柱上部に移動したロックボタン ④ を押さなくても通常の開く位置まで下げることはできますが、その位置から閉じることはできません。

再度、垂直に開き、ロックボタンを押しながら閉じてください。

ボンネットを閉じる

▶ ボンネットを引き下げ、ラジエターグリル上部から約 20cm ～ 30cm 上方の位置で手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

⚠ 警告

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。

i ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

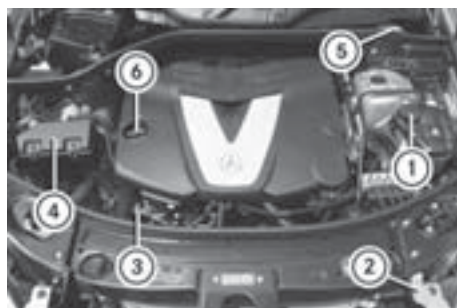
エンジンルーム

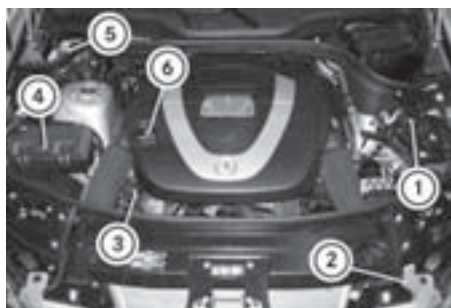
⚠ 警告

- イグニッションシステムや燃料噴射システム、キセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

環 境

環境保護のため、オイルなどの各種の油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ML 350 BlueTEC 4MATIC

	名称	ページ
①	冷却水リザーブタンク	282
②	ウォッシャー液リザーブタンク	286
③	エンジンオイルレベルゲージ	280
④	ヒューズボックス	397
⑤	ブレーキ液リザーブタンク	285
⑥	エンジンオイルフィラーキャップ	281

ML 350 4MATIC

	名称	ページ
①	冷却水リザーブタンク	282
②	ウォッシャー液リザーブタンク	286
③	エンジンオイルレベルゲージ	280
④	ヒューズボックス	397
⑤	ブレーキ液リザーブタンク	285
⑥	エンジンオイルフィラーキャップ	281

ML 63 AMG

	名称	ページ
①	冷却水リザーブタンク	282
②	ウォッシャー液リザーブタンク	286
③	エンジンオイルフィラーキャップ	281
④	エンジンオイルレベルゲージ	280
⑤	ヒューズボックス	397
⑥	ブレーキ液リザーブタンク	285

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電に注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

⚠ **警 告**

エンジンや補器類の熱や動きに十分注意してください。また、ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。

! 作業は安全な場所を選択して行なってください。

! 適切な工具を使用してください

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんで洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

エンジンオイル

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

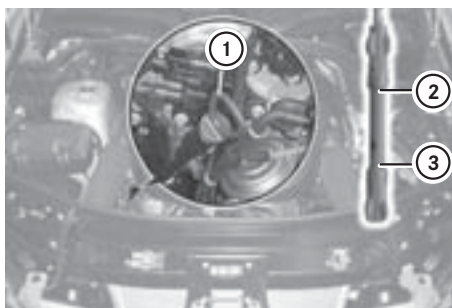
慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

! エンジンオイルに添加剤などを使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

エンジンオイルの量を点検する

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分以上経過している

ML 350 4MATIC

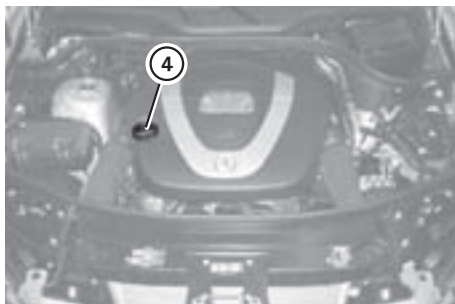
▶ エンジンオイルレベルゲージ①を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。エンジンオイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（max）②と下限（min）③の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷342 ページ）をご覧ください。

i 車種により、エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は、約 1.5 〜 2 リットルです。

エンジンオイルを補給する

ML 350 4MATIC

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

安全に十分注意して、作業を行なってください。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ④を補給口に合わせ、時計回りにまわして、確実に取り付けます。

! エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときは、エンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

⚠ 警 告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

環 境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイル量が多すぎると故障の原因になります。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ **警 告**

水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ **警 告**

不凍液をエンジンルーム内にこぼさないでください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

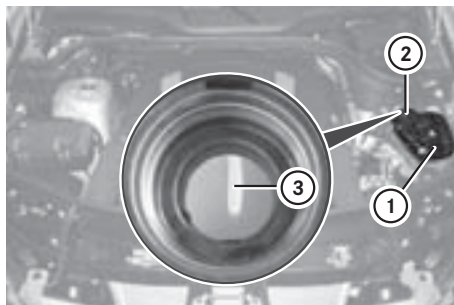
! マルチファンクションディスプレイに、冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは(▷339､340 ページ)をご覧ください。

冷却水の量を点検する

冷却水の量の点検は、水平な場所に停車していて、エンジンが十分に冷えているときに行ないます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ マルチファンクションディスプレイのエンジン冷却水温度画面で冷却水の温度が冷えていることを確認します（▷146 ページ）。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

ML 350 4MATIC

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップをさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク内のバー③の上面に達していれば適量です。

▶ キャップを確実に閉じます。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i 水温が高いときは約 15mm ほど液面が高くなります。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク①のキャップ②を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ①をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域(最低気温)によって濃度を変えます（▷409 ページ）。

▶ キャップを確実に閉じます。

▶ エンジンを始動させ、約 5 分後にエンジンを停止します。

▶ 冷却水が十分に冷えたことを確認してから冷却水の量を再度点検し、必要であれば、再度冷却水を補給します。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷339、340 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 冷却水温度が約 120℃以上を示している。
- マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

⚠ 警 告

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、冷えるまで車から離れてください。漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ 警 告

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

ラジエターの冷却ファンが停止しているときや、冷却水が吹き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、ラジエターの冷却ファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷283 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ 警 告

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷336 ページ）、ブレーキ警告灯（▷346、348 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

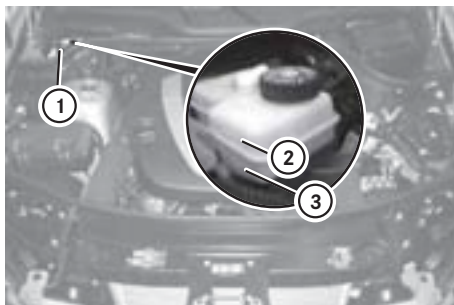
⚠ **警告**

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ **警告**

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷336 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

右ハンドル車

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンク①のレベルインジケーター上限（MAX）②と下限（MIN）③の間にあれば正常です。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ℹ **ベーパーロック**：長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ **警告**

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときは補給しないでください。

ℹ ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは共用です。

ℹ ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。

▶ ウォッシャー液リザーブタンクのキャップ①を開きます。

▶ ウォッシャー液を補給します。

▶ キャップ①を取り付けます。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! 補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量の計測器を損傷するおそれがあります。

! ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障／警告メッセージが表示されたときは（▷344 ページ）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警告

- 純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、ブレーキシステムやサスペンションを損傷したり、事故を起こすおそれがあります。
- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すみやかに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

- 必ず規定の空気圧を守ってください。燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷289 ページ）。
- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。
- ホイールボルトはホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、車両操縦性やロードノイズ、燃料消費などに悪影響をおよぼすおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールと車体などが接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

! ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全性に支障をきたすおそれがあります。

! 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。サイズや銘柄が異なると、車両操縦性に悪影響をおよぼし、事故を起こすおそれがあります。

! 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、道路運送車両法違反になることがあります。

! 前後同サイズのタイヤ / ホイールが指定されている車種は、2 本だけ新品のタイヤを装着するときは、前輪に装着してください。

! 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

応急用スペアタイヤ * も同様に交換してください。

! ブレーキシステムやホイールの改造、ホイールスペーサーやブレーキダストカバーの装着などは行なわないでください。安全性に支障をきたすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。

! タイヤ / ホイールは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。

タイヤの点検

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態（別冊「整備手帳」参照）を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

! ほこりの侵入や水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。

! タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの摩耗を点検するときは、必ずタイヤの内側も点検してください。

! タイヤのトレッドやサイドウォールがひどくすり減ったり、損傷しているときは交換してください。

走行時の注意

- タイヤやホイールが損傷しているときは、振動や騒音が発生したり、ステアリングが不自然な動きをすることがあります。このようなときはただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- 路面の段差などを乗り越えるときは、速度を落とし、注意して走行してください。タイヤやホイールを損傷するおそれがあります。

- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石に接触しないようにしてください。

  また、縁石を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤを清掃するとき

- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキディスクが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

タイヤの保管について

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤの清掃について

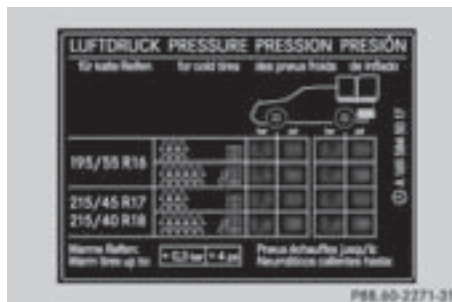
! 高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。損傷したタイヤは必ず交換してください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

i 応急用スペアタイヤ * は、指定されている回転方向にかかわらず装着することができます。

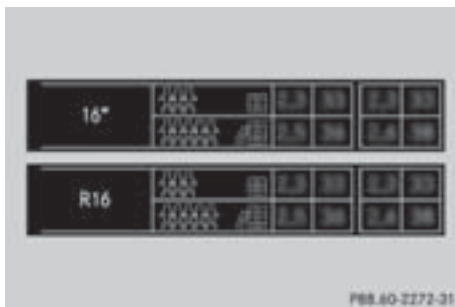
タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています（▷271ページ）。

タイヤサイズや乗車人数、荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は単位は「kPa（100kPa=1bar)」または「bar（≒ kg/cm²)」と、「psi」で示しています。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤ空気圧ラベルの例

タイヤサイズの代わりに、"**16“**" や "**R16**" などのホイール外径で表示されていることもあります。

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なることがあります。

タイヤサイズ表示の例

ホイール外径 ① はタイヤのサイドウォールのタイヤサイズ表示に記載されています。

 環 境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

⚠ **警 告**

空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

⚠ **警 告**

ホイールバルブには純正品または承認されたバルブキャップ以外のものを装着しないでください。特にバルブに装着するタイプの市販のタイヤ空気圧計測装置を装着すると、ホイールバルブに負担がかかり、ホイールバルブが脱落するおそれがあります。また、構造上バルブが常に開いた状態になり、空気漏れにつながるおそれがあります。

⚠ **警 告**

タイヤ空気圧が何度も低下するときは以下のことを確認してください。

- タイヤに異物がささっていないこと
- ホイールやタイヤバルブから空気が漏れていないこと
- 純正品または承認されたバルブキャップが装着されていること

タイヤ空気圧が低いときは、車の走行安全性に悪影響をおよぼし、事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧の点検は、できるだけタイヤが冷えているときに行なってください。周囲の気温や走行速度、路面温度などの影響によりタイヤの温度が約10℃変化すると、タイヤ空気圧は約0.1bar 変化します。

不適切なタイヤ空気圧は、タイヤに以下のような影響を与えます。

- タイヤ寿命の低下
- 損傷を受ける可能性の増加
- 車両操縦性への悪影響（ハイドロプレーニング現象など）

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。約 3 時間駐車したままのとき、または 1.5km 以上走行していないときは、タイヤは冷えています。周囲の気温が約10℃変化すると、タイヤ空気圧は約10kPa（0.1bar / 1.5psi）変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i "up to 210km/h" の表示がある場合は、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず点検を行なってください。

i 応急用スペアタイヤ * の空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

i 少ない荷物に対応した空気圧は、良い乗り心地をもたらすための最低空気圧です。荷物が少ないときも、多い荷物に対応した空気圧を使用することもできます。この空気圧は許容されている値であり、走行性能に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- ルーフや車内に重い荷物を積んで走行しているとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警告**

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照して、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。
- 急激な空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷289 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

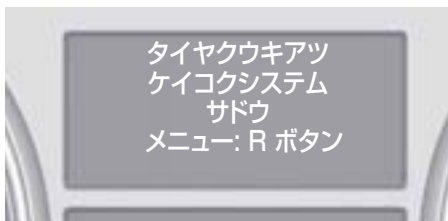
⚠ **警告**

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

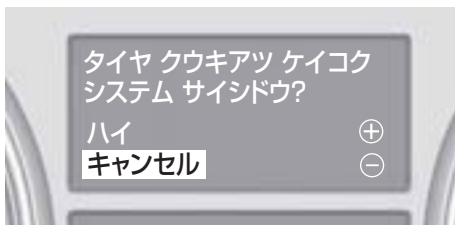
タイヤ空気圧警告システムを再起動する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ [ボタン] または [ボタン] を押して、車両情報メイン画面を表示させます（▷144 ページ）。

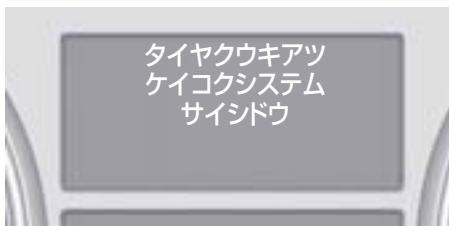
▶ [▲] または [▼] を押して、タイヤ空気圧警告システム画面を表示させます。

"ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻﾄﾞｳ ﾒﾆｭｰ： R ﾎﾞﾀﾝ" と表示されます。

ℹ マルチファンクションディスプレイに "ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝ ﾃﾞ ｻﾄﾞｳ" と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

▶ リセットボタン（▷140 ページ）を押します。

マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸ ｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されます。

▶ [+] を押して、" ハイ " を反転表示にします。

タイヤ空気圧警告システムを再起動しないときは [－] を押します。

ℹ マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ ?" と表示されてから約 15 秒間何も操作をしないと、再起動は中断されます。

マルチファンクションディスプレイに " ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ " と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

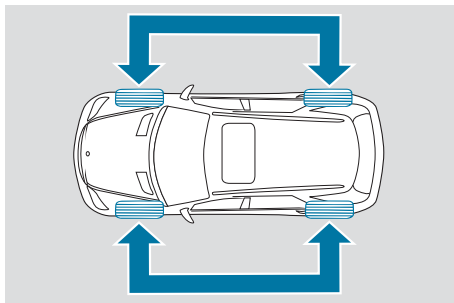
タイヤローテーション

⚠ **警 告**

タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると車両操縦性や走行安定性が確保できません。

ホイールボルトの締め付けトルクは 15kg-m（150Nm）です。タイヤローテーションを行なったあとは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ℹ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。その結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ℹ タイヤローテーションを行なうときは、ホイールとブレーキシステムの接合面を清掃してください。

ℹ タイヤを入れ替えたあとにタイヤ空気圧を調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

燃料（ディーゼルエンジン車）

冬季には、燃料の凍結を防止するとともに、ディーゼルエンジンの性能を十分に発揮させるため、寒冷地用の軽油を使用してください。

詳しくは（▷274 ページ）をご覧ください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、テールゲート *、ドアウインドウ、スライディングルーフ * などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

> ⚠ **警 告**
>
> マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを P にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP®、4MATIC などの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

> ⚠ **警 告**
>
> - ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
> - ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤ * を装着すると、車両安定性や制動性能が大きく低下するので注意してください。
>
>   スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早くウィンタータイヤに戻してください。

! 回転方向が指定されているウィンタータイヤは、タイヤの側面に記された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ウィンタータイヤを外した後は、タイヤ / ホイールをオイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

i ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

! スノーチェーンは必ず後輪に装着してください。

前輪に装着すると、ボディやフェンダーの内側またはサスペンションなどに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。

! 応急用スペアタイヤ * にはスノーチェーンを装着しないでください。

! 車種や仕様により、標準タイヤ、ホイールにスノーチェーンを装着できない場合があります。詳しくは (▷412 ページ) をご覧ください。

! スノーチェーンを装着したときは、ADS* のサスペンションモードを SPORT モードにしないでください。

! AIR マティックサスペンション装備車にスノーチェーンを装着したときは、車高レベルを上げてください。

! 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。

! スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。

! スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。

! 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。

i スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

i スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードを C モード * に切り替えてください（▷133 ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- クルーズコントロールは使用しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ **警告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

⚠ **警告**

エンジンが停止しているときは、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

走行中はエンジンを停止しないでください。

ブレーキ

⚠ **警告**

- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。車輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを併用してください。エンジンブレーキを併用しないでブレーキペダルを踏み続けたり、急ブレーキを繰り返すと、ブレーキが効かなくなり停車できなくなるおそれがあります。

⚠ **警告**

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

> ⚠ **警告**
>
> ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

> ⚠ **警告**
>
> 新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

! 水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 高速道路を走行しているときなどブレーキを効かせずに長時間走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

! 必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

i 長く急な下り坂では、ティップシフトでギアレンジを D3、D2、D1 にして、エンジンブレーキを効かせてください。ブレーキの過熱や過度の摩耗を防ぐことができます。さらに減速が必要なときは、ブレーキペダルを踏み続けるのではなく、繰り返し踏んでください。

i クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

i 急ブレーキなどでブレーキに大きな負担をかけた後は、ブレーキディスクが冷えるまでしばらく走行を続けてください。

凍結防止剤について

凍結防止剤がまかれた道路を走行するときは、ブレーキディスクやブレーキパッドに塩類が付着してブレーキの効きが悪くなり、制動距離が長くなるおそれがあります。

このときは、後続車に注意しながらブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。さらに、先行車との車間距離を十分確保し、注意して走行してください。また、次回走行するときにも、ブレーキペダルを数回軽く踏み、残った塩類を落としてください。

ML 63 AMG のブレーキの注意事項

ML 63 AMG の高性能ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズを発生することがあります。

また、ML 63 AMG のブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いは高くなります。

⚠ 警 告

ML 63 AMG のブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後やイグニッション位置が **1** のときは、パーキングブレーキを効かせていると点灯したままになります。

エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **1** のときに、パーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液が不足しています。安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷336 ページ）をご覧ください。

タイヤグリップについて

安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッションや駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保して、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

ℹ **エンジンブレーキ：**走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

滑りやすい路面

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが遅れたり、悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

スタック（立ち往生）したとき

- ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、タイヤを高速で空転させないでください。脱出直後に車が急発進して、事故を起こすおそれがあります。

  また、タイヤを高速で空転させると異常な過熱が起こり、タイヤの破裂や火災などの事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- スタックした状態から脱出するときは、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

  また、オフロード走行（▷304 ページ）もご覧ください。

道路冠水や車が水没したとき

- 冠水した道路を走行するときに許容されている最大水深については（▷309 ページ）をご覧ください。
- 河川などを渡るときは（▷309 ページ）をご覧ください。
- 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。
- 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障 / 警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐停車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやシートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、室内に水が浸入するおそれがあります。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪によりマフラーがふさがれ、排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

急な坂道で駐車するとき

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨降りや濃霧時の注意事項

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいため、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いため歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。

- 濡れた路面では急激なエンジンブレーキを効かせないでください。滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 路面が濡れているときは、クルーズコントロールを使用しないでください。
- 水たまりの通過後や激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行しているときは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。また、AC モードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨や濃霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するため、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

オフロード走行

⚠ **警告**

- 地形や路面の状況が把握できない悪路では低速で走行してください。障害物などを見つけやすくなり、事故の危険性を減らすことができます。
- 坂が急勾配で上り切れない場合は、U ターンせず、シフトポジションを R にして後退して下りてください。車が横転するおそれがあります。
- 斜面を斜めに走行しないでください。車が横転するおそれがあります。斜面を斜めに走行する必要があり、万一横転しそうになった場合は、ただちに斜面の下り側へステアリングをまわし、姿勢を立て直してください。
- シフトポジションを N にしたままで走行しないでください。エンジンブレーキがまったく効かず、ブレーキペダルだけで走行速度を調整しようとすると、車のコントロールを失うおそれがあります。

⚠ **警告**

- オフロード走行後は、ブレーキシステムに砂や汚れなどが付着して、過度の摩耗やブレーキの誤作動につながるおそれがあります。
- オフロード走行後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、ブレーキの点検と洗浄を行なってください。緊急時に十分なブレーキ力が得られなかったり、ブレーキが誤作動するおそれがあります。

車の特性や車両操縦性を知ることにより、安全に目的地に到達することができます。悪路走行の前に練習走行をされることをお勧めします。

オフロードを走行する前に以下の注意をよくお読みください。

オフロードを走行するための特別装備には、以下のものがあります。

- オフロード・ドライブ・プログラム（▷178 ページ）
- ローレンジモード（▷180 ページ）
- オフロード ABS（▷56 ページ）
- オフロード 4ETS（▷62 ページ）
- オフロード ESP®（▷60 ページ）
- ディファレンシャルロック（▷182 ページ）
- AIR マティックサスペンション（▷194、201 ページ）
- DSR（ダウンヒル･スピード･レギュレーション）（▷174 ページ）

※ ローレンジモード、ディファレンシャルロックは、日本仕様には装備されません。

オフロードでの走行

⚠ **警 告**

車の損傷は事故の原因になります。損傷しているおそれがあるときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

 環 境

環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。

オフロード走行時の注意

- 停車して、必要に応じてオフロード・ドライブ・プログラム（▷178 ページ）を作動させるか、ローレンジ（▷180 ページ）にしてください。
- レベルコントロール（▷195、203 ページ）で地形に適した車高を選択して十分な最低地上高を確保し、車の損傷を防いでください。
- 荷物が確実に収納されていること、または確実に固定されていることを確認してください。
- 下り坂を走行するときは、エンジンを停止したり、シフトポジションを N にしないでください。また、DSR を作動させてください（▷174 ページ）。
- 速度を上げないでください。必要に応じて、人が歩くくらいの速度で走行してください。
- 常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- 視界が悪く地形や路面の状況が把握できないときは、走行する前に車から降りて、危険がないことを確認してください。
- やむを得ず河川などを渡るときは、走行前に水深や水の流れ、川底の状況を確認してください。
- 岩、穴、木の切り株、溝など、大きな障害物を避けて走行してください。
- ドアウインドウとスライディングルーフ * は常に閉じておいてください。
- できるだけわだちから外れないように走行してください。

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

オフロードを走行する前に

- エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が少ないときは必ず補給してください（▷281ページ）。
- ジャッキが正常に動くか点検してください。万一のためにけん引用ケーブルや折りたたみ式スコップなどを車に積んでおいてください。
- タイヤの溝の深さと空気圧を点検してください。
- タイヤやホイールに損傷がないか点検し、小石などの異物が挟まっている場合は取り除いてください。
- バルブキャップが装着されていない場合は、装着してください。
- ホイールが歪んでいたり、損傷している場合は交換してください。

オフロードを走行した後に

オフロード走行後は車を点検してください。車の損傷は事故の原因になります。

▶ ローレンジからノーマルレンジにしてください。

▶ DSR を解除してください。

▶ ディファレンシャルロックを AUTO モードにしてください。

▶ レベルコントロール * で、路面に適した車高にしてください。

▶ ヘッドランプやテールランプなどを洗浄し、損傷がないか点検してください。

▶ 前後のナンバープレートを清掃してください。

▶ ホイールとタイヤをスプレーガンなどで清掃し、異物を取り除いてください。

▶ ホイールやホイールハウス、ボディ底部をスプレーガンなどで洗浄し、各部の損傷や異物の有無などを確認してください。

▶ 植物や枝などが車体や駆動部に挟まっていないか点検してください。これらが挟まっていると火災の危険があるほか、燃料系部品、ブレーキホース、アクスルジョイントやドライブシャフトのカバーなどを損傷するおそれがあります。

▶ 走行後に、車の底部、ホイール、タイヤ、ブレーキ、ボディ、ステアリング、駆動系部品、排気系部品などに損傷がないか点検してください。

▶ 砂地、ぬかるみ、砂利道、水の中のような汚れた状況で長時間走行した後は、ブレーキディスク、ホイール、ブレーキパッド、アクスルジョイントを点検し、清掃してください。

▶ オフロード走行後、走行中に強い振動を感じる場合は、ホイールや駆動部などに異物がかみ込んでいないか点検し、必要であれば取り除いてください。ホイールバランスが狂い、振動の原因になります。

※ ローレンジモード、ディファレンシャルロックは、日本仕様には装備されません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

坂道の走行

アプローチ / デパーチャーアングル

レベルコントロール非装備車は、乗車人数や荷物の積載状況により、アプローチアングル①とデパーチャーアングル②の数値が異なります。

レベルコントロール装備車は、乗車人数や荷物の積載状況などが変化しても、アプローチアングル①やデパーチャーアングル②に影響を及ぼしません。

	① アプローチアングル（フロント）	② デパーチャーアングル（リア）
レベルコントロール非装備車	約 27 °	約 26 °
オフロードパッケージ装備車		
オフロードレベル 3	約 33 °	約 30 °
オフロードレベル 2	約 31 °	約 29 °
オフロードレベル 1	約 28 °	約 26 °
通常走行レベル	約 25 °	約 24 °
ML 63 AMG		
車高を上げたとき	約 24 °	約 26 °
通常走行レベル	約 19 °	約 21 °

※ オフロードパッケージは、日本仕様には装備されません。

- 坂道はできるだけまっすぐに上り、まっすぐに下りてください。
- 急勾配の坂を上り下りするときは、オフロード・ドライブ・プログラムを作動させるか、ローレンジにしてください。
- オフロードでの走行（▷305 ページ）もお読みください。
- 低速で走行してください。
- アクセルペダルはゆっくり踏み込み、常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- 砂地や泥濘地などの走行抵抗の大きい路面以外は、エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- 坂の勾配に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください（▷134 ページ）。
- 坂を下る前にティップシフトでギアレンジ D1 を選択してください。

ⓘ 急な坂道で停車したときは、以下の操作により車の後退を防ぐことができます。

- シフトポジションを D にしてください。
- ノーマルレンジからローレンジにしてください。
- ブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルを踏み込みます。

  ヒルスタートアシスト（▷127 ページ）が作動して、発進を補助します。

急勾配の坂道

路面状態が良く、ローレンジを選択したときは、急勾配の坂道を上ることが可能になります。

ⓘ 急勾配の坂で前輪の荷重が不足したときは、前輪は空転しやすくなります。このような状況を検知すると 4ETS が作動し、自動的にブレーキ制御を行ないます。これにより後輪へのトルク配分が増えて登坂能力が増します。詳しくは（▷60 ページ）をご覧ください。

坂を上り切ったとき

坂を上り切る直前にアクセルペダルをゆるめ、車の惰性を利用して上ってください。

これにより、車が跳ねたりせず、駆動力を失うことがありません。また、速度が上がりすぎないようにして下り坂に備えることもできます。

坂を下るとき

- 低速で走行してください。
- 坂道はできるだけまっすぐに下りてください。前輪が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認してください。車がスリップしたり、横転するおそれがあります。
- 坂を下る前にティップシフトでギアレンジ D1 を選択してください。

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。

- DSRを作動させてください。DSRによる制動力が不十分なときは、車が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認して、慎重にブレーキペダルを踏んでください。
- 長い下り坂を走行した後は、必ずブレーキが通常通り作動することを確認してください。

ℹ オフロード・ドライブ・プログラムを作動させたときやローレンジにしたときは、自動的にオフロードABSになります（▷56ページ）。走行速度が約30km/h以下のときは、ブレーキを効かせると前輪が周期的にロックし、地面を掘る効果により、オフロードでの制動距離を短くすることができます。前輪がロックしているときは、ステアリングによる車両操縦性が著しく低下します。

障害物を乗り越えるとき

木の切り株や大きな石、その他の障害物を乗り越えるときは、以下の注意に従ってください。

- オフロード・ドライブ・プログラムを作動させるか、ローレンジにしてください。
- エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- ティップシフトでギアレンジ D1 を選択してください。
- ごく低速で走行してください。
- できるだけ障害物に対して直角になるようにして、まず前輪で障害物の中央を乗り越え、次に後輪で乗り越えてください。

! 障害物により、車の底部や車体、駆動部を損傷するおそれがあります。大きな障害物を乗り越えるときは、同乗者に車外から誘導してもらってください。車を損傷すると、事故を起こすおそれがあります。

河川などを渡るとき

最大許容水深値

レベルコントロール非装備車は、乗車人数や荷物の積載状況により、最大許容水深値①の数値が異なります。

レベルコントロール装備車は、乗車人数や荷物の積載状況などが変化しても、最大許容水深値①に影響を及ぼしません。

日常の取り扱い

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

レベルコントロール非装備車		約 50cm
オフロードパッケージ装備車		
	オフロードレベル 3	約 60cm
	オフロードレベル 2	約 50cm
	オフロードレベル 1	約 50cm
ML 63 AMG		
	車高を上げたとき	約 50cm

! 最大許容水深値を超えるところは絶対に走行しないでください。水流があるところでは、最大許容水深値は低くなることがあります。

- 走行前に水深と水流の状況を確認してください。
- オフロードパッケージ装備車と ML 63 AMG は、車高を一番上げた状態にしてください。
- オフロード・ドライブ・プログラムを作動させるか、ローレンジにしてください。
- ティップシフトでギアレンジ D1 または D2 を選択してください。
- エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- 水に入るときと出るときは水平な場所を選択し、人が歩くくらいの速度で走行してください。

! 決して速度を上げながら水に入らないでください。波が立ち、エンジンや車体を損傷するおそれがあります。

- ゆっくりと一定の速度を保って走行してください。
- 河川を渡っている途中で停車しないでください。

! 河川を渡っている途中でドアを開かないでください。浸水すると、電気装備や内装を損傷するおそれがあります。

- 河川を渡っている途中で停車したり、エンジンを停止しないでください。水の中は抵抗が大きく、川底も滑りやすく不安定なため、発進が困難になります。
- 波が立たないように走行してください。
- 河川を渡った後は、タイヤの溝を清掃し、付着した泥などを取り除いてください。
- 河川を渡った後は、ブレーキの効きが悪くなります。ブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキパッドを乾かしてください。

砂地を走行するとき

- オフロードパッケージ装備車と ML 63 AMG は、車高を上げてください。
- 状況に合わせてティップシフトでギアレンジを選択してください。
- 走行抵抗が大きいため、やや速度を上げて走行してください。車が砂地に埋まるおそれがあります。

※ オフロードパッケージ、ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

- 可能であれば、他の車が残した浅いわだちをなぞって走行してください。このときは、わだちの深さと固さ、車の底部との間隔に注意してください。

わだちを走行するとき

わだちや柔らかい路面を走行するときは、以下の注意に従ってください。

! わだちが深くなく、車の底部との間に十分な間隔があることを確認してください。車を損傷したり、タイヤが地面から離れて走行不能になるおそれがあります。

- オフロード・ドライブ・プログラムを作動させるか、ローレンジにしてください。
- レベルコントロール装備車は、車高を上げてください。
- エンジンを高回転までまわさないようにして走行してください。
- ティップシフトでギアレンジ D1 を選択してください。
- 低速で走行してください。
- わだちが深い場合は、左右どちらかの車輪をわだちの間に乗せて走行してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。

次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときにお客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター画面

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーター画面が表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を実施時期までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーター画面が自動的に表示されます。

画面は数秒後に表示前の画面に戻ります。

メンテナンスインジケーター画面を消す

▶ リセットボタン（▷140 ページ）を押します。

手動表示

メンテナンスインジケーター画面は、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングの [≡] または [≡] を押して、車両情報メイン画面を表示させます。

▶ [△] または [▽] を押して、メンテナンスインジケーター画面を表示させます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。"#" には "A" から "H" までのアルファベットが入ります。

点検整備実施前の表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX ﾆﾁ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｱﾄ XX km"

点検整備実施時期になったときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # ｼﾞｯｺｳ ｼﾏｽ !"

点検整備実施時期を過ぎたときの表示例

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX ﾆﾁ ｺｴﾃｲﾏｽ "

" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # XX km ｺｴﾃｲﾏｽ "

また、警告音が鳴ります。

i " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A" " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B" など、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

i " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ A ＋ " " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ B ＋ " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " ＋ " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

i ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のように対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

i バッテリーの接続を外している間の経過日数は、加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備の実施後に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、車種により走行距離では 10,000km または 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備実施時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

AdBlue®（ディーゼルエンジン車）

i ML 350 BlueTEC に対応した項目です。

BlueTEC 排気ガス処理装置を正常に機能させるためには、除去剤（AdBlue®）とともに作動させることが必要になります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場では、AdBlue® をメーカー指定点検整備の一部として補充します。通常の使用状況では、いっぱいに補充した AdBlue® は、メッセージが表示されない限り次のメーカー指定点検整備の実施時期までは補充する必要はありません。

AdBlue® の残量が減ったときは、以下のメッセージが表示されます。

" ﾃﾝｶｻﾞｲ ｦ ｶｸﾆﾝ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ "

AdBlue® の残量が最低レベルになったときは、以下のメッセージが表示されます。

" ﾉｺﾘﾉ ｼﾄﾞｳｶｲｽｳ : XX"

i マルチファンクションディスプレイに " ﾉｺﾘﾉ ｼﾄﾞｳｶｲｽｳ : XX" と表示されたときは、表示されている回数まではエンジンを始動することができますが、その後も AdBlue® を補充しなかったときは、エンジンを始動することができなくなります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で AdBlue® を補充してください。

i AdBlue® は、2 年毎に全交換する必要があります。詳しくは、整備手帳をご覧になるか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! AdBlue® タンクへの補充は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ行なってください。車両を損傷したり、汚損するおそれがあります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場以外での補充により発生した損傷については、保証の適用外になります。

BlueTEC 排気ガス処理装置や AdBlue® について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

AdBlue® の容量については（▷407 ページ）をご覧ください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警告

一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。

車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。

カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

環境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

外装

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類、燃料およびタールなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に、鳥のふんは塗装面を損傷しやすいため、できるだけ早く水で洗い流してください。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- ボディの表面にステッカーやフィルム、マグネットなどを貼付しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 誤って傷を付けたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、早めにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるため、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

自動洗車機の使用

⚠ **警 告**

自動洗車機で洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあり、事故につながるおそれがあります。ブレーキが乾くまで注意して運転してください。

自動洗車機で洗車するときは以下の点に注意してください。

- 高圧洗浄を行なう自動洗車機は使用しないでください。ドアやスライディングルーフ * などから水漏れを起こすおそれがあります。
- 車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。
- 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。また、洗車前にドアミラーを格納してください。車体やドアミラーを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 自走式の自動洗車機を使用するときは、シフトポジションが N になっていることを確認してください。車を損傷するおそれがあります。
- ドアウインドウやスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。
- 余熱ヒーター・ベンチレーションが停止していることを確認してください。
- ワイパーを停止してください（▷115、117 ページ）。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- 洗車後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。

高圧式スプレーガンの使用

⚠ 警告

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷して、事故の原因になります。

- 高圧式スプレーガンのノズルは、車から十分離して使用してください。水圧が高すぎると、塗装面を損傷するおそれがあります。
- 高圧式スプレーガンのノズルを以下の部分に近付けないでください。水圧が高いため、車内に水が浸入したり、防水シールや塗装面を損傷するおそれがあります。

◇タイヤ

◇ウインドウガラス接合面

◇ボディパネルの継ぎ目

◇電気装備

◇バッテリー

◇コネクター類

◇ライト

◇シール部

◇外気取り入れ口

◇サスペンション

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

クリアマット仕上げの軽合金ホイールを取り扱う際も、以下の点に注意してください。

! 塗装面を磨かないでください。また、塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ウインドウの清掃

⚠ 警 告

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

! フロントウインドウの排水口にたまった枯葉やほこりなどを定期的に清掃してください。排水口が目詰まりを起こし、腐食の原因になります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ 警 告

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

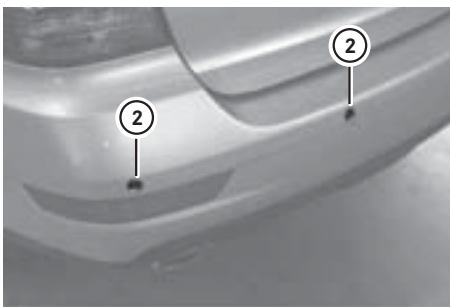
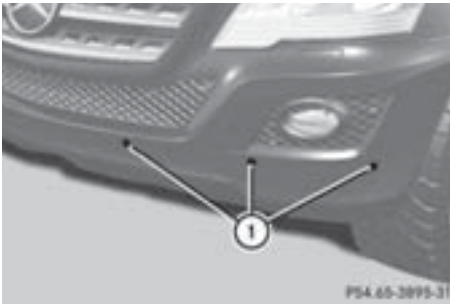
▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ランプ類の手入れ

ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドランプウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

パークトロニックセンサーの手入れ

パークトロニックセンサー①②を清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! パークトロニックセンサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! パークトロニックセンサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

▶ きれいな水でカメラ①の汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。

! カメラのレンズやカメラ周辺を清掃するときは、以下のことに注意してください。カメラを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。
- 強い力で乾拭きしないでください。
- 有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警告

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ COMAND システムの電源をオフにします。

ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

▶ 水で薄めた中性洗剤を含ませた不織布で拭き取ります。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

シートの清掃

! 不織布でレザーシートやレザートリム、アルカンタラ ® を使用した部分の手入れを行なわないでください。シートに対して強すぎるため、頻繁に手入れをすると表面を損傷するおそれがあります。

! レザーシートは、軽く湿らせた布で表面を拭き、次に乾いた布で拭き取ります。革が濡れないように注意してください。

i 定期的に表面を手入れすることにより、シートの品質（美しさと快適性）を維持することができます。

プラスチックトリムの清掃

⚠ 警 告

エアバッグの収納部分には、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。エアバッグが正常に作動しなくなり、けがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ 警 告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

シフトポジションを N にして、同乗者や付近の人に救援を求め、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

シフトポジションを N にできないときは、乗員を安全な場所に避難させて、続発事故を防いでください。

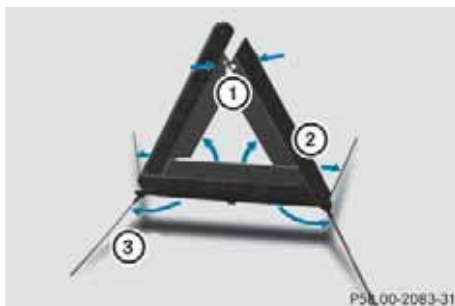
! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具を使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに備えています。

i 新車時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

i 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

※ 停止表示板の形状が異なる場合があります。

停止表示板を組み立てる

▶ 停止表示板ケース（▷326、327 ページ）から停止表示板を取り出します。

▶ スタンド③を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板②を開いて、先端のフック①をかみ合わせます。

救急セット

救急セットはラゲッジルーム左側の小物入れに収納されています。

救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

救急セットを取り出す

▶ 2 つのクリップ①を矢印の方向に約 90 度まわし、カバー②を取り外します。

ML 350 4MATIC

▶ 救急セット③を取り出します。

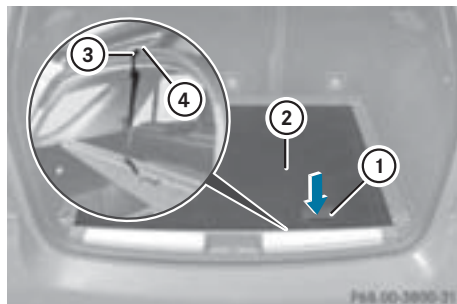
ℹ 車種や仕様により、救急セットはストラップで固定されている場合があります。

救急セットを収納する

▶ 救急セットを元の位置に収納してから、カバー②を閉じます。

車載工具

車載工具はラゲッジルーム内のラゲッジフロアボードの下に収納されています。

ラゲッジフロアボードを開く

▶ 矢印の部分を押してハンドル①を起こし、ラゲッジフロアボード②を引き上げます。

▶ ラゲッジフロアボード裏にあるフック③をテールゲート開口部上端④にかけます。

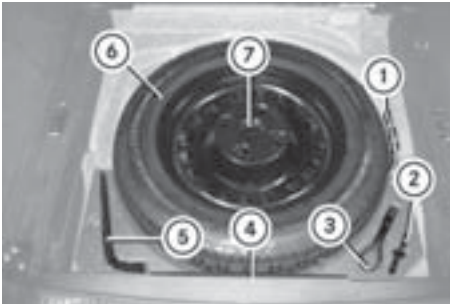
! フック③をテールゲート開口部上端④にかけたまま、テールゲートを閉じないでください。フックやテールゲートを損傷するおそれがあります。

ML 350 BlueTEC 4MATIC

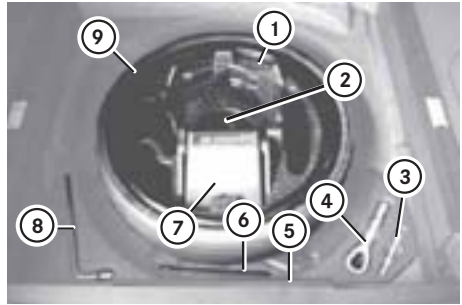
① けん引フック
② ヒューズ配置表
③ タイヤフィット
④ 電動エアポンプ
⑤ 停止表示板ケース

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

※ 車種や仕様により、車載工具の配置や内容が異なる場合があります。

ML 350 4MATIC

① 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト
② ガイドボルト
③ けん引フック
④ 停止表示板ケース
⑤ ホイールレンチ
⑥ 応急用スペアタイヤ
⑦ スクリュー

※ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤ用ホイールに添付されていたり、応急用スペアタイヤの下に収納されていることがあります。

ML 63 AMG

① トレイ
② スクリュー
③ ガイドボルト
④ けん引フック
⑤ 停止表示板ケース
⑥ ジャッキハンドル
⑦ 電動エアポンプ
⑧ ホイールレンチ
⑨ 応急用スペアタイヤ

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

※ 車種や仕様により、車載工具の配置や内容が異なる場合があります。

応急用スペアタイヤ * を取り出す

応急用スペアタイヤはラゲッジルーム内のラゲッジフロアボードの下に収納されています。

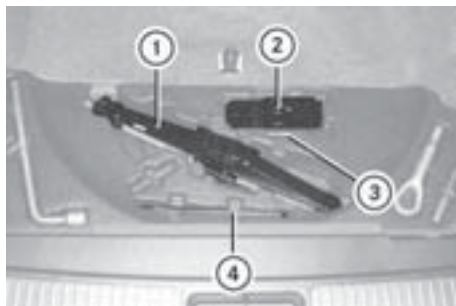
応急用スペアタイヤの下にも、ジャッキや輪止めなどが収納されています。

▶ ラゲッジフロアボードを開きます（▷326 ページ）。

▶ ML 350 4MATIC は、スクリュー（▷327 ページ）を反時計回りにまわして取り外します。

ML 63 AMG は、電動エアポンプとトレイを取り出してから、スクリューを反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤを取り出します。

▶ ML 63 AMG は、応急用スペアタイヤの下のカバーを取り出します。

応急用スペアタイヤを取り出した状態
（ML 350 4MATIC）
① ジャッキ
② 輪止め
③ ヒューズ配置表（英文）
④ ジャッキハンドル

! トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

輪止め

輪止めは図の順番で組み立てます。

! 輪止めを使用するときは図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。また、重要度の高いメッセージは、赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示されたときは、以降の指示に従ってください。

⚠ **警 告**

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、表示灯 / 警告灯や故障 / 警告メッセージが表示されません。車両操縦性などに悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの ⊟ または ⊟ スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイに故障表示画面を表示させます。

故障や異常がある場合は、" ｺｼｮｳｶﾞ 3" のように故障件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、故障表示画面は表示されません。

▶ △ または ▽ を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障件数画面に戻ります。

故障 / 警告メッセージの表示を消す

重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解決するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

一部のメッセージは車両に記憶され、手動でメッセージを呼び出すことができます。

メッセージはマルチファンクションステアリングにより消すことができます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングの [⊟] [⊟] や [△] [▽] スイッチ、または リセットボタンを押します。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

文字メッセージ

⚠ **警 告**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABS	ABS ト ESP ｼﾖｳﾌｶﾉｳ! ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 一時的に ABS と ESP®、PRE-SAFE® が作動しない状態になっている。システムの自己診断が完了していない可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 約 20km/h 以上の速度で、ステアリングを操作しながら短い距離を注意しながら走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABS	ABS ト ESP ｼﾖｳﾌｶﾉｳ! ﾏﾆｭｱﾙ ヲ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS と ESP®、PRE-SAFE® が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ABS ト ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ヲ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS と ESP®、PRE-SAFE® が作動しない状態になっている。BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ESP	ESP ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ! ﾏﾆｭｱﾙ ヲ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 一時的に ESP® と PRE-SAFE® が作動しない状態になっている。システムの自己診断が完了していない可能性がある。BAS の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 約 20km/h 以上の速度で、ステアリングを操作しながら短い距離を注意しながら走行してください。 メッセージが消えれば、ESP® は再び待機状態になります。 メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ESP	ESP ｼﾖｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ ! ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ESP® と BAS、PRE-SAFE® が作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		走行中にメッセージが表示され、メーターパネルの [⚠] が点滅しているときは、ブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ メッセージが消え、メーターパネルの [⚠] が消灯するまで、ブレーキを冷やしてください。 ETS は自動的に待機状態になります。
ESP	ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP® と BAS、PRE-SAFE® が作動しない状態になっている。 メーターパネルの [⚠] が点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾎｼﾞｮ ﾊﾞｯﾃﾘｰ	ｺｼｮｳ	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
P ﾚﾝｼﾞ ﾊ	ﾃｲｼｼﾞ ﾉﾐ	走行中にシフトポジションを [P] にしようとした。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ シフトポジションを [P] にしてください。
ｾﾚｸﾀｶﾞ	ｿｳｺｳｲﾁ	シフトポジションが [N] のときに運転席ドアを開いた。 ▶ シフトポジションを [P] にしてください。 ▶ パーキングブレーキを確実に効かせてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ｷﾞﾔﾁｪﾝｼﾞ ｾｽﾞﾆ	ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	故障のため、シフトポジションを変更できない。 シフトポジションが D のとき： ▶ シフトポジションを D から動かさないようにして、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 シフトポジションが R、N、P のいずれかのとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
P ﾏﾀﾊ N ﾆ	ｼﾌﾄｼﾃ ｽﾀｰﾄ！	シフトポジションが D か R のときにエンジンを始動しようとしている。 ▶ シフトポジションを P か N にしてください。
P ﾚﾝｼﾞｶﾗ ｼﾌﾄ	ﾌﾞﾚｰｷｦ ﾌﾝﾃﾞｸﾀﾞｻｲ	ブレーキペダルを踏まない状態で、シフトポジションを P から他のシフトポジションにしようとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。
ﾌﾟﾚｾｰﾌ	ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE® が故障している。 エアバッグなど他の乗員保護装置の機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ﾀｲﾔ ｦ ﾃﾝｹﾝ！	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの空気漏れを検知した。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。 ▶ タイヤを点検し、必要であれば該当するタイヤを交換してください（▷370 ページ）。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷292 ページ）。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾀｲﾔﾁ ﾃﾝｹﾝ	ｿﾉｺﾞ ﾀｲﾔｸｳｷｱﾂ ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｻｲｼﾄﾞｳ	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再始動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤを適正な空気圧に調整してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷292 ページ）。
ﾀｲﾔ ｸｳｷｱﾂ	ｹｲｺｸｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ ｵﾖﾋﾞ ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀｰ	ｺｼｮｳ	クルーズコントロールおよび可変スピードリミッターに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ	- - - km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください。

イラストメッセージ

⚠ 事故や警告

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(テールゲート表示)		テールゲートが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ テールゲートを閉じてください。
(ボンネット表示)		⚠ **事故のおそれがあります** 盗難防止警報システム装備車： ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
(ドア表示)		ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを閉じてください。
(バッテリー表示)		以下の原因によりバッテリーが充電されていない。 • オルタネーターの故障 • Vベルトの損傷 • 電気システムの故障 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ Vベルトを点検してくだい。 **Vベルトが切れているとき：** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが損傷していないとき：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
[バッテリー表示]	ﾊﾞｯﾃﾘｰ / ｵﾙﾀﾈｰﾀ ﾃｲｼｬ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	バッテリーに異常がある。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず､走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
[ブレーキパッド表示]	ﾌﾞﾚｰｷﾊﾟｯﾄﾞ ﾏﾓｳ	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
[(!)表示]	EBV, ABS, ESP ｺｼｮｳ ﾏﾆｭｱﾙ ｦ ｻﾝｼｮｳ	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBD（EBV）、ABS、BAS、ESP®、PRE-SAFE® が作動しない状態になっている。アダプティブブレーキランプの機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
[(!)表示]	ﾌﾞﾚｰｷ ｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。さらにメーターパネルの [(!)] が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
[(P)表示]	ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ ｶｲｼﾞｮ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ！	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
SRS	SRS ｼｽﾃﾑ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置が故障している。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ﾚﾍﾞﾙﾁｮｳｾｲ ｼﾖｳﾌｶ	以下のときには車高の調整ができない。 • 設定しようとしている車高レベルに対して、走行速度が高すぎる • けん引車両がある • けん引装置を使用している ▶ 速度を落としてから、車高を調整してください。
	ｺﾝﾌﾟﾚｯｻ ﾚｲｷｬｸ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	車高レベルを頻繁に変更したため、車高を上げようとしたときにエアポンプを冷却する必要が生じた。 ▶ 車高レベルに合わせて走行してください。 ▶ 路面との間に十分な空間が確保されていることを確認してください。 ▶ エアポンプが冷却されるまで待ってください。 エアポンプが冷却されるとメッセージが消え、選択した車高レベルに設定されます。
	ｺｼｮｳ	車高調整装置 * が故障している。 ▶ 車高レベルに合わせて走行してください。ただし約 80km/h を超えないようにしてください。 ▶ 路面との間に十分な空間が確保されていることを確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｼﾞｮｳｼｮｳﾁｭｳ max.20km/h	車高がオフロードレベル 3 に設定されようとしている。 ディスプレイにはオフロードレベル 3 での許容最高速度が表示されている。 ▶ 約 20km/h 以下の速度で走行してください。
	max.20km/h	車高がオフロードレベル 3 に設定されている。ディスプレイにはオフロードレベル 3 での許容最高速度が表示されている。 ▶ 約 20km/h 以下の速度で走行してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｶｺｳﾁｭｳ max.20km/h	車高がオフロードレベル 3 からオフロードレベル 2 に設定されようとしている。ディスプレイにはオフロードレベル 3 での許容最高速度が表示されている。 ▶ 車高がオフロードレベル 2 に設定されるまで約 20km/h 以下の速度で走行してください。
	ｿｸﾄﾞ 20 km/h ｲｶﾆ ｹﾞﾝｿｸ	⚠ 事故のおそれがあります 選択したオフロードレベルの許容最高速度を超えた速度で走行している。 ▶ 変化したハンドリング特性に合わせて走行してください。 ▶ 急激および大きなステアリング操作をしないでください。 ▶ 操縦性の違いに注意して走行してください。 ▶ 車高がオフロードレベル 2 に設定されるまで約 20km/h 以下の速度で走行してください。
	ﾃﾞﾌﾛｯｸｼｽﾃﾑ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳ ﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	ディファレンシャルロックシステム * が故障している。 ▶ 約 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾃﾞﾌﾛｯｸｼｽﾃﾑ ｶﾈﾂ ｽｺｼ ｵﾏﾁｸﾀﾞｻｲ	ディファレンシャルロックシステム * が過熱しているため、ディファレンシャルロックが解除されている。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ディファレンシャルロックシステムが冷却されるまで待ってください。 ディファレンシャルロックシステムが冷却されるとメッセージが消え、ディファレンシャルがロックされます。
	ﾃｲｼｬ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ	ローレンジ * / ノーマルレンジの切り替えが完了していない。 トランスファーがニュートラルになっていて、エンジンと駆動輪がつながっていない。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを確実に効かせてください。状況を問わず走行を続けないでください。 ▶ 再度ローレンジ / ノーマルレンジの切り替え操作を行なってください。

※ ディファレンシャルロック、ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
LR	ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ ﾃｲｼｬｼﾞ P ﾌﾞﾚｰｷ ｿｳｻ	トランスファー * が故障している。 ▶ 約 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ 駐車するときは、パーキングブレーキを確実に効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
LR	max.40km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ	走行速度が約 40km/h を超えているため、ノーマルレンジからローレンジ * への切り替え操作ができない。 ▶ 約 40km/h 以下の速度で操作してください。 トランスファーの切り替え操作が可能になります。
LR	max.70km/h ﾃﾞ ｿｳｺｳ	走行速度が約 70km/h を超えているため、ローレンジ * からノーマルレンジへの切り替え操作ができない。 ▶ 約 70km/h 以下の速度で操作してください。 トランスファーの切り替え操作が可能になります。
LR	ﾀﾝｼﾞｶﾝ N ﾆ ｼﾌﾄｼﾃｸﾀﾞｻｲ	トランスファー * の切り替え操作をするために速度を落としたが、シフトポジションが N になっていない。 ▶ 短時間シフトポジションを N にしてください。
LR	ｼﾌﾄ ﾄﾞｳｻ ｷｬﾝｾﾙ ｻｲｷﾄﾞｳ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	ローレンジ * / ノーマルレンジの切り替えが中断された。 ▶ 再度切り替え操作を行なってください。
DSR	ｺｼｮｳ	故障のため、DSR の機能が解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で DSR の点検を受けてください。
	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ、 ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ！	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 雪やほこり、または氷などで、ラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。 メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度に注意してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

※ ローレンジモードは、日本仕様には装備されません。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(冷却水温警告表示)	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾃｲｼｬ ｼﾃ、 ｴﾝｼﾞﾝ ｦ ﾃｲｼ！	Vベルトが切れている可能性がある。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら安全に停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ Vベルトを点検してください。 **Vベルトが切れているとき** ! 走行を続けないでください。オーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **Vベルトが損傷していないとき** ▶ メッセージが消えてからエンジンを始動してください。 メッセージが消えるまで待たないと、エンジンを損傷するおそれがあります。 ▶ 冷却水温度に注意してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(冷却水温警告表示)		ラジエターの冷却ファンに異常がある。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ このときは、山道での走行などでエンジンに大きな負荷をかけたり、発進 / 停止を繰り返さないでください。
(冷却水量警告表示)	ﾚｲｷｬｸｽｲ ﾎｼﾞｭｳ	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▷283 ページ）。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で冷却システムの点検を受けてください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
[パワーステアリング警告アイコン]	ﾊﾟﾜｽﾃ ｺｼｮｳ ｺｳｼﾞｮｳﾃﾞ ﾃﾝｹﾝ	⚠ **事故のおそれがあります** パワーステアリングが機能しない。ステアリング操作に非常に大きな力が必要になる。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 **安全にステアリング操作ができるとき：** ▶ 注意しながらメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **安全にステアリング操作ができないとき：** ▶ 走行を続けないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
[ランプ警告アイコン]	ﾋﾀﾞﾘ ﾛｰ ﾋﾞｰﾑ 1)	左ヘッドランプ（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で電球を交換してください。
	ｵｰﾄﾗｲﾄ ｺｼｮｳ	ランプセンサーが故障している。下向きのヘッドランプが点灯する。 ▶ マルチファンクションディスプレイの各種設定で、ランプを手動点灯に切り替えてください（▷160 ページ）。 ▶ ランプスイッチでランプを点灯 / 消灯してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ﾗﾝﾌﾟ ｦ ｹｼﾃ ｸﾀﾞｻｲ!	ランプスイッチを [ポジションランプ] の位置にしたままキーを抜いて運転席ドアを開くか、キーレスゴースイッチ * でイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開いた。警告音も鳴った。 ▶ ランプスイッチを [0] の位置にしてください。
[エアフィルターアイコン]	ｴｱｸﾘｰﾅ ｺｳｶﾝ	ディーゼルエンジン車： エアフィルターの交換時期になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
[燃料フィルターアイコン]	ﾌｭｰｴﾙ ﾌｨﾙﾀ ｾｲｿｳ	ディーゼルエンジン車： 燃料フィルターに水がたまっている。燃料フィルターから水を取り除く必要がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

1) 他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ ｵｲﾙﾚﾍﾞﾙﾃﾝｹﾝ	エンジンオイル量が限界まで減っている。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください（▷281 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、エンジンからオイルが漏れていないか点検してください。
	ｷｭｳﾕ ﾉ ｻｲﾆ 1 ﾘｯﾀｰ ｵｲﾙ ｦ ﾂｲｶ !	エンジンオイル量が不足している。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください（▷281 ページ）。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、エンジンからオイルが漏れていないか点検してください。
	ｷｰ ｶﾞ ﾁｶﾞｲﾏｽ	エンジンスイッチに違う車両のキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
	ｷｰ ｦ ｺｳｶﾝ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	キーが機能しなくなっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ｷｰ ﾉ ﾊﾞｯﾃﾘ ｦ ｺｳｶﾝ	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの電池を交換してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ （赤色で表示）	キーレスゴー装備車： エンジンがかかっているときに、このメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。 この状態でエンジンを停止すると、エンジンを再始動することも、施錠することもできなくなる。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ キーを探してください。
		キーレスゴー装備車： エンジンがかかっていて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識できない。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
	ｷｰ ｦ ｹﾝﾁ ﾃﾞ ｷﾏｾﾝ （白色で表示）	キーレスゴー装備車： システムがキーを認識できない。 ▶ 車内に置いてあるキーの位置を変えてください。 それでもキーがシステムに認識されないとき： ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
	ｷｰ ｶﾞ ｼｬﾅｲ ﾆ ｱﾘﾏｽ！	キーレスゴー装備車： キーレスゴー操作で施錠するときに、システムが車内にキーがあると判断している。 ▶ キーを車外に取り出してください。
	ｽﾀｰﾄﾎﾞﾀﾝ ｦ ﾊｽﾞｼ ｷｰｦ ｻｼｺﾝﾃﾞ ｸﾀﾞｻｲ	キーレスゴー装備車： キーが認識されない状態が続いている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
		燃料残量がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	ﾈﾝﾘｮｳ ﾘｻﾞｰﾌﾞ ｷｭｳﾕ ｼﾃｸﾀﾞｻｲ	燃料残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

ディスプレイ表示		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	ｳｫｯｼｬｴｷ ﾎｼﾞｭｳ	ウォッシャー液量がリザーブタンクの約 1/3 まで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷286 ページ）。
Ad Blue	ﾃﾝｶｻﾞｲ ｦ ｶｸﾆﾝ ﾏﾆｭｱﾙｦ ｻﾝｼｮｳ	AdBlue® の残量が、補充しなければならない量以下にまで減った。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で AdBlue® を補充してください。
Ad Blue	ﾉｺﾘﾉ ｼﾄﾞｳｶｲｽｳ : XX	AdBlue® の残量が、最低レベルにまで減った。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で AdBlue® を補充してください。

ⓘ マルチファンクションディスプレイに " ﾉｺﾘﾉ ｼﾄﾞｳｶｲｽｳ : XX" と表示されたときは、表示されている回数まではエンジンを始動することができますが、その後も AdBlue® を補充しなかったときは、エンジンを始動することができなくなります。このときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して AdBlue® を補充してください。AdBlue® が補充されれば、再びエンジンを始動できるようになります。

トラブルの原因と対応

⚠ **警告**

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

スイッチやボタンの表示灯 / 警告灯

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。シートヒーターが自動的に停止した。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーの AC スイッチを押しても、表示灯が点灯しなかったり、点滅する。 除湿 / 冷房された空気が送風されない。	故障のため、除湿 / 冷房機能が解除されている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リアデフォッガースイッチの表示灯が点滅している。 リアデフォッガーが短時間で停止する。または作動しない。	多くの電気装備が使用されているために電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 周囲の交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（▷336 ページ）に従ってください。 ブレーキ液を補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解消しません。
	エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS の機能が解除されている。BAS と ESP®、EBD、PRE-SAFE® なども一時的に作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS のコントロールユニットが故障しているときは、ナビゲーションシステムまたはオートマチックトランスミッションが作動しない可能性がある。
		⚠ **事故のおそれがあります** 電圧低下のため、ABS の機能が解除されている。 ESP®、BAS、PRE-SAFE® の機能も解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。 電圧が回復すると、すみやかに ABS は作動できる状態になります。 警告灯が点灯しつづけるとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーとオルタネーターの点検を受けてください。
		システムの自己診断が完了していない。 ▶ 約 20km/h 以上の速度で、ステアリングを操作しながら短い距離を注意しながら走行してください。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** EBD に異常がある。ABS、BAS、ESP®、PRE-SAFE®、ヒルスタートアシストも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などにはタイヤがロックする可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	走行中に黄色の ESP® / ETS 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤがグリップを失いかけているか車が横滑りをしているため、ESP® またはトラクションコントロールが作動している。 クルーズコントロールが解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。
		少なくとも 1 つ以上の車輪が空転しているが、ブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージに従ってください。 ブレーキが冷えれば、ETS は自動的に待機状態になります。 メッセージが消え、⚠ が消灯します。
	エンジンがかかっているときに黄色の ESP® / ETS 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください（雪道などでの走行を除く）。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で ESP® の点検を受けてください。

トラブル		考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	エンジンがかかっているときに黄色の ESP® / ETS 表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP® が作動しない状態になっている。 車が横滑りしたときや車輪が空転したときに、車両操縦性や走行安定性を確保することができない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの故障 / 警告メッセージ（▷331、332 ページ）に従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
SRS	エンジンがかかっているときに赤色の SRS 警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 乗員保護装置に異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	エンジンの始動操作を行なうと、黄色のエンジン警告灯が点灯する。	ディーゼルエンジン車： 燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料の補給後、エンジン始動操作を 3 ～ 4 回繰り返してください。 エマージェンシーモードが解除されます。車の点検を受ける必要はありません
	エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常がある可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • イグニッションシステム（ガソリンエンジン車） • 排気システム 排出ガスの成分が基準値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 前席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、警告音も鳴った。	⚠ **けがのおそれがあります** 前席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 安全な場所に停車してから、助手席シートの上に置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

警告音

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
盗難防止警報が作動した。	盗難防止警報システム * が待機状態のときに、運転席ドアをエマージェンシーキーで解錠して開いた。 盗難防止警報システムが待機状態のときに、車内のレバーを引いてドアまたはテールゲートを開いたか、ボンネットのロックを解除した。 ▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押してください。 または ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んでください。
警告音が鳴った。	マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されている。 ▶ 故障 / 警告メッセージをご覧ください（▷330 ページ～）。
	パーキングブレーキを解除しないで走行している。 ▶ パーキングブレーキを解除してください。
	ランプスイッチが の位置のときにエンジンスイッチからキーを抜き、運転席ドアを開いた。 ▶ ランプスイッチを 0 の位置にしてください。
イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動すると、警告音が約 6 秒間鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。
速度が約 25km/h 以上になったときに警告音が鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

事故のとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクが損傷している。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがある。 ▶ ただちにエンジンを停止してください。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜いてください。 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。漏れた燃料に引火したり、爆発するおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷の程度がわからない。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
損傷箇所が見当たらない。	▶ 通常通りエンジンを始動してください。
運転席と助手席のヘッドレストが前方に動いた。	後方からの追突などの事故により、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した。 ▶ NECK PRO アクティブヘッドレストをリセットしてください（▷363 ページ）。

燃料と燃料タンク

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **爆発や火災のおそれがあります** 燃料給油システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにエンジンを停止して、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷360 ページ）。 ▶ テールゲートを開いてください（▷361 ページ）。 ▶ 燃料給油フラップのロックを手動で解錠してください（▷362 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。 ▶ 燃料給油フラップのロックを手動で解除してください（▷362 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
ディーゼルエンジン車： 燃料切れになり、燃料を補給してもエンジンが始動しない。	燃料供給システムに空気が入っているため、エア抜きをする必要がある。 ▶ 燃料を少なくとも 5 ℓ 以上給油してください。 ▶ イグニッション位置を **2** にして約 10 秒間待ちます。 ▶ エンジンがスムーズに作動するようになるまで、最大約 10 秒間エンジンの始動操作を行ないます。 エンジンが始動しないとき： ▶ 再度イグニッション位置を **2** にして約 10 秒間待ちます。 ▶ エンジンがスムーズに作動するようになるまで、再度最大約 10 秒間エンジンの始動操作を行ないます。 始動操作を 3 回行なってもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある可能性がある。 • 燃料供給に異常がある可能性がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、イグニッション位置を **0** に戻してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください（▷125 ページ）。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みてもエンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にするとスターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 イグニッション位置を **3** にしてもスターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷390 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷により、スターターモーターが過熱している。 ▶ スターターモーターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作をしてください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
ガソリンエンジン車： エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 触媒を損傷するおそれがあります。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
冷却水温度が約 120℃を超えている。 警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。 ▶ すみやかに停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば冷却水を補給してください（▷283 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、エンジンファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下のときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ このときは、山道での走行などでエンジンに大きな負担をかけたり、発進と停止を繰り返すような運転は避けてください。
エンジンが停止しない。	エンジンスイッチに異常がある。 ▶ エンジンルーム内にあるヒューズボックスを開きます。 ▶ エンジンルーム内ヒューズボックスの 120 番のヒューズを抜きます（▷398 ページ）。 エンジンが停止します。 エンジンを再始動するとき： ▶ ヒューズを交換してください。

オートマチックトランスミッション

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを **D** にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを **R** にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

パークトロニック

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約 2 秒間警告音が鳴った。 約 20 秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックに異常があり、機能が停止している。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷319 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が停止している。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷207 ページ）。

ヘッドランプ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ヘッドランプの内側が曇っている。	外気の湿度が高くなっている。 ▶ ヘッドランプを点灯して走行してください。 しばらく走行すると、ヘッドランプの内側の曇りは取れます。
	ヘッドランプユニットが密閉されていないため、水分が浸入している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドランプの点検を受けてください。

ワイパー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ワイパーが正しく作動しない。	葉や雪など、ウインドウに障害になる物が付着している。 ワイパーモーターの作動が停止している。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ 再度、ワイパーを作動させてください。
ワイパーが作動しない。	⚠ **事故のおそれがあります** ワイパーが故障している。 ▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択してください（▷115、117 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。
ウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されない。	ウインドウウォッシャー液の噴射ノズルの角度が適切でない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルの角度を調整してください。

ウインドウ

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアウインドウを閉じることができない。	ウインドウとドアフレームの間に障害になる物が挟まっている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	ドア内部のガイドレールなどに障害になる物があり、ドアウインドウの上昇を妨げている。 ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ ドアウインドウを閉じてください。
	原因が分からない場合 ▶ ドアウインドウが閉じるまで、ドアウインドウスイッチを引きます。

ミラー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアミラーが無理に前方 / 後方に曲げられた。	▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷97 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。 ドアミラーが再び固定され、ドアミラーが通常通り調整できるようになります。

キー

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作で解錠 / 施錠してください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷363 ページ）。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。
	キーが故障している。 ▶ 非常時の解錠 / 施錠（▷360 ページ）に記載されている方法で車両を施錠するか、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作 * で解錠 / 施錠できない。	長い時間キーレスゴーで解錠しなかったため、キーレスゴーの機能が停止している。 ▶ ドアハンドルを 2 回引いて、キーをエンジンスイッチに差し込んでください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離からリモコン操作で解錠 / 施錠してください。
	キーレスゴーに異常がある。 ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離からリモコン操作で解錠 / 施錠してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。 上記の操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷363 ページ）。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 新しいキーの入手については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ シートヒーターやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してから、再度エンジンスイッチをまわしてください。 それでもエンジンが始動しないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷390 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
キーが車内にある状態で、インストルメントパネルのキーレスゴースイッチ * を押しても、エンジンが始動しない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

車を使用しないとき

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンを始動しない期間が約 4 週間以上におよぶとき。	バッテリーが完全にあがると、バッテリーが損傷する可能性がある。 ▶ バッテリーからケーブルを外してください。 ℹ バッテリーの点検はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。
エンジンを始動しない期間が約 6 週間以上におよぶとき。	車を長期間にわたって使用しないと、不具合が発生する可能性がある。 ▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠できます。

盗難防止警報システム装備車では、車を施錠した後にエマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開いたり、テールゲート裏側のレバーでテールゲートを解錠して開くと（▷361 ページ）、盗難防止警報が作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーの解錠ボタンか施錠ボタンを押す
- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーが車室内のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときは、キーレスゴースイッチを押す（キーレスゴー装備車）
- キーが左右側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときは、ドアハンドルに触れるか、テールゲートのハンドルを引く（キーレスゴー装備車）
- キーがテールゲート側のキーレスゴーアンテナの検知範囲（▷71 ページ）にあるときは、テールゲートのハンドルを引く（キーレスゴー装備車）

燃料給油フラップを解錠する

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

キーからエマージェンシーキーを取り外す

▶ ストッパー①を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー②をキーから引き抜きます。

運転席ドアの解錠

左ハンドル車

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ エマージェンシーキーを運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置①にまわします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 右ハンドル車は時計回りに、左ハンドル車は反時計回りにまわします。

▶ ドアハンドルをいっぱいまで引きます。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ 再度ドアハンドルを引きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

! エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは解錠されません。

車両の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠できないときは、以下の方法で車を施錠してください。

▶ 助手席ドアと助手席側リアドア、テールゲートを閉じます。

▶ 運転席ドアと運転席側リアドアを開きます。

▶ 運転席ドアのドアロックスイッチ（施錠）（▷77 ページ）を押します。

▶ 助手席ドアと左右リアドアのロックノブが下がったことを確認します。

▶ 下がっていないときは、各ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 車を降り、運転席ドアを閉じます。

▶ 開いている運転席側リアドアから腕を伸ばして、運転席ドアのロックノブを押し込みます。

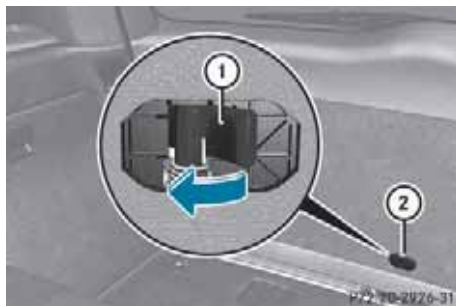
ℹ キーが車内になく、携帯していることを確認してください。

▶ 運転席側リアドアを閉じます。

▶ すべてのドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。

! ドアロックスイッチが作動せず、ロックノブを押し込んで車を施錠したときには、テールゲートが施錠されていないことがあります。このときは、車を施錠することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーの閉じ込みに注意してください。

テールゲート裏側のレバーでの解錠

テールゲート裏側のレバーで、テールゲートを解錠して開くことができます。

! テールゲートを開くときは、後方や上方に十分な空間があり、接触するおそれのないことを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ テールゲート裏側のカバー②を外します。

▶ レバー①を矢印の方向に操作しながら、テールゲートを開きます。

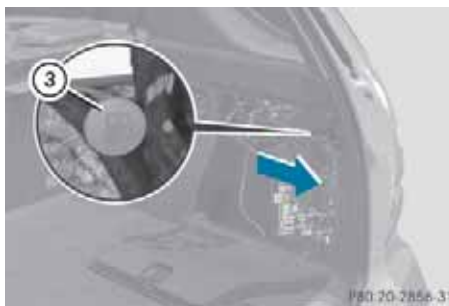
ℹ レバー①でテールゲートを解錠しても、ドアと燃料給油フラップは解錠されません。

ℹ レバー①で解錠した後に、テールゲートを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

燃料給油フラップの解錠

リモコン操作やキーレスゴー操作 * で解錠しても燃料給油フラップのロックが解除されないときは、手動でロックを解除します。

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジルーム右側のカバー②にある 2 カ所のクリップ①をコインなどで矢印の方向にまわし、カバー②を取り外します。

▶ 内部にあるノブ③をホルダーから外し、後方に引きます。

ロックが解除されます。

▶ 燃料給油フラップを開きます。

⚠ 警 告

ラゲッジルーム右側のカバーの内部には、金属が露出している部分や鋭利な部分があります。けがをしないように注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護できません。

ℹ このリセット作業は強い力が必要になるため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

▶ ヘッドレストの上部を①の方向に押します。

▶ ヘッドレストを②の方向にいっぱいまで押し下げます。

▶ ヘッドレストを③の方向に押して、確実にロックさせます。

もう一方のヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

❗ 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

キーの電池交換

リモコンの作動可能範囲が短くなったり作動しない場合は、キーの電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

⚠ 警 告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環 境

電池を家庭用ゴミとして廃棄しないでください。電池には非常に強い有毒物質が含まれています。

使用済みの電池は、新しい電池をお買い求めになった販売店に処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

▶ キーのいずれかのボタンを押します。

キーの表示灯 ① が一回点滅すれば電池は正常です。

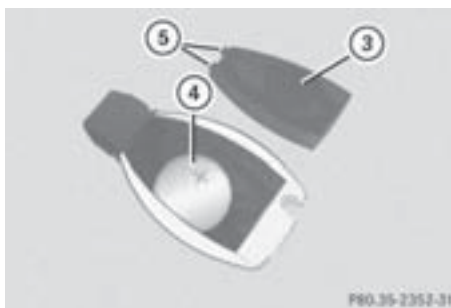
ℹ 車両の近くでキーの電池の点検を行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

電池の交換手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ℹ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手のひらに乗せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（+）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

▶ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認します。

▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

ランプ類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのランプ類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてランプが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したランプが点灯しない場合や、すぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! 電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

! 電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

! マルチファンクションディスプレイにランプに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷341 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

⚠ **警 告**

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球には圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- 電球を交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

⚠ **警 告**

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、バイキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧の発生部分や高温部分があり、それらに触れると非常に危険です。

バイキセノンヘッドランプの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

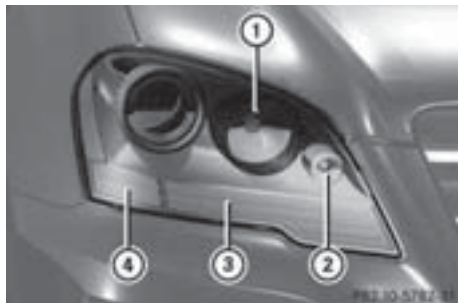
! LED やキセノンヘッドランプはユニット交換になるため、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換作業を行なってください。

ⓘ リアフォグランプは右側のみです。

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 電球の交換を行なうときは、実際に車両に装着されている電球の規格を確認してください。

ヘッドランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	ヘッドランプ上向き	55W（H7）
②	車幅灯 / フロントパーキングランプ	5W
③	フロント方向指示灯	21W（黄色）
④	フロント方向指示灯	5W（黄色）

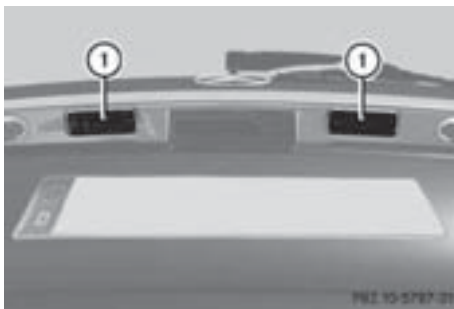
フロントフォグランプ（ML 63 AMG）

ランプ		ワット数（規格）
①	フロントフォグランプ	55W (H11)

テールランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	バックランプ	W16W
②	リアフォグランプ	W16W
③	リアフォグランプ	W16W

※ 上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

ライセンスランプ

ランプ		ワット数（規格）
①	ライセンスランプ	5W

ワイパーブレードの交換

フロントワイパーのワイパーブレード

⚠ 警 告

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回は交換してください。

⚠ 警 告

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードが取り付けられていない状態で、ワイパーアームを元の位置に戻さないでください。

! ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ワイパーアームがフロントウインドウに当たり、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードを取り外す

左ハンドル車

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にします。
- ▶ ワイパーアーム④を起こします。
- ▶ クリップ②を両側から押し込んでロックを外し、ワイパーブレード①を③の方向にまわします。
- ▶ ワイパーブレード①を⑤の方向に押してワイパーアーム④から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

左ハンドル車

- ▶ 新しいワイパーブレード①の取り付け部⑥をワイパーアーム④の先端⑤に合せます。
- ▶ クリップ②がロックされるまで、ワイパーブレード①を矢印③の方向に押し込みます。
- ▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。
- ▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

リアワイパーのワイパーブレード

⚠ **警 告**

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

ワイパーブレードを取り外す

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作 * でイグニッション位置を **0** にします。
- ▶ ワイパーアーム①をいっぱいまで起こします。
- ▶ ワイパーブレード②をまわして、ワイパーアーム①と垂直の位置にします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ワイパーブレード②を矢印の方向に取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、ワイパーアームに押し込んでロックします。

▶ ワイパーブレードが、ワイパーアームに確実に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ **警 告**

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱して、火災が発生するおそれがあります。

! 車速感応ドアロック（▷77 ページ）を設定した状態で車を押したり、車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

タイヤの修理およびタイヤ交換の準備

▶ AIR マティックサスペンション装備車は、車高が通常走行レベルになっていることを確認します（▷195、203 ページ）。

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ ステアリングを直進の位置にして、パーキングブレーキを確実に効かせます。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーレスゴースイッチ * でエンジンを停止したときは、運転席ドアを開きます。

▶ 車から降ります。

▶ ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ⓘ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤへの交換 *

⚠ 警告

- 応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず 80km/h 以下で走行してください。

  また、ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤは短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。
- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。

ⓘ ML 350 BlueTEC 4MATIC には、応急用スペアタイヤは車載されていません。

タイヤ交換の準備

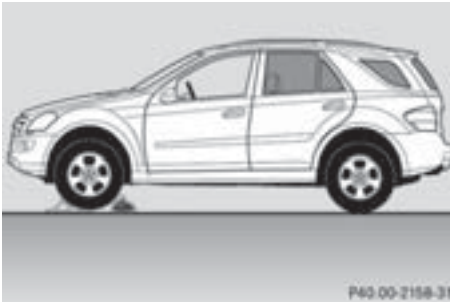
▶ 輪止め、ホイールレンチ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ガイドボルト、応急用スペアタイヤ、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト * を準備します（▷326 ～ 328 ページ）。

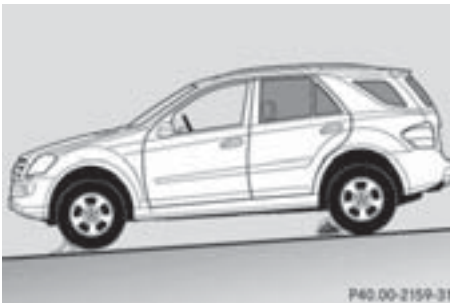
ML 63 AMG は、電動エアポンプも準備します。

! トレイや応急用スペアタイヤを取り出すときは、必ず保護のため手袋を着用してください。素手で作業するとけがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 応急用スペアタイヤは各車種専用です。他車のものは使用しないでください。

P40.00-2158-31

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

P40.00-2159-31

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

ℹ 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

ジャッキアップする

⚠ 警 告

急な斜面ではジャッキアップしないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。

- かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。
- この車のタイヤ交換以外には使用しないでください。
- 不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキを取り付ける前に、ジャッキサポートに付着した泥などを取り除いてください。

⚠ **警 告**

- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。ジャッキは車を一時的に持ち上げるときだけに使用してください。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやテールゲートを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。

▶ ホイールレンチ①で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

ℹ 伸縮式のホイールレンチが装備されているときは、ホイールレンチの柄を引いて伸ばしてください。

❗ ホイールレンチを使用するときに、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

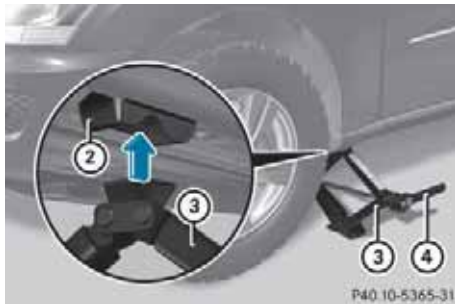
- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

ジャッキサポートは、前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所（矢印の位置）に設けられています。

⚠ **警 告**

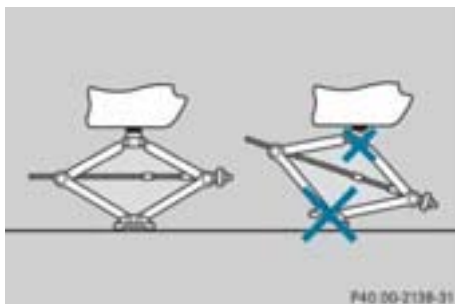
ジャッキサポート以外の場所にはジャッキを使用しないでください。ジャッキが外れてけがをしたり、車両を損傷するおそれがあります。

ジャッキは交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートで使用してください。また、ジャッキを使用する前に、ジャッキサポートに異物や汚れがないことを確認してください。

! ジャッキサポートに亀裂や損傷があるときは、作業を行なわないでください。

▶ ジャッキハンドル ④ を、"AUF UP" の文字が手前にくるようにして、ジャッキ ③ のダイヤル部に取り付けます。

▶ ジャッキ ③ の先端および底面が、交換するタイヤに近いジャッキサポート ② の真下になるように、ジャッキ ③ を地面に置きます。

▶ ジャッキハンドル ④ を繰り返し操作して、ジャッキ ③ の先端をジャッキサポート ② に合わせます。

このとき、ジャッキの底面を確実に地面に接地させます。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ タイヤが地面から最大 3cm 離れるまで、ジャッキハンドル ④ を繰り返し操作します。

⚠ **警 告**

ジャッキの先端がジャッキサポートに正しく取り付けられていることを確認してください。ジャッキが外れると、けがをしたり車を損傷するおそれがあります。

! ジャッキアップする前に乗員や荷物を車から降ろしてください。

! 側面から見て、ジャッキが垂直になるように取り付けてください。

タイヤの取り外し

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ そのネジ穴にガイドボルト①をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

! ホイールボルトに砂や泥が付着しないように注意してください。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

! ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを取り付ける

⚠ 警告

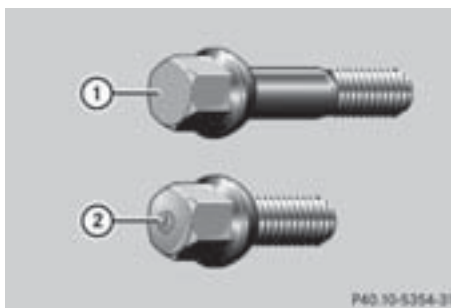
ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

⚠ 警告

ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

装着されているホイールにより、応急用スペアタイヤに使用するホイールボルトが異なります。

ML 350 4MATIC

応急用スペアタイヤ用の短いホイールボルト②を使用してください。標準ホイールに使用されている、長いホイールボルト①は使用しないでください。

ML 63 AMG

標準ホイールに使用されている、長いホイールボルト①を使用してください。

ℹ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤのホイールに添付されているか、応急用スペアタイヤの下や横に収納されています。

応急用スペアタイヤのホイールに添付された、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト②

! ML 350 4MATIC に応急用スペアタイヤを装着する場合は、必ずホイールボルト②を使用してください。

標準タイヤのホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けると、ホイールを十分に固定することができず、走行中にタイヤが外れたり、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤの取り付け

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面に砂や汚れなどがないことを確認します。

▶ ガイドボルトに合わせて応急用スペアタイヤを取り付けます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付けて、対角線の順番に軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5 本目のホイールボルトを取り付けて、軽く締め付けます。

応急用スペアタイヤに空気を入れる（ML 63 AMG）

車種や仕様により車載されている電動エアポンプが異なります。

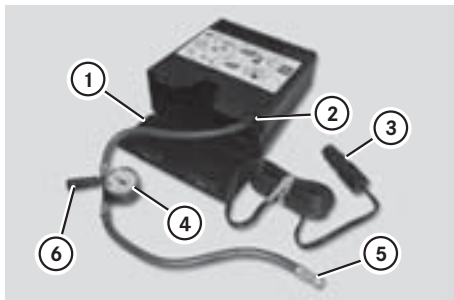
⚠ 警 告

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- 必ず応急用スペアタイヤに空気を入れてからジャッキダウンしてください。ホイールリムを損傷するおそれがあります。

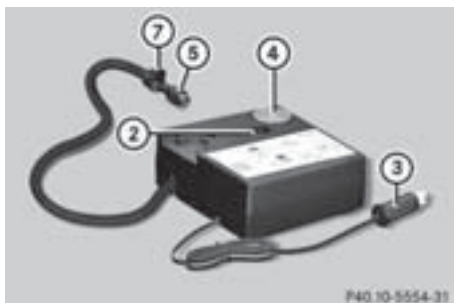
⚠ 警 告

電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに貼付されている取扱方法も参考にしてください。

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なる場合があります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

空気圧ゲージ別体型

▶ フラップ①を開いて電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

▶ 空気圧調整バルブ⑥が閉じていることを確認します。

空気圧ゲージ一体型

▶ 電動エアポンプの裏面から電源プラグ③とエアホース⑤を取り出します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を応急用スペアタイヤのバルブに取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ②を **0**（停止の位置）にします。

▶ 12V 電源ソケット（▷265 ページ）に、電源プラグ③を差し込みます。

! センターコンソールのライター用ソケットには電源プラグ③を差し込まないでください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

電動エアポンプの電源スイッチ②を **I**（作動の位置）にします。

▶ 電動エアポンプが作動して、応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

▶ 空気圧ゲージ④が 3.5 バールになったら電動エアポンプの電源スイッチ②を **0**（停止の位置）にします。

▶ 3.5 バールを超えたときは、空気圧調整バルブ⑥をゆるめるか、空気圧調整ボタン⑦を押して空気を抜いて調整します。

▶ 12V 電源ソケットから電源プラグ③を抜き、応急用スペアタイヤのバルブからエアホース⑤を取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤのバルブキャップを取り付けます。

! 電動エアポンプを作動させるときは、電動エアポンプに貼付されている取扱方法も参考にしてください。

! 応急用スペアタイヤを取り付ける前に、応急用スペアタイヤに空気を入れないでください

! 電動エアポンプの最大連続作動時間を守ってください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。最大連続作動時間は、電動エアポンプに貼付されているステッカーに記載されています。

! 電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

! 電動エアポンプを作動させているときはエンジンを始動しないでください。

! 電動エアポンプやエアホースは作動中に金属部分などが熱くなります。必ず手袋をして作業してください。

ジャッキダウン

▶ ジャッキハンドルを、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けます。

▶ ジャッキハンドルを繰り返し操作し、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

! ジャッキハンドルは、"AB DOWN" の文字が見える面が手前にくるように取り付けないと、ジャッキダウンできません。

ホイールボルトの締め付け

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 15kg-m（150Nm）です。

⚠ 警告

ホイールを交換した後は、すみやかにホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 外したタイヤは車載の収納カバー * に入れてラゲッジルーム内に収納し、確実に固定してください。

タイヤサイズにより、応急用スペアタイヤの収納スペースに収納できる場合があります。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

タイヤフィットでの修理 *

タイヤフィットが車載されている車種は、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理します。

パンクしたタイヤをタイヤフィットで修理すると、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が－20℃以上のときに使用できます。

⚠ 警告

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。
  - ◇タイヤの傷が約4mm以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
  - ◇タイヤの接地面以外に傷がある場合
  - ◇ホイールに損傷がある場合
  - ◇タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

  このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

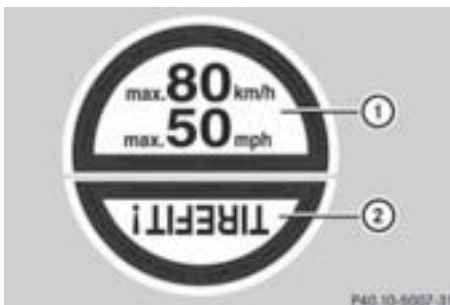
! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

タイヤフィットの準備

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。

▶ ラゲッジフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

▶ タイヤフィットに付属の最高速度表示のステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼ります。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィット使用表示のステッカー②を貼ります。

⚠ **警告**

タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。

- 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
- タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

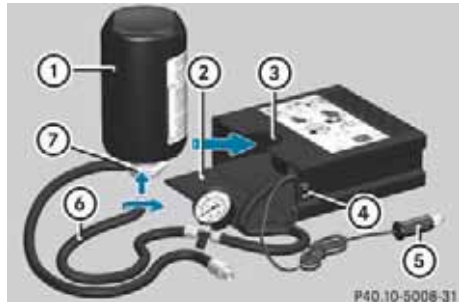
ⓘ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

⚠ **警告**

使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

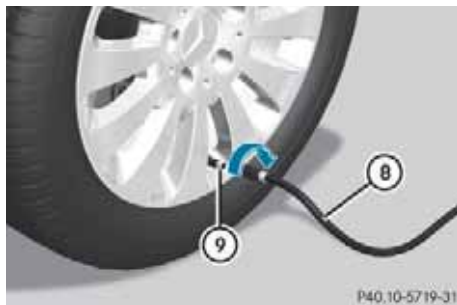
タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプのフラップ②を開きます。

▶ 電源プラグ⑤とエアホース⑥を取り出します。

▶ エアホース⑥をタイヤフィット①のバルブ⑦に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑦を下にして持ち、電動エアポンプの凹部③に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑨からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 空気圧調整バルブ⑩が閉じていることを確認します。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 12V 電源ソケット（▷265 ページ）に、電源プラグ⑤を差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

❗ 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり､火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑥を、タイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ 警告

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ 12V 電源ソケットから電源プラグ⑤を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑨からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑥を修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージ⑪でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ 警告

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達するまで、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えた場合は、空気圧ゲージ⑪の空気圧調整バルブ⑩を緩めて調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ 警 告

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約80km/h です。

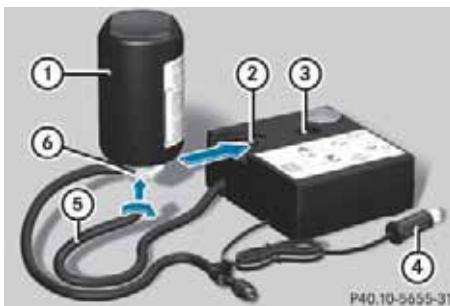
最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環 境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

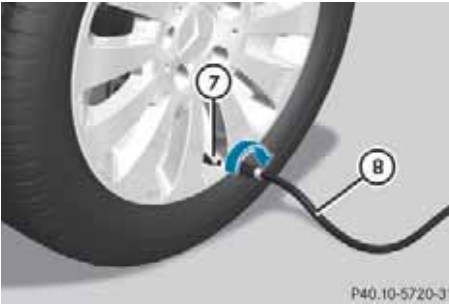
▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ④とエアホース⑤を取り出します。

▶ エアホース⑤をタイヤフィット①のバルブ⑥に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑥を下にして持ち、電動エアポンプの凹部②に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑦からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 12V 電源ソケット（▷265 ページ）に、電源プラグ④を差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ⓘ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 5 バールまで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 1.8 バールに達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

電動エアポンプを約 5 分間作動させても、空気圧が 1.8 バールに達しない場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にして、タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外し、タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 電動エアポンプからタイヤフィット①を取り外します。

▶ 電動エアポンプのエアホース⑤を、タイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

⚠ **警告**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 1.8 バールに達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 1.8 バールに達している場合：

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を 0（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ 12V 電源ソケットから電源プラグ④を抜きます。

▶ タイヤのバルブ⑦からタイヤフィットのホース⑧を取り外します。

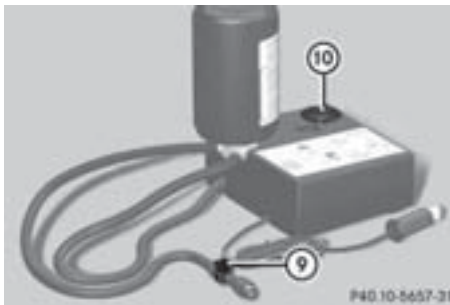
! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホース⑤を修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージ⑩でタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **警告**

空気圧が 1.3 バール以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 1.3 バール以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

規定の空気圧に達するまで、電動エアポンプでタイヤに空気を入れます。

規定の空気圧を超えた場合は、タイヤフィットのホース⑧の先端にある空気圧調整ボタン⑨を押して調整します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

⚠ **警 告**

タイヤフィットでタイヤを修理した後に走行するときの最高速度は約80km/h です。

最高速度のステッカー "max. 80km/h" は、必ず運転者の見やすい場所に貼ってください。

車両操縦性に変化が現れることがあります。カーブ走行時やブレーキ時には慎重に運転してください。

環 境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

	爆発の危険があります。
	バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。 火花が出ないように注意してください。
	バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。 手袋やエプロン、マスクを着用してください。 バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

	バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。
	子供を近付けないでください。
	取扱説明書の指示に従ってください。

⚠ **警告**

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

i 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを取り外してください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

i バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

環境

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

バッテリーの位置

バッテリーは右側フロントシート下部にあります。

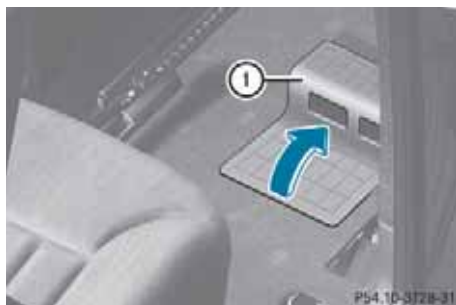
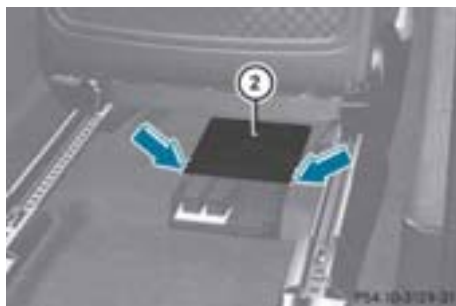
! 他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動するときは、エンジンルーム内の端子にブースターケーブルを接続してください（▷390 ページ）。

バッテリーの交換

この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼することをお勧めします。

▶ パーキングブレーキを確実に効かせて、シフトポジションを P にします。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 右側フロントシートをいっぱいまで前方に動かします。

▶ バッテリーカバー①を矢印の方向に持ち上げて取り外します。

▶ ミシン目がある位置まで、白い点線に沿ってカーペット②にカッターなどで切り込みを入れます。

! カッターなどでカーペットに切り込みを入れるときは、けがをしないように十分注意してください。

▶ 右側フロントシートをいっぱいまで後方に動かします。

▶ カーペット②の後端を矢印の方向にめくります。

▶ 右側フロントシートをいっぱいまで前方および上方に動かします。

▶ 固定クリップ④を取り外します。

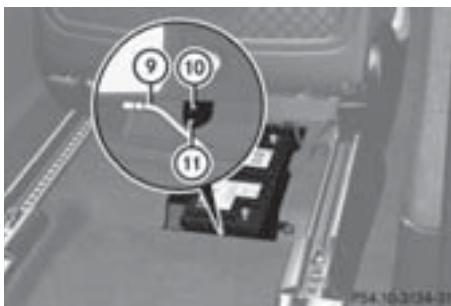
▶ エアダクト③を矢印の方向に引き抜きます。

▶ 保護カバー⑤をバッテリー⑥から取り外します。

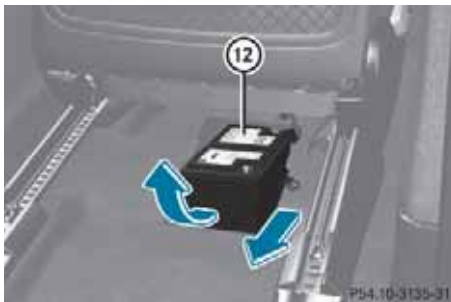
▶ バッテリーから⊖端子⑧を取り外し、後から外す⊕端子⑦と接触しない場所に置きます。

▶ ⊕端子⑦のカバーを取り外します。

▶ バッテリーから⊕端子⑦を取り外します。

バッテリーの取り外し

▶ ブリーザーホース⑨を取り外します。

▶ 取り付けボルト⑩を取り外します。

▶ ブラケット⑪を取り外します。

▶ バッテリー⑫を矢印の方向に持ち上げて取り出します。

バッテリーの接続 / 取り付け

⚠ **警 告**

バッテリーを接続するときは、以下の手順を守って、端子の取り付け方を絶対に間違えないようにしてください。ショートして火傷をするおそれがあります。また、車両の電気装備を損傷するおそれがあります。

▶ 電気装備をすべて停止します。

▶ 取り外したときと逆の手順でバッテリーを取り付けます。

▶ ⊕端子⑦を取り付け、保護カバー⑤も取り付けます。

▶ ⊖端子⑧を取り付けます。

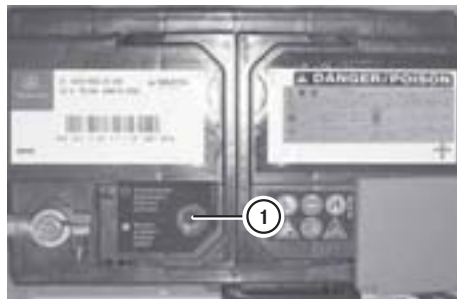
▶ 取り外したときと逆の手順で車両を元の状態に戻します。

ⓘ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- ドアウインドウのリセット
- スライディングルーフ * のリセット
- 施錠時のドアミラー格納のリセット

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面に VRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター①があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター①は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。ブースターケーブルは、十分な容量と太さのあるケーブルを使用してください。

他車のバッテリーとブースターケーブルを接続するときは、エンジンルームの向かって左側にある⊕端子と⊖端子にブースターケーブルを接続します。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

- エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。
- バッテリーが凍結しているときはエンジン始動を行なわないでください。
- 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。
- 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

⚠ **警 告**

- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一、爆発したときにけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動するときは、バッテリーを傾けないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

ℹ 放電したバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（約 50℃以下）、バッテリー液を解凍してからエンジンを始動してください。

ℹ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- COMAND システムの再設定
- ドアウインドウのリセット
- スライディングルーフ * のリセット
- 施錠時のドアミラー格納のリセット

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンが暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

! ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

始動の方法

▶ バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリー容量が同程度の救援車を用意します。

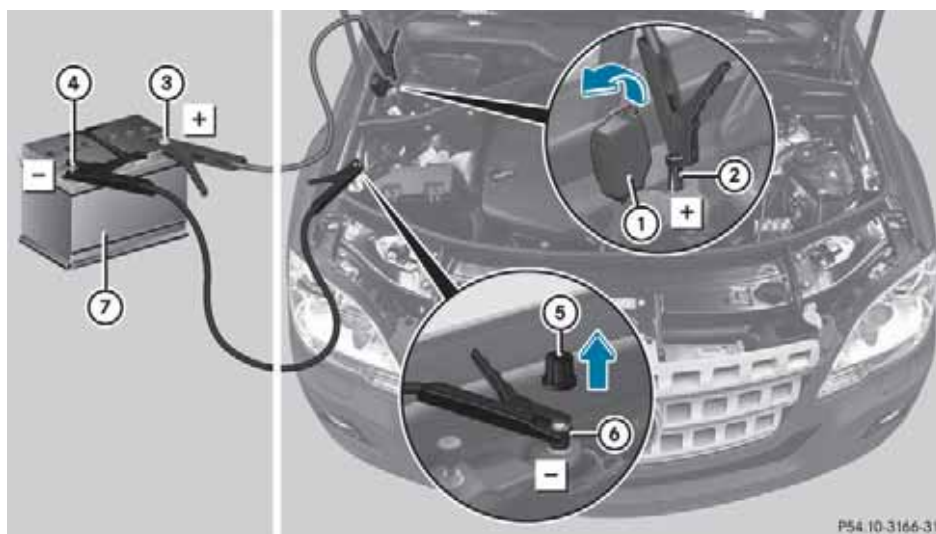
▶ 自車と救援車が接触していないことを確認してください。

▶ パーキングブレーキを効かせてください。

▶ シフトポジションを P にしてください。

▶ 救援車のエンジンを停止します。

▶ 両車のイグニッション位置を **0** にして、電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

▶ 自車の⊕端子カバー①を矢印の方向に開きます。

▶ 自車の⊕端子②に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリー⑦の⊕端子③に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリー⑦の⊖端子④に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 車種や仕様により、自車の⊖端子⑥にキャップ⑤が取り付けられているときは、キャップ⑤を取り外します。

▶ 自車の⊖端子⑥に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ 黒色ブースターケーブルを両車のバッテリーの⊖端子から外します。

先に自車の⊖端子⑥に接続している黒色ブースターケーブルを外します。

▶ 赤色ブースターケーブルを両車のバッテリーの⊕端子から外します。

先に自車の⊕端子②から外します。

▶ 必要のない電気装備を停止します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

けん引

けん引時の注意

⚠ 警告

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。

! けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! トランスミッションを損傷しているときは、車両運搬車で移送してください。

! やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従ってください。

! けん引されるときは、けん引防止警報機能 * を解除してください（▷ 64 ページ）。

! けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷ 165 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! プロペラシャフトの取り付けナットは再使用できません。プロペラシャフトを取り付けるときは、必ず新品の取り付けナットを使用してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

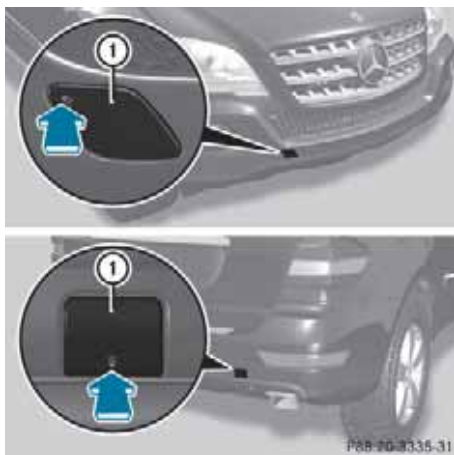
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

けん引フックの取り付け

⚠ 警告

リアのカバーを取り外すときは、マフラーに注意してください。マフラーは高温になるため、マフラーに触れると火傷をするおそれがあります。

けん引フックの取り付け位置

フロントの取り付け位置

フロントバンパーの向かって左側にあります。

▶ マーク部を押して、カバー①を外します。

リアの取り付け位置

リアバンパーの向かって右側にあります。

▶ マーク部を押して、カバー①を外します。

※ 車種や仕様により、カバー①の形状やマーク部の位置は異なります。

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷326 ページ）からけん引フックを取り出します。

▶ 内部のネジ穴に、けん引フックを時計回りにまわしてねじ込み、止まるまで手で締め込みます。

▶ さらに、ホイールレンチ * の柄の部分などを使用して確実に締め付けます。

けん引フックを取り外す

▶ ホイールレンチ * の柄の部分などを使用して、けん引フックを反時計回りにまわします。

▶ けん引フックを取り外します。

▶ けん引フックのカバーを取り付けます。

▶ けん引フックを車載工具に収納します。

けん引する

エンジンが始動できるとき

▶ エンジンを始動し、シフトポジションを N にします。

エンジンが始動できないとき

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、イグニッション位置を **2** にして、ブレーキペダルを踏みながらシフトポジションを N にします。

▶ イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチにキーを差し込んだままにします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! けん引されるときは、エンジンスイッチにキーが差し込んであり、シフトポジションが N になっていることを確認してください。

エンジンスイッチからキーを抜いたり、シフトポジションが D や R のときにフロントドアを開くと、シフトポジションが P になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

ぬかるみなどからけん引するとき

ぬかるみなどで動けなくなったときは、以下の点に注意してけん引してください。

- 車を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。車体を損傷するおそれがあります。
- トレーラーをけん引している場合は、絶対にトレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

  この場合はトレーラーを外し、車両後部のトレーラーカップリングを引くようにし、できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ引き出してください。

けん引するときの注意

トランスファー * やアクスルが故障しているときは、以下の点に注意してけん引してください。

この作業はできるだけ専門業者に依頼してください。

! トランスファーやアクスルが故障したときは、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されます。詳しくは(▷ 338、339 ページ)をご覧ください。

トランスファーが故障しているとき

▶ 前後のアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

フロントアクスルが損傷しているとき

▶ リアアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ フロントアクスルを上げてけん引します。

リアアクスルが損傷しているとき

▶ フロントアクスルとトランスファーの間のプロペラシャフトを外します。

▶ リアアクスルを上げてけん引します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

バッテリーがあがっているときや電気装備が故障しているとき

バッテリーがあがっているときや電気装備が故障しているときは、シフトポジションが P にロックされることがあります。シフトポジションを N にするには、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーから電力を供給してください（▷390 ページ）。

それでもシフトポジションを N にできないときはメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ 警告

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! 以下のようなときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- ヒューズを交換してもすぐに切れるとき
- ヒューズに異常はないが、電気装備が作動しないとき

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときに、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

! ヒューズボックスのカバーは、ヒューズボックスに密着するように取り付けてください。ほこりや湿気が入るおそれがあります。

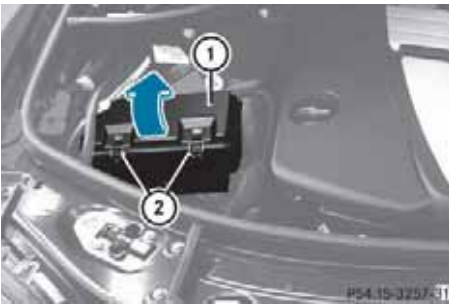
! ヒューズボックスを開くときに、先のとがったものを使用しないでください。カバーやダッシュボードを損傷するおそれがあります。

! エンジンルーム内のヒューズボックスを点検するときは、必ずワイパーを停止して、エンジンスイッチからキーを抜いてください。ワイパーが作動するとけがをするおそれがあります。

ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- エンジンルーム向かって左側
- ラゲッジルーム右側
- グローブボックス横

エンジンルームのヒューズボックス

▶ 2 カ所のフック②を外し、カバー①を取り外します。

ラゲッジルーム右側のヒューズボックス

▶ コインなどを使用して、クリップ①を矢印の方向にまわします。

▶ カバー②を取り外します。

グローブボックス横のヒューズボックス

左ハンドル車

▶ グローブボックスを開きます。

▶ カバー①の切り欠き部に指をかけて、矢印の方向に開きます。

カバーを取り付けるときは、最初にカバーの前部を A ピラーの内側に差し込みます。

! ヒューズボックスを開くときに、ドライバーなど先のとがった物を使用しないでください。ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。

ヒューズを交換する

▶ 停車します。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、ヒューズが切れている（溶断）ときは、同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズ一覧

エンジンルーム

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
100	30A	フロントワイパー
101	15A	エンジン制御
102	10A	エンジンコントロールユニット
103	20A	エンジン制御
104	15A	エンジン制御
105	15A	エンジン制御、エンジンスターター
106	–	未使用
107	40A	二次エアポンプ
108	40A	AIR マティックサスペンション、車高コントロールユニット
109	25A	ESP
110	10A	ホーン（盗難防止警報システム）
111	30A	オートマチック、トランスミッション
112	7.5A	ヘッドランプ光軸自動調整
113a	15A	ホーン
114	5A	エンジンコントロールユニット
115	5A	ESP
116	7.5A	オートマチックトランスミッション
117	7.5A	オプション
118	5A	エンジンコントロールユニット
119	5A	エンジンコントロールユニット
120	10A	エンジンコントロールユニット
121	20A	余熱ヒーター
122	25A	エンジンスターター
123	20A	ディーゼルフィルターヒーター
124	7.5A	パワーステアリング
125	–	未使用

グローブボックス横

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
10	10A	リアエアコンディショナーブロアモーター
11	5A	インストルメントパネル
12	15A	エアコンディショナーモジュール
13	5A	ステアリング調整、スイッチパネル
14	7.5A	エンジンスイッチ
15	5A	コンパスモジュール、メディアインターフェース
16	–	未使用
17	–	未使用
18	–	未使用

ラゲッジルーム内右側

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
20	5A	アンテナ
21	5A	リアコントロールパネル
22	5A	パークトロニック、余熱ヒーター
23	10A	携帯電話ユニット
24	40A	シートベルトテンショナー
25	15A	ラジオ
26	25A	助手席側ドアコントロールユニット
27	30A	助手席シート調整
28	30A	運転席シート調整
29	40A	シートベルトテンショナー
30	40A	燃料ポンプコントロールユニット
31	10A	オプション
32	15A	AIR マティックサスペンション、車高コントロールユニット
33	25A	キーレスゴー

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
34	25A	運転席側ドアコントロールユニット
35	30A	オーディオアンプ
36	10A	VICS
37	5A	パーキングアシストリビューカメラ
38	10A	COMAND システム
39	7.5A	COMAND システム
40	30A	EASY-PACK 自動開閉テールゲート
41	25A	ルーフユニット
42	25A	スライディングルーフ
43	20A	燃料ポンプコントロールユニット
44	–	未使用
45	20A	12V 電源ソケット（センターコンソール後端、ラゲッジルーム）
46	15A	ライター
47	10A	オプション
48	5A	リアディファレンシャルロック、BlueTEC
49	30A	リアデフォッガー
50	15A	リアワイパー
51	5A	エンジンコントロールユニット
52	5A	リアディファレンシャルロック
53	5A	AIR マティックサスペンション、車高コントロールユニット、燃料ポンプコントロールユニット、リアディファレンシャルロック
54	5A	ヘッドランプ光軸自動調整
55	7.5A	インストルメントパネル、ランプスイッチ
56	5A	BlueTEC
57	20A	燃料ポンプ

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
58	7.5A	診断ソケット
59	7.5A	NECK PRO アクティブヘッドレスト
60	5A	グローブボックスランプ、マルチコントロールシートバック、フロントワイパー、VICS システム、パーキングアシストリアビューカメラ
61	7.5A	エアバッグシステム
62	30A	助手席シート調整
63	30A	運転席シート調整
64	–	未使用
65	–	未使用
66	30A	マルチコントロールシートバック
67	25A	リアファン
68	25A	オプション
69	30A	リアディファレンシャルロック
70	–	未使用
71	–	未使用
72	–	未使用

(2009-05-05 A164 006 67 99)

ⓘ ヒューズ配置表（英文）は、車載工具またはラゲッジフロアボード下にも収納されています。ヒューズ配置表にはヒューズ容量も記載されています。

ⓘ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

⚠ 警告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

環境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

ℹ 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

車両の電子制御部品について

⚠ 警告

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の使用に対する適合性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

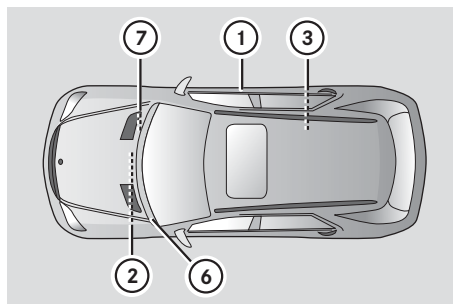
! ウインドウに透明な吸盤を貼付しないでください。透明な吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- ドア
- ピラー付近
- サイドシル付近
- シート
- ダッシュボード
- インストルメントパネル
- センターコンソール
- エアバッグ収納部
- シートベルト

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ビークルプレート

純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

① ニューカープレート
② エンジン番号
③ 車台番号
⑥ 車台番号
⑦ オプションコードプレート

ニューカープレート

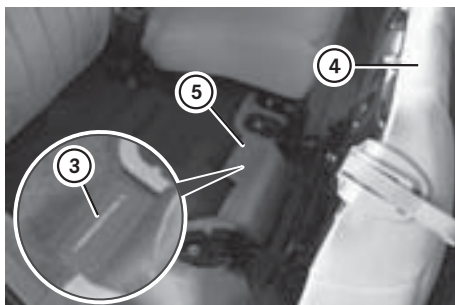
運転席側または助手席側のセンターピラー下部に、車台番号およびカラーコードなどを記載したニューカープレート①が貼付されています。

エンジン番号

ML 350 4MATIC

エンジンブロックのクランクケースにエンジン番号 ② が打刻されています。

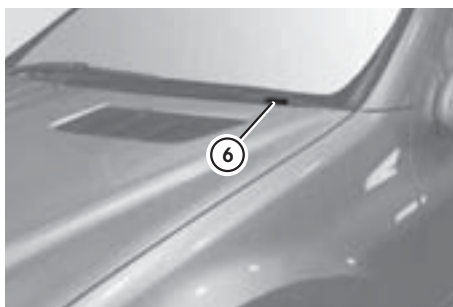
詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車台番号

右側リアシート下部のボディフレームに車台番号③が打刻されています。

車台番号を確認する

▶ 右側のリアシートクッション④を引き起こします。

▶ カーペット⑤をめくり上げます。

フロントウインドウ下部の図の位置にも車台番号⑥が打刻されています。

オプションコードプレート

ボンネット裏側にオプションコードを記載したオプションコードプレート⑦が貼付されています。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料（ガソリン、軽油など）
- 排気ガス処理装置添加剤（AdBlue®）
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずDaimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

⚠ **警 告**

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、すぐに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

燃料

⚠ **警 告**

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ **警 告**

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 95 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 13 ℓ
警告灯点灯時の残量（ML 63 AMG）	約 15 ℓ

! ガソリンエンジン車には軽油を給油しないでください。また、ディーゼルエンジン車にはガソリンを給油しないでください。少量でもガソリンと軽油が混じると燃料噴射システムとエンジンを損傷するおそれがあります。誤った燃料を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! ガソリンエンジン車の燃料には無鉛プレミアムガソリン、ディーゼルエンジン車の燃料には自動車用の軽油を使用してください。指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。

i ディーゼルエンジン車の指定燃料は自動車用の軽油になります。

自動車用の軽油とは、JIS 規格（JIS K 2204）を満たす軽油を示します。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

環 境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

AdBlue®

i ML 350 BlueTEC に対応した項目です。

AdBlue® は非可燃性で無害、無色・無臭で、水溶性の液体です。

! ISO22241 に準拠した AdBlue® のみを使用してください。特別な添加剤は使用しないでください。

! 補充を行なっているときに、カーペットや塗装面などの表面に AdBlue® が付着したときは、十分な水でただちに洗い流してください。さらに、流した後にただちに、湿らせた布と冷水で AdBlue® を拭き取ってください。AdBlue® が結晶化してしまったときは、スポンジと温水で取り除いてください。AdBlue® の残留物は、一定時間後に結晶化し、表面を損傷させます。

外気温度が高いとき

AdBlue® タンクに直射日光が当たったときなど、AdBlue® が一定時間、50℃以上で熱されたときは、AdBlue® は分解されることがあります。その結果、気化したアンモニアが発生します。

⚠ **警告**

高温の状態で AdBlue® タンクのキャップが開いていると、気化したアンモニアが出てくる場合があります。気化したアンモニアには刺激臭があり、皮膚や粘膜、目がヒリヒリしてきます。その結果、咳き込んだり涙目になるとともに、目や鼻、のどに炎症が起きることがあります。

気化したアンモニアを吸い込まないようにしてください。

外気温度が低いとき

AdBlue® は、約 -11℃以下で凍結します。車両には、標準装備で AdBlue® 予備ヒーターが装備されています。そのため、気温が -11℃以下になる冬季でも、作動が保証されています。

特別な添加剤

! ISO22241 に準拠した AdBlue® のみを使用してください。AdBlue® に特別な添加剤を加えたり、水で薄めないでください。

BlueTEC 排気ガス処理装置を損傷するおそれがあります。

添加剤などの使用や水分による損傷は、保証の適用外になります。

純度

BlueTEC 排気ガス処理装置の故障を防ぐためには、AdBlue® の純度が特に重要になります。

補修作業の途中などで AdBlue® を AdBlue® タンクから汲み出したときは、液体の純度が保証できなくなるため、汲み出した AdBlue® をタンクに戻さないでください。

! AdBlue® 内の不純物（他のサービスプロダクト、クリーナー、ホコリなど）は、排出物量の増加やシステムの故障、触媒コンバーターの損傷、BlueTEC システムの損傷につながります。

車種	AdBlue® タンク全容量
ML 350 BlueTEC 4MATIC	約 26.6 ℓ

エンジンオイル

! エンジンオイルの添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

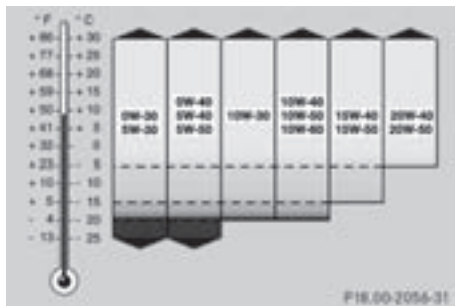
エンジンオイル容量

車種	容量
ML 350 BlueTEC 4MATIC	約 8.5 ℓ
ML 350 4MATIC	約 8.0 ℓ
ML 63 AMG	約 9.7 ℓ （オイルクーラー分を含む）

ⓘ 容量は、オイルフィルター分を含む交換時の数値です。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

⚠ **警 告**

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **警 告**

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	－ 37℃
約 55%	－ 45℃

! 不凍液の濃度は約 50% から約 55% の間にしてください。濃度を約 55% 以上にすると、冷却性能が低下します。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

ウォッシャー液

⚠ 警告

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

バッテリー

車載バッテリーの電圧 / 容量

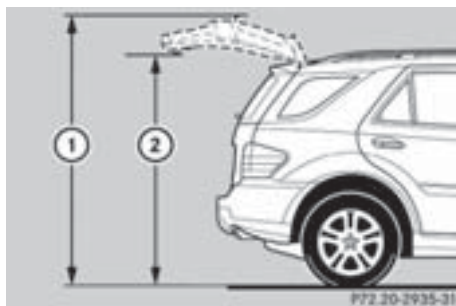
電圧	12V
容量	95Ah

※ バッテリーの容量は、予告なく変更されることがあります。

積載荷物の制限重量

車種	ルーフレール
全車	100kg

i ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

テールゲートを開いたときの高さ

① テールゲートを開いたときの高さ（外側）
② テールゲートを開いたときの高さ（内側）

テールゲートをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

	①	②
ML 350 BlueTEC 4MATIC ML 350 4MATIC	2119 ～ 2129mm	1985 ～ 1995mm
ML 63 AMG	2084 ～ 2164mm	1951 ～ 2031mm

ℹ タイヤ、積載荷物、オプション装備品やサスペンションの状態などにより、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

ℹ 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷289 ページ）。

ℹ 左右には必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

ℹ 標準タイヤとウィンタータイヤ、ランフラットタイヤなど、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

ℹ タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ / ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
ML 350 BlueTEC 4MATIC	255 / 50R19	8.0J × 19	60mm
ML 350 BlueTEC 4MATIC グランドエディションパッケージ	255 / 50R19	8.0J × 19	60mm
ML 350 4MATIC グランドエディション	255 / 50R19	8.0J × 19	60mm
ML 350 4MATIC ラグジュアリーパッケージ	255 / 50R19	8.0J × 19	60mm
ML 63 AMG	295 / 35R21	10.0J × 21	46mm

! ML 63 AMG には、スノーチェーンを装着しないでください。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、上記のサイズに対応していないことがあります。

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
17 インチホイール	235 / 65R17	7.5J × 17	56mm
18 インチホイール	255 / 55R18	8.0J × 18	60mm
19 インチホイール	255 / 50R19	8.5J × 19	58mm
19 インチホイール	前輪 255 / 50R19 後輪 285 / 45R19	前輪 8.5J × 19 後輪 9.5J × 19	前輪 60mm 後輪 56mm
20 インチホイール	265 / 45R20	8.5J × 20	55mm
20 インチホイール	295 / 40R20	10.0J × 20	46mm

! 19 インチ /20 インチのタイヤ / ホイールには、スノーチェーンを装着しないでください。

応急用スペアタイヤ *

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	空気圧
ML 350 4MATIC	T155 / 90 D 18	4.0B × 18	40mm	4.2bar/ 61psi/ 420kpa
ML 63 AMG	185 / 65-19	5.5B × 19	13mm	3.5bar/ 51psi/ 350kpa

! 応急用スペアタイヤにスノーチェーンを装着しないでください。

i ML 350 BlueTEC 4MATIC には、応急用スペアタイヤは装備されません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

対象モデル

ML 350 BlueTEC 4MATIC
ML 350 4MATIC
ML 63 AMG

※この取扱説明書の内容は、2011 年 2 月現在のものです。